

ロータリーの友

ロータリーの友2月号 第63巻 第2号
平成27年2月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻746号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 一般社団法人ロータリーの友事務所

2

2015

THE ROTARY-NO-TOMO FEBRUARY 2015 VOL.63 NO.2



特集 世界理解月間

世界に広がる私たちのネットワーク

GLOBAL OUTLOOK

ロータリアンのための

ロータリー財団の資金モデル入門

Rotary 



愛は憎しみより力強いものです。
憎しみの半分を愛に与えてください。
もう戦争など起こらないでしょう。

ロータリーの創始者 ポール・ハリス





ロータリーストーリー を分かち合いましょう



黄其光 (Gary C.K. Huang)

2014 - 15 年度 RI 会長
台湾・台北 RC

親愛なるロータリアンの皆さん、国際ロータリー (RI) の会長として、どこでロータリアンに会っても、彼らを励まし、鼓舞することが私の仕事だと思っています。また、彼らが話さずにはいられないことに耳を傾けるのも務めだと思っています。成功しているプロジェクトであっても、困難な課題であっても、あるいは素晴らしいロータリーデーについてでも、新しいアイデアについてでも、私はロータリアンが考えていること、実施していること、計画していることを聞きたいと思っています。ですから、訪問先ではいつも、ホストの方々に自分たちのクラブについて話して下さるようお願いいたします。うまくいっていることは何か、どのようなところを改善する必要があると考えているのか、RI の本部はどのような支援ができるのか……。

ロータリーの素晴らしさを教えてくれる ストーリー

その答えは常に興味深いもので、驚かされることもよくあります。私に建設的な提案やアイデアがあることもありますし、プロジェクトを進めるよう仲介できることもあります。私たちが決定をしていく上で参考になるアイデアや見識をエバンストンに持ち帰ることもしばしばです。しかし、これらの会話の中で私が最も価値があると考えているのは、ロータリーについて語られたストーリーです。

アトランタで私は、学校の先生たちを表彰するロータリーのイベントに出席し、リテラシー (識字) という贈り物について、そしてそれが人生をいかに変えるかという話をいくつも聞きました。イスタンブールでは、車いすのレースに出席し、体の不自由な人たちの人生を向上させるためにトルコのロータリアンたちがどのように活動をしているかを知りました。ペルーのリマでは、ロータリークラブに誘われるのを 20 年近くも待っていたという元 GSE (研究グループ交換) のチームメンバーと話をし、ロータリーに戻ってきたことで彼女の人生がどんなに変わったかにつ

いて聞きました。

私たちのストーリーから生まれる可能性

面白い話も、感動で涙があふれるような話もありました。私たちの奉仕が他人の人生をいかに変えたか、そして自分たちがロータリアンとしていかに変わったか、という話を私は聞いてきました。このような話を聞くと、もっと多くの人をロータリーに連れてくることで、どれだけ多くの人々の生活をより良いものにしてあげられることだろう、とか、私たち自身のロータリーストーリーをただ分かち合うだけで、どれほど多くの人をロータリーに連れてくることができるだろうなどと考えずにはられません。

今年度、私は皆さんに自身のロータリーストーリーを分かち合うようお願いします。それらをお友達や、ソーシャルメディア、Rotary.org を通して話してください。ロータリーストーリーは、私たちにひらめきを与え、ほかの人たちにはロータリーへの入会を促します。私たちがロータリーに輝きを与える活動をすれば、私たちのストーリーは私たちの奉仕に輝きを与えてくれます。

Gary C.K. Huang

2014-15 年度 国際ロータリー会長

ROTARY
JAPAN
Home Page 
www.rotary.or.jp

『Rotary Japan』のホームページに、英文の RI 会長メッセージを掲載しています。

2月は世界理解月間です
2月23日はロータリー創立記念日です

- 3 RI 会長メッセージ
ロータリーストーリーを分かち合いましょう 
RI 会長 黄 其光

- 26 ロータリーデー
君津RC / 不破RC / 一宮中央RC / 東京世田谷南RC /
木更津RC / 北見RC・北見西RC /
奄美RC ロータリーデー実行委員長 喜入 厚 /
アメリカ

- 30 視点 ガバナーのページ
第2500地区 奥 周盛 / 第2510地区 羽部 大仁
第2520地区 山口 淑子 / 第2530地区 野崎 潔
第2540地区 遠藤 芳徳 / 第2550地区 長嶋 一郎
第2560地区 佐々木昌敏 / 第2570地区 坂本 元彦

- 34 心は共に 東日本大震災
金沢西RC 田辺 邦雄 / 南陽臨雲RC 高橋 和義 /
東京青山RC 浜田かつみ / 郡山南RC

- 36 よねやまだより
"よねやま"から広がる新しい世界 ④
信頼が築く交流と未来
米沢RC 秋葉 隆子
米山学友 エンボルド・ボロルトヤ

- 38 Rotary いま……
ロータリーの特別月間が変わります

- 6 ■ロータリーとは
47 ■エバンストン便り
47 ■管理委員長の思い 
48 ■ロータリー掲示板
新クラブ・RC事務所住所変更・2015-16年度『友』誌表紙写真募集の
ご案内・RC例会変更・RC名称変更・新IAC・IAC終結・
2015年6月号『友』誌表紙写真再々募集のご案内・2015-2016年度版
ロータリー手帳のご案内・地区別クラブ数 / 会員数 / 出席率一覧表・
『友』3月号主要記事予定
50 ■日本ロータリー分布図
50 ■奥付
51 ■『ロータリーの友』6月号表紙写真再々募集！

特集 世界理解月間

- 7 世界に広がる私たちの
ネットワーク

- 8 海外で知る 日本との違い

四日市東RC 市田 淳一 / 大和RC 吉岡 善一 /
新潟南RC 羽豆 史郎 / 東京中央新RC 宇佐美公孝 /
川口モーニングRC 阿部 昌隆

- 11 異文化理解を育む

稲沢RC 幹事 永井 伸治 /
三島西RC 元会長 遠藤 正幸 /
東京江北RC 国際奉仕副委員長 人見 真吾 /
柳井RC 田村 泰三 / 雲仙RC 幹事 堀川 二雄

- 16 学友会のつながりと
新たな活動を求めて！

日本ロータリー学友会 会長 田中栄次郎 /
RFT 会長 森田 澄夫・
RFT 代表幹事 本城 信

- 18 届け世界に！ 日本の心

東大阪RC / 清水中央RC / 豊橋北RC 佐久間武美 /
福德学院高等学校 IAC / 木更津東RC 藤野 勉 /
一宮中央RC 国際奉仕副委員長 松本 正暢 / 浜松南RC

- 22 日本を知る

東京王子RC 田村 純朗 / 高浜RC

- 24 国連難民高等弁務官事務所から
見えてくる世界

国連UNHCR協会ファンドレイジンググループ団体統括
1983-84年度ロータリー財団奨学生 中村 恵
写真 UNHCR / A. McConnell

- 39 ロータリー入門

GLOBAL OUTLOOK 

ロータリアンのためのロータリー財団の
資金モデル入門

THE ROTARIAN 2月号から

一般社団法人 ロータリーの友事務所
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル4階
Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956
編集部メール hensyu@rotary-no-tomo.jp

ROTARY
JAPAN 
Home Page 
www.rotary.or.jp



P7～25 グローバル化が進む中で国境を超えた活動が広がっています

ロータリーの友
委員会

委員長 橋本 長平 (京都東)
副委員長 清水 良夫 (横浜)
R I 理事 北 清治 (浦和東)
R I 理事 杉谷 卓紀 (玉名)

特別顧問

中山 義之 (横浜南)
神崎 正陳 (茅ヶ崎湘南)
上野 孝 (横浜)
安平 和彦 (姫路)
片岡 信彦 (土浦南)
本田 博己 (前橋)
志田 洪顕 (静岡)
大室 雋 (宝塚武庫川)
鈴木 喬 (東京江北)
水野 功 (東京飛火野)

顧問

地区
代表委員

2500 佐藤 真康 (帯広)
2510 柳 孝一 (札幌横南)
2520 太田マリ子 (盛岡滝ノ沢)
2530 金平 祖隆 (福島北)
2540 加賀 美奈 (大曲)
2550 伊藤 一男 (大田原)
2560 山内 正胤 (十日町)
2570 今泉 博 (川越)
2770 宮下 守夫 (大宮シティ)
2790 寺川 典秀 (千葉幕張)
2800 御橋 広真 (鶴岡西)
2820 木曾 正明 (日立)

2830 中畑 肇 (弘前西)
2840 島津 文弘 (高崎北)
2580 石橋 正男 (東京東江戸川)
2590 長戸はるみ (川崎高津南)
2600 山口 健雄 (伊那)
2610 小間 茂雄 (高岡)
2620 阿部 正義 (浜松北)
2630 加藤真左子 (多治見西)
2750 西澤 宗英 (東京渋谷)
2760 岩瀬淳一郎 (豊川)
2780 加藤 盛久 (茅ヶ崎湘南)
2640 京谷 知明 (堺フェニックス)

2650 橋本 和典 (奈良大宮)
2660 藤田誠一郎 (大阪帝塚山)
2670 石川 浩 (高松南)
2680 熊見 一郎 (神戸須磨)
2690 植山 義晴 (益田)
2700 廣澤 元彦 (小倉東)
2710 田頭 和規 (福山南)
2720 高山龍五郎 (大分)
2730 深尾 兼好 (鹿児島西)
2740 杉原 宏一 (諫早北)
編集長 二神 典子 (東京築地)

ロータリーの誕生とその成長

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数34,558、会員総数1,220,115人（2014年10月1日RI公式発表）に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは、1920（大正9）年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は2,278、会員数89,058人（2014年11月末現在）となっています。



Light Up Rotary

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

特集 世界理解月間

世界に広がる私たちのネットワーク



海外で知る 日本との違い

ロータリアンが仕事で海外へ行った際に体験した世界各地の文化、習慣を紹介します。
世界には日本では考えられないようなルール、マナーがあることにあらためて気付かされます。



古都コルカタの風情

市田 淳一（四日市東RC）

私が経営する会社では、不定期でJICA（国際協力機構）の環境モニタリングの研修生を受け入れています。5年ほど前にインド西ベンガル州の公害防止委員会の技術者への研修が縁となって、州都コルカタ（旧カルカッタ）の環境調査会社への技術支援などでの交流が続いています。

経済成長が著しいインドでは、デリーやムンバイなど中心部では昔のイメージはもうなく、近代化された都市の姿を見ることができます。一方コルカタはややその発展のスピードが遅く、貧しいながらも共存志向の、そしてイギリス統治時代の首都としての、当時の^{たたず}佇まいを今も残しています。

全土を知るわけではありませんが、私がコルカタで経験したのは、相づちの違いです。われわれ日本人もデリーのインド人の知人も、相づちの時には首を縦に振りますが、コルカタでは、皆首を横にかしげます。初めは「変だな？」と反応しているのかと思っていましたが、だんだんそれがコルカタの相づちであることがわかりました。巻き舌も強く、ベンガル語で話していると思うとそれが英語だったりして、相当な慣れが必要です。

コルカタで有名なのは、カティロール(写真下)というファストフードです。チャパティという薄いパンの上で卵を焼き、それに具を乗せてくるくと巻いたもので、人気の具はタンドリーチキンと生タマネギ。日本人の口にもよく合い、1本80円ほどでおなががいっぱいになります。



ゴルフはまだ高級な娯楽で、それだけに日本よりも服装やマナーにはうるさいです。ラフなゴルフに慣れてしまっていた私は、シャツの裾を出していてキャディーに怒られました。

コルカタには日本のODA（政府開発援助）で石炭による火力発電所がいくつか造られています。保守と



現地の技術者とともに

維持にかかる経費の関係で公害防止設備は整っていません。そのため、できるだけ遠くに拡散させるようにと、地震国日本ではあり得ないような高い煙突がそびえ立っています。インフラ整備などまだ問題も多いインドですが、これからも交流を続けていきたいと思っています。

（第2630地区 三重県 計量証明業）



アメリカ

踏切で 一旦停止してはいけません

吉岡 善一（大和RC）

それはずっと前、初めてアメリカに出張した時のことです。カリフォルニアの南部で、周りに建物もほとんどない田舎の町でした。通勤はもちろん車なので、大きなアメ車のレンタカーを借りました。

ホテルから会社までは20分程度の距離ですが、初出勤ですので慎重に慎重を重ね、ゆっくりと走ることにしました。道路の右端をゆっくりと……。運転にもちょっと慣れてきたころ、ふとバックミラーを見るとパトカーがピッタリ付いてきています。運転は、ますます慎重になります。前方に、鉄道の踏切が見えてきました。周りには何もありません。踏切が見えるだけです。ここで交通違反を起こしてはなりません。しっかりと踏切の手前で一時停止をしました。すると、なんと、パトカーからお巡りさんが降りてくるではありませんか。

お巡りさん「どうして止まったんだ！」

私「だって、踏切～」

「危ないから止まらないように」

「えっ、でも列車が来たら……」

「列車が止まってくれるから、車は止まらないように」

「日本では、踏切はいったん停止……」

「ここは、日本ではありません」

そう、カリフォルニアでは車が優先なのです。それにしても、踏切で一旦停止してはいけないとは。

数日後、車の運転免許を取りに試験場に行きました。まずは、学科試験です。窓口で係官が試験問題を渡しながら、

係官「英語はわかるか？」

私「あんまり……」

と答えると、係官は問題用紙を裏返しました。

さすがカリフォルニア、日本語で試験を受けられるのかと、よく見ると、なんとスペイン語。カリフォルニアは、日本よりメキシコのほうがはるかに近かったのです。

(第2780地区 神奈川県 ウェブシステム)



メキシコ

ところ変われば……

羽豆 史郎 (新潟南RC)

新潟県佐渡市にあるわが社は、17か国36店舗を有するレストランチェーンに日本酒を輸出しています。

1年に15回ほど海外出張に出る機会

がある私は、各地で文化や生活習慣の違いに直面することがよくあります。先日訪れたメキシコ市の標高は、2,240 m。日本で考えれば富士山の五合目と同程度の高地にメキシコの首都があるのです。このような高地での生活には、高地ならではの工夫が必要となります。

まずはお米の炊き方。新規オープンした取引先の日本食レストランを訪れた際、オーナーシェフがご飯の味が他の店舗とは異なることに気が付きました。聞いてみるとメキシコ市のような高地では、気圧が低いので沸点が低く、低地と同じ方法ではおいしく炊くことができないというのです。同じく標高の高いアメリカ・コロラド州のアスピンの店舗も同様でした。水分調整をしたり、高地でも使用できる炊飯器を新たに導入するなど工夫をしていました。



店内の一角にある杵タワーの前で



オーナー、スタッフが勢ぞろいし、開店を祝いました

水に関しても同様です。日本のように品質の高い水道水に恵まれた国はそれほど多くありません。例えば海外で日本茶を入れる場合、同じ茶葉であっても使用する水が硬水か軟水かで味が変わります。また水道水の質が低い国では、洗浄したグラスに水の臭いが残ることもあります。おいしく日本酒を飲んでいただくためには、良い製品をつくるだけではなく、現地の事情にあった飲み方や管理方法を提案する必要があります。日本では特に意識することもなく行っている生活習慣が、国が変われば当たり前ではなくなるのです。

日本にいとあまり実感することはないと思いますが、治安の良さ、時間に正確な交通機関、おいしい水、美しい空気など、日本には諸外国と比べてもすばらしい点がたくさんあります。「ああ、日本の国民で良かった！」

(第2560地区 新潟県 日本酒製造)



ドイツ



チリ

外国人にYESと言わせる話し方、接し方

宇佐美公孝 (東京中央新RC)

私は日本、アメリカ、ドイツにそれぞれの本社があるグローバル企業(3社)で国際ビジネスを経験してきました。駐在国も、アメリカ、イギリス、ドイツ、オランダ、チリ、パナマと多く、出張で訪問した国は80か国を超えています。ビジネスライフの半分以上を海外で過ごしてきた私の特技は何か？ と聞かれたら、即座に異文化コミュニケーション能力と答えるぐらいです。外国人にビジネスでYESと言わせるためには、現地の習慣に積極的に溶け込む必要があります。たくさんのエピソードの中から、今回は2つの体験を紹介したいと思います。

1) おせっかいな南ドイツの人たち

南ドイツの人たちの、他人の行動に首を突っ込んでく

るおせっかいぶりには驚かされました。具体的にはこんな感じです。

*引っ越しで忙しいさなかにやってきて自己紹介とこちらの情報を1時間以上もやたら詳しく聞いてくるお隣さん。

*聞いてもないごみの出し方、近所の買い物店紹介、犬の散歩の仕方、雪の処理方法などをいちいち詳しく教えていくお向かいさん（ほとんどのことは市の情報サイトに書いてあります）。

*30秒ほどの停車にもかかわらず、エンジンを停止するように注意してくる歩行者のおじさん（どこで見ているの？）。

*電車の中でくしゃみをすると、自分のティッシュペーパーを出してくれて、鼻をかめと命じてくるおばさん。

*車をバックで駐車しようとする、どこからか現れて誘導してくれる赤の他人。

こんなふうに、相手がどう思うかなどを気にせず、行き過ぎた親切を振る舞ってくれる南ドイツでの体験です。

2) 社員が毎日抱き合っている南アメリカ・チリのオフィス事情

チリのオフィスでは同僚の誕生日、売上目標達成月、出産記念日、海外出張からの帰国など、あらゆるタイミングで相手をたたえるために、抱き合っただけにキスをする習慣があります。日本人の目には、何を大げさな、と感じますが、チリの人たちにとっては大事な社交です。私も1年がたつころにはその習慣に慣れ、今では照れることなく誰とでも抱擁して相手をたたえ、喜んであげることができるようになりました。

(第2750地区 東京都 翻訳仲介業)



チリの経済団体連合会総会でスピーチをしました（下段左から4番目が執筆者）



(左) いたるところで売られているココナツ。その場で飲みます
(右) このような食事をすべて手で食べます

取引をすることも少なくありません。その一つの例として現在、取引をしているのが、スリランカです。

イメージがあまりわからない方も多いようですが、旧国名がセイロンだと説明すると「紅茶」が有名だということに気づきますね。でもそれだけではありません。日本と非常に関係が深く、1951年のサンフランシスコ講和会議での故ジャワルダナ元大統領（当時は蔵相）の演説「憎悪は憎悪によってやむことなく、愛によってやむ」を思い浮かべる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

出張では最大都市コロomboだけでなく地方に行くことも多いのですが、その際いつも挑戦しながらいまだにうまく会得できないのが、右手だけで食事をするのです。インドなどへ行ったことがある方はご存じでしょうが、スリランカでも地方にはその習慣が強く残っています。料理はカレーがメインですが、スリランカの人は皆、右手をフォークのようにしてきれいに食べるんですよ。「指先でカレーとご飯を混ぜて第一関節で固めて食べるんだよ」と教えてもらったものの、私にとってこれで食べ続けるのは至難の業。口で言うのは簡単ですが、結局いつも一人だけペースが遅れてフォークを借りる始末です。何とか会得したいものです。

現在、私はコロombo・メトロポリタンロータリークラブ（RC）のロータリアンと友情を深めています。出張の合間に時間ができたため、ロータリーバッジとクラブのパナーだけを持って例会に訪問したのがきっかけです。会長、幹事ははじめ会員の皆さまが快く迎えてくれて感動したことは、今でも忘れられません。その後も交流が続いています。また、この交流を後押ししてくれたクラブの諸先輩にも大変感謝しています。

ちなみにコロombo・メトロポリタンRCは昼例会でしたが、フォークとナイフを使っていたので、私も何の心配もありませんでした。

(第2770地区 埼玉県 食品総合コンサルティング)



スリランカ

指先で混ぜて 第一関節で固めて食べる !!

阿部 昌隆（川口モーニングRC）

食品輸出入をなりわいとし、主に北アメリカの企業と取引をしていますが、今まで仕事をしたことがない国と

異文化理解を育む

独自に青少年国際交流事業を行うクラブ

2月是世界理解月間です。今回は、青少年交換など、ロータリーの青少年奉仕プログラムとは別に、独自に青少年の国際交流事業を行っているクラブを紹介します。

日豪友好、姉妹クラブの懸け橋となる留学生との交流

稲沢RC幹事 永井 伸治

稲沢ロータリークラブ(RC)は、1975年7月に第9700地区のカウラRC(オーストラリア・カウラ市)と姉妹クラブ提携を結びました。

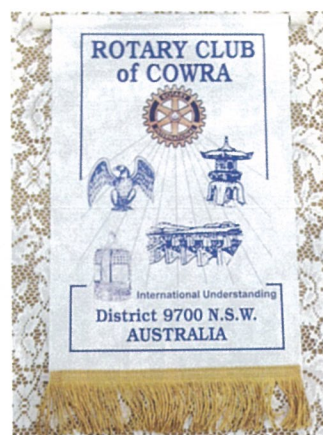
1970年代当時、稲沢市を含む愛知県尾張地方は羊毛産業がとても盛んで、原料である羊毛の取引が縁で、姉妹クラブ締結に発展しました。

カウラ市は、シドニーの西方約320kmに位置する人口約1万2,000人の畜産業が盛んな小さな町です。第二次世界大戦中に日本人捕虜収容所があった場所で、1944年8月5日、脱走者数540人以上、死者数235人という、捕虜収容所では史上最多とされる大脱走事件が起きたことで有名です。

この事件以降、犠牲者に心を痛めた現地の人々が、日本人墓地を整備し、戦後も大勢の日本人遺族が訪れ、そこから交流が生まれ、親日家の市民が増え、1978年

11月には、平和と友好の証しとして「日本庭園」が造られました。園内には、茶室、あずまや、藤棚、盆栽観賞室、日本民芸品展示室などが整備されています。

稲沢RCは当時、姉妹クラブ提携を記念し、この日本庭園建設事業に寄付金第1号として献金し、庭園内に雪見灯籠1基を寄付しました。また、稲沢RC創立20周年記念事業として、1983年、同園に釣り鐘を寄贈しました(カウラRCのパナーには、稲沢RCが贈った雪見灯籠と釣



カウラRCのパナー



①②捕虜収容所跡 ③日本庭園と雪見灯籠(筆者:左) ④1983年に寄贈した釣り鐘 ⑤日本人墓地 ⑥2014年シドニー国際大会時、カウラRC例会を訪問

り鐘が刷り込まれています)。

相互の会員が訪問し合い、友情を深めています。それ以外にも、日豪間の友好を図るために1970年から始まった相互交換留学制度で、カウラ高校から東京の成蹊高校に留学している生徒をその都度稲沢に招待し、カウラとの交流を継続しています。今年度もカウラ高校から成蹊高校に留学中のティラー・コックスさんと、キャンベラから留学中のゾーイ・バーローさんを、12月15～17日の日程で、稲沢市や名古屋市を案内するとともに伊勢神宮参拝とクリスマスイルミネーションなどを見て楽しんでもらいました。17日の稲沢RCの例会では、一年間勉強した流ちょうな日本語でスピーチをしてくれ

ました。二人の上手な日本語に、会員は感心していました。成蹊高校では元留学生の子女を通称「カウラ・ジュニア」と呼んで特別に留学生として受け入れています。ゾーイさんのお母さんも約30年前の留学生でした。当時、稲沢に招かれ会員宅でホームステイしたことを思い出深く話していたそうです。

私は、昨年度のシドニー国際大会(2014年6月)に参加した際、カウラに立ち寄り、過去の何人もの日本への留学生との再会を楽しみました。

今年7月には、姉妹クラブ提携40周年を迎えます。今後もカウラRCと稲沢RCの友好が一層深まることを祈念します。
(第2760地区 愛知県)



名古屋城を見学



ゾーイさん(左)、ティラーさん。
クリスマスイルミネーションをバックに



伊勢神宮で

台湾姉妹クラブとの中学生交換研修

三島西RC元会長 遠藤 正幸

記憶を思い起こすと、台湾第3500地区・苗栗ロータリークラブ(RC)と、三島西RCによる中学生の交換研修は、今回が29年目となります。まさに、継続は力なりだと思います。

1982年の三島西RC創立10周年記念式典において、苗栗RCと姉妹クラブを締結。その後、以下のようなたちで発展してきました。

1985年: 日台小中学生書画展覧会を開催

1986年: 苗栗RC創立15周年記念式典の席上、中学生交換研修事業が具体化

1987年: 第1回交換研修で中学生3人の派遣を実施

以来、交互に派遣と受け入れを繰り返し、これまでに99人を受け入れ、88人を派遣することができました。

1989年と92年には、この中学生交換研修事業に対して国際ロータリー会長から「意義ある業績賞」を授与されました。

スタート当時は中学生の交換研修は珍しく、この交換研修で素晴らしい成果を上げることができました。中学生のOB会もできました。

子どもたちの成長ぶりには驚かされます。先日、駿東郡清水町で行われた『私の主張』発表大会で、交換中学生が「絆」と題し、交換研修で初めて台湾を訪れたときの体験を語り、多くの町民に感動を与えました。交換事業は7日間と短期間ですが、中学生という多感な時期に異国の風土に触れ、同年代の子どもたちと交流することで、その後の人生に大いに役立っているのではな





①台湾の寺を訪問 ②引率者の皆さんと一緒に富士箱根の観光と雪遊び。台湾の子どもたちは初めて触れる雪に大興奮 ③三島警察署を表敬訪問。剣道の指導を受ける ④女子は着物、男子は袴を初体験。最高の笑顔です ⑤三島市の中学校に一日体験入学。同世代の中学生と一緒に過ごします。共通語は英語。台湾の生徒の英語力にはすごいものがあります

いかと思います。

私は、この事業のおかげで両クラブの会員同士の友情と信頼ができたと思います。同時に、クラブ内での会員同士、そして家族の絆もより強くなったように思います。私はこの事業がスタートしたころ入会しました。当時、先輩が「この事業は、三島西RCの親睦を中心としたクラブ運営を大事にしながら、『細く長く』をモットーに

続けよう」と言っていました。この言葉が忘れられません。

この事業は、各年度の会長・幹事と、その前の年度の会長・幹事、国際奉仕委員長・副委員長を中心に実施してきました。ホームステイは、会員宅で担当しております。会員家族の皆さまにも感謝です。

(第2620地区 静岡県)

不思議な縁から48年——ウォルナット・クリークRCとの夏期交換学生プログラム

東京江北RC国際奉仕副委員長 人見 真吾

東京江北ロータリークラブ(RC)と第5160地区・ウォルナット・クリークRC(アメリカ・カリフォルニア州)との間で始まった夏期交換学生プログラムは、ちょっとした偶然から生まれた親善と友情の証しとなる事業です。

1966年、アメリカ・コロラド州で開かれたデンバー国際大会に出席した当クラブの田中三郎会員が、開会式が始まるのを待っていました。そこへ一人のアメリカ人ロータリアンが近づき、いきなり「カナメ・フタバという人を知らないか」と尋ねました。

ウォルナット・クリークRC



不思議な縁です、日本人には何百人という「フタバさん」がいるでしょうが、そのアメリカ人が探していたフタバさんは、かつて東京江北RCの会員であった二葉要氏だったのです。お互いに偶然という事実に驚きました。そのアメリカ人は、次の年度にウォルナット・クリークRCの会長を務めるエイドリアン・メンデス氏でした。メンデス氏は、戦後日本にいた折、二葉氏に大変お世話になったというのです。

田中会員はメンデス氏の強い誘いを受け、帰路を変更



左から田中文字子夫人、田中氏、メンデス氏。「エイドリアン・メンデス功労賞」受賞時の写真（1997年）

ウォルナット・クリークRCの創立50周年記念時、メンデス氏宅の庭で（1987年）



左・中央：会員が宮司を務める大鷲神社で日本文化を体験 上：会員家族たちと京都を訪問。来日交換学生のトンヤさん（左）と、会員のお嬢さん（2014年7月）

し、ウォルナット・クリークのメンデス氏の自宅へ立ち寄って親睦を深めました。この縁を何か後に残そうと話が持ち上がったのが、夏期交換学生プログラムでした。両クラブの会員の子どもたちを夏休みの間交換し合い、それぞれの家庭で預かり、旅費以外は全て受け入れ側の会員が面倒を見る約束を交わしました。48年たった現在も一度も途切れることなく、脈々と引き継がれています。

両クラブが果たした国際親善の業績は国際ロータリー

の認めるところとなり、1982年に開催された地区大会では「意義ある業績賞」を受賞しました。

このプログラムでは子どもたちの交換だけでなく、会員や家族の交流も深く行われており、姉妹クラブ以上の緊密な関係となりました。今後もこのプログラムを継続していくことは、国際理解のほか、青年子女に対する教育効果も大きく、さらに意義のあるものに確立していくことになると思っています。（第2580地区 東京都）

シャンペンRCとの青少年交換事業

柳井RC 田村 泰三

第6490地区・シャンペンロータリークラブ（RC アメリカ・イリノイ州）と柳井RCとの青少年交換が始まって25年になります。大学生が対象で、高校生は原則として含めていません。夏の期間に1か月間、ホームステイをしています。

アメリカからの学生は、初めて日本に来て、言葉や習慣の壁にぶつかり、人生で初めての挫折感を味わうような、優秀な学生たちです。日本文化を学ぶ機会として、ホームステイのほかにも茶道、華道、書道、竹細工など



を経験し、近隣各地を観光します。また、柳井市内の小学校や中学校を訪問し、英語の授業などに参加して、児童生徒たちの英会話の相手をします。

滞在が終わるころに、ロータリークラブで卓話をします。その時に「日本人の考え方の原点は『道』にあることを理解した。茶道、華道、書道や武道にみられる『道』は、結果ではなく、過程を大切にしている」と話した学生がいました。私たちの方が日本人の考え方について、認識を見直すことになったと思いました。

交換学生たちはアメリカに帰ってから、大学やシャンペンRCで、日本で経験したことを話します。彼らの経験は、非常に興味深く聞かれているようです。日本から派遣した学生も同様で、シャンペンRCの会員が非常にがんばって、数多くの経験をさせてくれています。本人が期待した以上の結果を得ています。両クラブにとって、この青少年交換には困難も少なくないのですが、その意義は高く評価されています。(第2710地区 山口県)



書道教室で

竹細工教室



韓国姉妹クラブとの青少年交換交流

雲仙RC幹事 堀川 二雄

当クラブは5年前のクラブ創立40周年式典を機に、
フサントンベク
第3661地区・釜山冬柏ロータリークラブ(RC 韓国)
と姉妹盟約を交わし、以降毎年、交互に会員同士の訪問を重ね、両国の草の根交流を行ってきました。

今年度は当クラブ創立45周年を迎えるにあたり、「両国の子どもたちを相互派遣し、友好親善と国際感覚を体験できるプログラムを実施しよう」との若い会員からの発案で、昨年度から準備を重ねてきました。

派遣対象年齢は10～15歳の男女の児童生徒でしたが、多数の申し込みがあり、厳正な抽選で参加者を決定しました。夏休み期間中の8月19～24日の日程で、前半の2泊3日は釜山冬柏RCの親子3組を雲仙市に受け入れ、バーベキュー、茶道、空手など交流を行いました。後半の2泊3日は雲仙市内の親子5組を釜山市に派遣し、互いのロータリアンも引率ならびに世話役として、現地で親睦交流を行いました。雲仙派遣団の間では、釜山でのテンプルステイ(お寺体験)が特に貴重な体験と思い出になったようです。

帰国後の例会出席の折、参加した児童生徒によるレポート発表において、自信と成長の成果が表れた素晴らし

釜山冬柏RC



いスピーチに感動し、また子どもたちにとっては、初めての海外交流が有意義な経験になったことを実感できました。

なお、この事業は両クラブの会員から高い評価を受け、参加者の皆さんからも継続を望む声が多数ありました。今後の継続実施に向けても、釜山冬柏RCとの国際交流と友好親善を、強力に推進していきます。

(第2740地区 長崎県)



学友会のつながりと新たな活動を求めて！

第4回日本ロータリー学友会全国大会開催

日本ロータリー学友会会長 田中栄次郎

11月15日、最初から連続3回開催の如水会館から江東区越中島の東京海洋大学に会場を移して、第4回「日本ロータリー学友会」全国大会が開催されました。全国22地区の学友会から43人の学友、ロータリー財団地域コーディネーターの江崎柳節氏をはじめ18人のロータリアンに、来賓（招待講演者）、国際ロータリー（R I）日本事務局財団室長の清水優希氏を加え、計62人の参加を得て盛会でした。

全国大会は、第1部「学友会総会」、第2部「招待講演」、第3部「各地区学友会活動報告」、第4部「懇親、交流会」で構成され、午後1時から6時までの第1部から第3部は、海洋大学の教室で開催され、一同学生気分に戻っての大会でした。

第1部「学友会総会」は、第2600地区（長野県）の故・滝澤武地区学友会長の追悼黙祷にはじまり、会長の田中から2013－14年度の活動状況の報告をして、また、11月25日開催の「ロータリー財団地域（第1、2、3ゾーン）セミナー」で、日本ロータリー学友会の報告の時間が与えられているので、この機会に、「2013－14年度から本格導入の『未来の夢』で日本からの奨学生数が半減していることを憂い、より多くの奨学生を送り出したい」「グローバル補助金の対象は人道6項目に限定されているが、難民や被災者の心を癒やす『音楽』などを加えてほしい」と要望する旨、報告しました。

高木直之代表幹事からは「2017年ロータリー財団創立100周年に、学友会として何ができるか皆で考え、実行しよう」と提案がありました。また本城信会計幹事から2013－14年度会計報告、松下衛会計監査幹事の監査報告があり異議なく承認されました。



第2部の「招待講演」では、R I日本事務局財団室長の清水優希氏が「日本の奨学金の現状」について報告され、また、神奈川歯科大学教授の久保田英朗先生から、「フィリピンへのV T T医療支援（口蓋裂治療）報告」という医療専門家ならではのお話があり、一同に感銘を与えました。さらに、「学友活動報告」では、島田潤君（2010－11年度、アメリカ・モンタナ大学）が、「フロンティアの拡大——宇宙へ」と題し、留学時の体験を通じ広がった宇宙への夢を語り、平井麻佑子さん（2011－12年度、イギリス・ロンドン大学）が、留学中の「田中作次R I会長通訳体験記」を話してくれました。元会長ご夫妻は、新米の平井通訳にとっても優しくったそうです。

第3部「各地区学友会活動報告」では、第2700地区（福岡県、佐賀県、長崎県）の中牟田久敬会長（日本学友会名誉会長）から、2015年11月7日に開催される「第2700地区学友会創立50周年記念行事」に参加してほしいと、全国の学友会に招待がありました。続いて、各地区の学友会からの近況報告などの発表がありました。最後に、財団地域コーディネーターの江崎柳節氏から「大会の講評」を頂戴し、盛会裏に総会、全国大会を終了しました。

第4部「懇親、交流会」は、近くのレストランに会場を移し、ロータリーフェローズ東京の森田澄夫会長の司会で開会しました。中牟田日本学友会名誉会長のあいさつ、二神典子ロータリーの友編集長の祝辞、久保田英朗神奈川歯科大学教授の乾杯で、懇親、交流の場が広がりました。

会の後半、イタリア留学の経験があるテノール歌手の森田澄夫氏の呼びかけで、あっという間に音楽で留学した3人の学友、小池芳子（第2600地区 長野県）、黒田映李（第2670地区 香川県、愛媛県、徳島県、高知県）、関根裕子（第2770

海洋大での集合写真



地区（埼玉南東）が勢ぞろいし、4人の合唱で大いに会が盛り上がりました。

翌16日に企画した「東京湾・隅田川の船旅と浅草・スカイツリーツアー」は、16人の参加者を得て午前10時、中央区の浜離宮からスタートしましたが、海洋大学近くのホテルに前泊した10人は、8時過ぎから築地の場外市場で、お魚付きの朝食から始まりました。浜離宮を散策して、船着き場から水上バスに乗り東京湾から隅田川を遡上しました。

途中の景色や停泊中の海洋大学の練習船などを、海洋大学教授の高木代表幹事が素晴らしい解説をしてくれ、一同船旅を楽しみ、吾妻橋で上陸、雷門から仲見世、浅草寺とお江戸を代表する観光スポットを歩きました。お昼は、名代の老舗「駒形どぜう」でどじょう鍋を楽しみ、



雷門でのツアーの一行

会食の席上、被災地の福島県からかけつけた鈴木美恵子代表幹事にツアー参加者からの心ばかりのカンパと神奈川県森勝美学友からのお土産を渡しました。一行は、それから東京スカイツリーからの眺望を楽しみ、午後4時、翌年の再会を約束して散会しました。

ロータリーフェローズ東京(RFT) 第10回秋季交流会

RFT会長 森田 澄夫
代表幹事 本城 信

ロータリーフェローズ東京(RFT)は、ロータリー財団奨学金を受けて留学した東京出身者および在京、在勤の学友による学友会組織で、春秋の例会、ロータリー財団月間における学友による卓話者派遣、派遣学生のオリエンテーションへの参加などの活動を行っています。秋季例会は、国際基督教大学(ICU)のロータリー平和センターに留学しているロータリー平和フェローを中心とした来日中の奨学生と、ロータリー財団の奨学金を得て派遣される奨学生の歓送迎会を兼ねた交流会で、ICUでロータリー平和プログラムが始まった2004年から、ほぼ毎年開催しており、12月13日に開催された秋季例会は、ちょうど10回目となります。

今回は日本からの初の国際ロータリー(RI)会長で、ICU初代理事長を務められた東ヶ崎潔氏にちなんで命名された、ICU東ヶ崎潔記念ダイアログハウスで行われ、ロータリー平和フェロー、米山記念奨学生、ロータリアン、ローターアクター、他地区学友会、会員など計35人が出席しました。

本城信の英語による司会で進み、森田澄夫の開会のあいさつに始まり、来賓あいさつや奨学生たちの自己紹介が続ぎ、黒田映李さん(第2670地区学友)のピアノ伴奏、小池芳子さん(ソプラノ、第2600地区

学友)、森田(テノール)による、「乾杯の歌」の二重唱で華やかに懇親会が始まりました。

歓談も佳境に入り、平山真奈美会員の通訳でパフォーマンスタイムに。ロータリー平和フェロー、モズリーさんのノリノリのピアノで幕が開きました。子ども連れの会員も参加してのアットホームな雰囲気ななかプログラムも進み、今度は、森田のリード、大森美和さん(第2600地区学友)の通訳で、「ソーラン節」の全員合唱で盛り上がった後は、ロータリー平和フェローの皆さんによる楽しい「クリスマスソング」、最後は出席者全員肩を組んで「きよしこの夜」を合唱し、多くの国籍の人々の心が通い合ったまさに国際交流にふさわしいエンディングとなりました。田中栄次郎日本ロータリー学友会会長兼当会顧問の閉会のあいさつで交流会は無事終了することができました。

ロータリーにお世話になった私たち元財団奨学生のロータリーへの恩返しとして始めたこの交流会、これからも続けていく所存です。ロータリー平和フェロー、米山記念奨学生の皆さんの実りある留学生活と、未来の素晴らしい活動を祈るとともに、日ごろ当会の活動をご支援くださっている第2580地区、同地区財団委員会およびロータリー財団に感謝の意を表明して筆を置きます。



届け世界に！ 日本の心 ― 海外で活動する日本のロータリアン

ベトナムの子どもたちに届けた きれいな水と笑顔

東大阪ロータリークラブ

クラブでは7年前から、WCS（世界社会奉仕）活動としてベトナムの各種施設に対し支援事業を行ってきました。今年度は「SOS子どもの村」に浄水器18台を寄贈しました。

国際NGO法人「SOS子どもの村インターナショナル」は世界中に両親を亡くした子どもたちを受け入れる「子どもの村」を運営していますが、ベトナムには14施設があります。当クラブが2013年に引き続き支援しているのはハノイ郊外のマイディッチ子ども村で、2～18歳の子どもたち約230人が暮らしています。単なる生活の場ではなく、親のいない子どもたちに豊かな愛情を注ぎ将来の生活力を養い社会に送り出すことを理念にしています。

低年齢の子どもたちは約10人ずつ「お母さん」と呼ばれる世話係の女性と一緒に、家族として一戸建ての「家」での共同生活を行っています。生活環境で問題なのは衛生面、特に飲み水で、常に子どもたちの健康をおびやかしています。一応水道はあるものの質は悪く、「家」の前庭に作った地下水槽にためておいて、それを炊事、洗濯あらゆるものに使用している状況です。

今回の支援では、「家」16軒それぞれと食堂、集会所の計18か所に浄水器を寄贈しました。これにより子



どもたちは好きなときに好きなだけ、安全な水を飲むことができるようになります。会員有志が昨年10月に現地を訪れましたが、お母さんの愛情の下で育っているたくさんの笑顔が心に残りました。今回の支援が子どもたちの幸せの一助となることを願っております。

(第2660地区 大阪府)

タイ山間少数民族の 生徒寮の井戸掘り支援

清水中央ロータリークラブ

私たちのクラブでは15年以上前から国際奉仕と新世代奉仕の一環として、タイの山岳少数民族の村の子どもたちの教育支援を行うNGO・さくらプロジェクトに協力。ジャトプー村の小学校校舎、山間少数民族の村の子どもたちが修学するための寮・さくら寮のホールや、女子寮・しみず館の建設、通学用バスの提供、子どもたちの里親になるといったさまざまな支援をしてきました。

今回は地区補助金を得て、さくら寮のあるチェンライ市から約20km北のメーヤオ郡ルアミット村にあり、22人の寮生と2人のスタッフが生活する寮・さくらエコホームの井戸の掘削を実施しました。

さくらエコホームは2003年の開寮以来、生活用水の確保に苦慮していました。設立当初、寮内に深さ約10mの井戸が掘られましたが、約1年後に枯渇。その後、生活用水は施設から約30m離れた小川の岸辺の斜面に、約7mの深さの簡易井戸を掘り、そこからポンプでくみ上げ、約5mの高台にある寮施設内の貯水タンクに給水していました。

このシステムでは、一時貯蔵タンクやポンプ内部に小川の砂が侵入し、たびたび故障の原因になるほか、毎年6～9月の雨期の集中豪雨で小川が急激に増水し、ポンプとその横に設置した一時貯蔵用のコンクリート管までが流されてしまうこともあって、しばしば生活用水の供給が断たれる状態でした。子どもたちは決して衛生的とはいえない小川の水で、水浴びや洋服の洗濯をするしかありませんでした。

給水システムを見直し、寮の敷地内に本格的な井戸掘り工事を実施し、安定した生活用水の供給を実現することが急務となっていました。そんなわけで、この計画に全面的に資金協力することにしました。

早速、チェンライ市内の井戸掘り会社3社から見積



万 3,500 円、クラブ負担 31 万 7,351 円です。

このシステムの完成により、さくらエコホームで生活する 24 人の寮生たちが飲料水、洗濯、水浴び、トイレなど寮生活に不可欠な生活用水を十分に使用することが可能となり、生活の利便性および衛生、健康面の向上に大きな成果を上げることができました。今年春（3 月 6～9 日）にはクラブの代表 13 人がホームを訪問し、あらためて贈呈式を行い、子どもたちとの交流を深めていきたいと思っています。

（第 2620 地区 静岡県）

もりを取り、その中から過去の実績や見積もり価格により A 社を選定し、7 月 1 日から工事を開始しました。

計画は、1 時間当たり 3,000 ℓ のくみ上げが可能な深さまで、15cm の直径で 50m あるいはそれ以上の深さで掘削し、厚さ 8.5mm の管を埋め込み、掘削地点にくみ上げ用ポンプ 1 台、さらにステンレス製 3,000 ℓ のタンクへの送水用のポンプを設置し、十分な給水量がない場合は、新たに掘削地点を変えて成功するまで掘削していく、というものでした。

最初は、事務所施設前の台所の近くを掘りましたが、掘れども掘れども全く水が出てこなくて断念。大変不安な思いをしました。次に寮の敷地内の畑の片隅を掘ってみました。約 30m 掘ったところで見事に大量の水が噴き出てきました。給水量も毎時 3,000 ℓ を余裕でクリアしました。

工事は 7 月 15 日に完了。総工費は掘削請負料、電気配線、水道管敷設工事、貯水タンクなどを含めて約 15 万パーツ（約 50 万円）でした。内訳は地区補助金 18

フィリピンの 輝く子どもたちのために

豊橋北 R C 佐久間武美

「継続は力なり」ということわざがあります。言葉ではたやすく言えますが、実際はそう簡単な話ではありません。当クラブでは 2007 - 08 年度の国際奉仕事業として、フィリピン・マニラ首都圏の最貧困地域にあるごみ集積跡地（スモーキーマウンテン）にあるサンディワン幼稚園を、会員 18 人が初めて訪問しました。3～6 歳の園児 500 人の約 8 割が栄養失調という状況があり、栄養失調の子どもをなくそうという目的で、栄養給食支援プログラムを実施しました。

2008 年 3 月に現地を訪れ、2 度目の栄養給食の事業視察を行いました。園児たちの何割かは栄養状態が改善されましたが、今後もプログラムを継続してほしいという現地の幼稚園の先生たちからの要望もあり、当時



体育館シューズをカンボジアへ

福德学院高等学校インターアクトクラブ

例会で、大分南ロータリークラブの方々が話される、識字率と貧困の因果関係とその現実。靴を買うお金がなく裸足でごみの山を歩き回っている子どもたちが、けがをしたり病気になったりするという話には、とても心が痛みます。靴を履き元気に走り回れますように、たくさん勉強ができますように、と今年も卒業生に働きかけ、卒業式後に傷みの少ない体育館シューズを回収、洗浄、サイズ分けし、10 月 30 日、カンボジアの Bayon Junior High School に送りました。今回は街角募金とバザーの売上金で、送料もまかなうことができました。これからも私たちインターアクトクラブが時代から何を求められているかを考え、行動していきたいと思っています。（第 2720 地区 大分県）



の会長が「一人でも多くの園児たちの栄養改善をしたい」と、同年4月にクラブの有志を募り「SCN (Save Children by Nutrition) クラブ=子どもたちの栄養改善に手をさしのべる会」を発足させました。以来、45人の会員が2010年まで3年間継続して、毎年現地を訪れ支援活動を行ってきました。

2011-12年度のプログラム実施時、現地を訪問した会員は、園児たちと一緒に踊ったり、現地の父母の会が作った栄養バランスの良い給食を一人ひとりに配膳したりしました。園児たちは給食を受け取ると、大きな口を開けておいしそうにほお張っていました。

2013年10月と2014年7月には貧困撲滅対策として、教育に必要な文房具を園児たちに手渡し、教育支援を実施。会員は園児一人ひとりの手を握り、激励しました。園児たちは歌と踊りで歓迎してくれ、自分たちで書いた絵や感謝状がクラブに贈られました。一人でも多くの子どもたちが栄養改善され、学ぶ機会が得られるように、そして多くの子どもたちが自分で描いた夢をかなえられるよう、未来を担う子どもたちへの支援活動を、今後も続けていこうと思います。(第2760地区 愛知県)

ヤギ銀行プロジェクト始動

木更津東RC 藤野 勉

当クラブでは以前から、ネパール・ダンプス村で国際奉仕活動を行っており、2011年1月からは就学期の児童を抱える貧困家庭にヤギを贈り飼育、繁殖させることで生活の改善を図る「山羊基金プロジェクト」として開始。『友』誌でも2011年6月号縦組みP30、12年4月号縦組みP31～32に掲載していただきました。

その際にも触れましたが、このプロジェクトが持続可能であり、さらに実効性が期待できるような大規模ヤギ

牧場を造り、それを核として繁殖させたヤギを地域の貧困家庭に貸し付け、3年後に原資(メスヤギ2頭)を返還させ、5年目に利子としてメスヤギ1頭を納めるというシステム「ヤギ銀行プロジェクト」を提案。ロータリー財団のグローバル補助金に申請した結果、昨年5月31日付で承認されました。

クラブでは早速、このプロジェクトの協力者を9月から約40日間、現地に派遣し、ポカロータリークラブ(RC)とNPO法人ダンプス・フレンドシップ協議会(DFO)との協議や調査、指導などを行ってきました。さらに、ヤギバージョンとしては初の「マイクロクレジットファンド」を実施するための計画の説明、確認、指導を行ってきました。現地では、このプロジェクトに対する期待感が日増しに高まっているとの報告を受けています。特にポカラRCやDFOの関係者たちは、これをネパールの奉仕プロジェクトにしたいと意気込んでいるようです。

工事も順調に進み、12月12日にはダンプス村でヤギ牧場の落成式が挙行され、当クラブからも会長以下約10人が参加し、牧場の様子を視察するとともに、関係者との交流を深めてきました。(第2790地区 千葉県)



カンボジアの児童・生徒を支援

一宮中央RC 国際奉仕副委員長 松本 正暢

11月16～17日、私を含む会員7人で、クラブ国際奉仕事業の視察のためカンボジア・シェムリアップを訪問。16日にマレーシア経由で入国し、バスでホテルに向かい、そこで現地のNGO・JST (Joint Support Team for Angkor Preservation and Community Development: アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構) 代表のチャ・ノル氏と夕食を共にしました。



17日は、朝8時から教員養成学校でノートとボールペン、バドミントンの道具を配布。その後、コックルル小学校に向かい、そこでもノートとボールペン、そして女子児童には髪飾りを配布しました。子どもたちはわれ先にと争うこともなく、きちんと並んで受け取ってくれましたが、チア氏が子どもの頭に触れつつシラミの卵をつぶしているところを見た時、生活環境の差が大きいことにがく然とさせられました。

最後は、今回のメインであるバイヨン中学校に向きました。そこで地区補助金と当クラブ会員からのお金で修繕した食堂を見学。そこはもともと、調理場付きの小スペースだったのですが、非常に立派な食堂に修繕されており、その輝きや美しさを感じながらロータリーのプレートを取り付けました。

その出来上がったばかりの調理場で、カレーを大なべで煮込み、フランスパン1本と一緒に生徒約300人に配りました。その際、リーダーと思われる生徒たちが自分たちの分を後回しにして配給を手伝ってくれたことに、この国の将来に明るさを感じることができました。この明るさを確固たるものとするため、今後はインフラ整備だけでなく、グローバルな情報を入手する手段を提供する必要もあるのではないか、と考えさせられた活動でした。

(第2760地区 愛知県)

スリランカの村に 井戸やトイレを寄贈

浜松南ロータリークラブ

当クラブのアーネスト・ララカ・シルバー会員が母国スリランカの惨状を例会で報告したのをきっかけに、現地に井戸などを設ける事業が始動。約2年前から計画

を進め、グローバル補助金を活用して昨年7月に着工、10月28日の寄贈式典に出席するため、杉浦仁会長ら11人が視察を兼ね、同国北西部のムランカウィル村を訪れました。

事業は第3220地区のコロンボ西ロータリークラブ(RC)と協力、村内に60個のトイレ、2個の井戸と高架タンクを設置してさらに教育支援として文具や衣料を贈るもので、当クラブと地区、コロンボ西RCと第3220地区、グローバル補助金を合わせ6万1,200ドルの事業でした。

実施国側が補助金を受け取り、プロジェクトの経過を監視し、確認後に業者に支払う流れで、工事の見積もりはそれぞれの事業で3社から取ることにし、村の住人らの労働も想定しました。資

金はコロンボ西RCが管理し、同国のジャフナRCが検査する役を担いました。トイレは各家庭の財産になることを防ぐため、村の土地に設置。施設管理のため、現地の教会と覚書を交わしました。

式典当日、コロンボ市内からバスで8時間の所にある村では、多くの住民の大歓迎を受けました。現地の案内や説明をタミル語、英語、日本語、3か国語の通訳で進行了しました。場内の手伝いに軍の数人がバスの誘導や荷物の運搬などに積極的に手を貸してくれていたのも印象的でした。2か所の井戸、簡易浄化槽のついたトイレ、発電機で揚水する給水タンクを確認して回り、村の衛生状況が大幅に改善されたことを実感できました。

式典では質素ながら精いっぱいのおやつを振る舞ってくれ、子どもたちがダンスを披露してくれました。日本からの文具、衣類には保護者たちも目を輝かせていました。式典は温かい雰囲気が進み、お礼の言葉を通訳しながら涙を見せるララカ会員の姿に感動させられました。

翌29日はコロンボ西RCの例会、30日には歓迎レセプションに出席して現地会員との友情を確認し、スリランカを後にしました。

(第2620地区 静岡県)



日本を知る ― 青少年交換で日本を体験

青少年交換学生アレックス君

東京王子RC 田村 純朗

彼の本名はアレクサンダー・シュミッド。青少年交換プログラムによって、当クラブが受け入れた15歳の青少年交換学生です。2013年8月に、スイス国境に近い、クレスブロンというドイツ南部の町から来ました。

私はアレックス君のカウンセラーを務めました。一番頭を悩ませたのがホストファミリーの選定と依頼でした。当クラブもご多分に漏れず高齢化が進んでおり、ホストファミリーを見つけることが非常に難しい状況でした。幸い、今年度の会長と幹事が一緒に会員宅を訪問、依頼してくれたおかげで、比較的若い会員を中心に、計6組を確保できました。

最初のホストファミリーは、前年度幹事の小澤徳さんファミリーでした。小澤さんは前回の青少年交換学生を受け入れた経験があり、同年代のご子息もおり、アレックス君が言葉の壁を乗り越え、日本に馴染むための最も良い家庭となりました。小澤夫人はアレックス君にとって東京ママの代表といえる存在になりました。

2番目は、若い会員である住職・高橋寿光さんファミリーです。高橋さんは当時独身でしたので、食事などの世話はお母さまが担当してくださいました。アレックス君にとって、お寺での生活は忘れられないものとなったに違いありません。

3番目のホストファミリーは地区青少年交換委員会に紹介していただいた坂田敏治・恵理子さんと、藤田兵次・妙子（坂田さんご両親）のファミリー。前年度から引き続いてホストファミリーをしていたこともあり、青少年交換学生同士の交流にも心を配ってくださいました。

4番目のホストファミリーは事務局・山野邊徳子さんの紹介により、山崎拓郎・真理さんという若い夫婦でした。山崎さんはロータリアンではありませんが、ロータリー活動をよく理解

されており、夫婦でそれぞれ仕事を持つ中、本当によくお世話をしてくださいました。アレックス君にとって新しいお兄さん、お姉さんのような存在となりました。

5番目のホストファミリーは会員・福田洋平さんの紹介によって、寺村勉・英子さんファミリーに引き受けていただきました。寺村さんは小学校の教師、長男はアレックス君の通う学校の卒業生で、お宅が学校に歩いて通える距離にあり、学校生活をエンジョイする上で大いに役立ったようです。

最終となった6番目のホストファミリーは私たち夫婦が務めました。子育てが終わってから十数年経過した老夫婦にとって、15歳の高校生を預かるには大きな決断が必要でした。たとえ2か月であっても、生活のリズムを変えることに抵抗がありました。しかし、終わってみると充実した思い出となる2か月間となりました。異国の子どもと、わが子と同様に接し一緒に生活すること。これ自体が得難い貴重な経験となりました。

今回のホストファミリー全ての家庭から、期間の延長やもう一度引き受けてもよいとの申し出をいただきました。これはアレックス君の人柄の良さばかりでなく、心を通わせる国際交流の妙味があつたことと思います。アレックス君も1年間に5回引越、忙しくて大変

だったようですが、当クラブにとっては大変意義のある国際交流の機会となりました。

アレックス君は学習院高等科へ通学しましたが、この学校生活は、沖縄への修学旅行、北海道ニセコへのスキー旅行のほか、先生や校友にも恵まれた大変素晴らしいものとなりました。彼もこれに応え、日本の環境への適応力や日本語能力に熟達し、素晴らしい書道の腕前も獲得しました。日本人より日本人らしいドイツ魂を持った地球人が誕生したようです。

最後に、このような機会を与えてくださった地区青少年交換委員会の皆さまに心から感謝を申し上げます。

（第2580地区 東京都）



青少年交換事業は素晴らしい

高浜ロータリークラブ

高浜ロータリークラブ（RC）は創立以来、ほぼ毎年青少年交換事業を行っています。この2月でクラブ創立46周年を迎えましたが、今までに派遣44人、受け入れ45人という実績を誇ります。もちろんこれは、第2760地区でも断トツの実績で、現在33人の少人数クラブとしては、特筆すべきことだと自負しています。

第2760地区（当時は第360地区）で最初の地区間での交換は、1967年にアメリカ第533地区と第534地区（当時）から、豊川RCが5人の短期交換学生を受け入れたことに始まりました。それに続く形で1969年2月に創立後、ただちに青少年交換事業をクラブの特徴ある事業として位置づけ、地区青少年交換プログラムに応募、1970年に2人の高校生を送り出したことから始まっています。

以来現在まで、地区青少年交換事業の交換先国（地区）拡大時には、初めての国（地区）との交換に最初に名乗りを上げ、また、交換事業ではあるものの地区全体での受け入れクラブ（ホストクラブ）のなり手がなく、来日学生の受け皿がない時は受け入れだけの実施、また、派遣スポンサークラブがないため、海外での交換を希望することを諦めざるを得ない学生の夢をかなえるためのスポンサークラブとなるなど、地区委員会からの青少年交換プログラム上のアンバランスの解消依頼にも応えてまいりました。

青少年交換では、最近しばしば「来日学生の質の悪化」が指摘されています。私たちの体験から見ても、決して「いい子」ばかりではありません。門限を守らなかったり、お金を浪費したり、部屋に閉じこもってホストファミリーになじまない（引きこもりの子）など、問題を数え上げればきりがありません。しかし、諦めてはいけません。青少年交換の大先輩が言われています。「もし自分の子どもがそういう問題行動を起こしたら、あなたはどうしますか？ その子どもを無視して、突き放してしまいますか？ 自分の子どもであることを諦めてしまいますか？」と。ロータリー青少年交換学生はわれわれの子どもです。自分の子どもだと考えれば、問題を起こしている子どもを見捨てるわけにはいきません。ましてやわれわれロータリアンの未来は、全ての子どもたちにかかっている意を、「四つのテスト」草案者のハーバート・テイラーは述べています。こういう子どもと一年間付き合っ

もなく「日本が大好きになって、戻ってきた」という話を聞くことほど、うれしいことはありません。私たちはこういう経験をしてきたからこそ、今でも継続して青少年交換をクラブの主要プロジェクトとして、位置づけることができているといえます。

青少年交換でよく「ホストファミリーのなり手がない」という話を聞きます。「私の家では家内と二人だけだからホストができません」という言葉が続きます。私（65歳）は家内と二人。子どもたちはすでに家庭を持ち、それぞれが独立して暮らしています。でも、私の楽しみは、交換学生を受け入れることです。言葉も、習慣も違った子どもたちが、だんだんとわが家になじんできて、テレビや音楽を楽しみながら、いろいろなこと（学生の国のこと、日本のこと、趣味のこと、政治のことなど）を話しています。わが家を離れなくても、世界中から来日してきた学生から、彼らがそれまで生きてきた環境や家庭を理解する時間が持てるということです。こんなに楽で素晴らしいことはないと思います。そして、必ずと言って帰る言葉があります。「いつか、お父さん、お母さん、私の国に来てください」と。

青少年交換事業は、辛さと、その何十倍もの感激で組み立てられています。別れる時の涙は、それまでの苦勞を一瞬で忘れさせてくれる力があります。食わず嫌いという言葉があります（来日学生にはいつも和食を食べさせる時に言っています）が、青少年交換事業も「やらず嫌い」の方が多いと思います。日本人の優しさを世界に広げ、今後、人類が背負っていく「心」を学生たちに実際に体験することでお互いに伝え、その中で考える力、育てる力を持つてはいませんか。ロータリー青少年交換事業は、最も素晴らしい事業だと確信しています。高浜RCはこれからも「青少年交換事業」を第一優先プロジェクトとして位置づけていく、と宣言したいと思います。

（第2760地区 愛知県）



レバノン

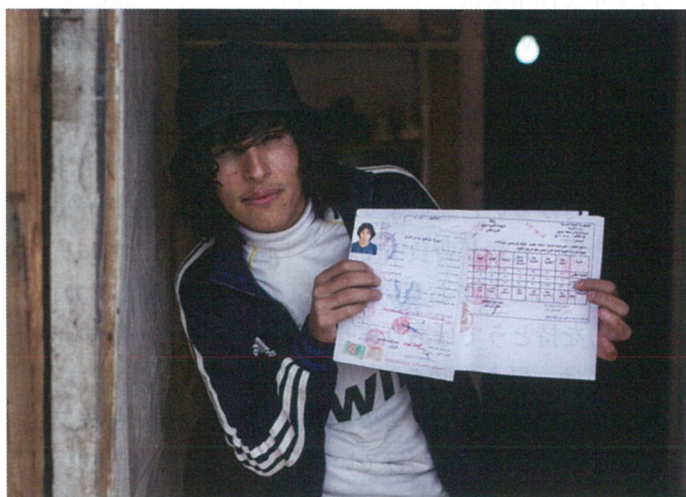
レバノンでは、人口 480 万人の国にシリア難民 100 万人が避難しています。難民キャンプはなく、多くが借家、掘っ立て小屋、倉庫、工場などで暮らしています。シリア内戦が始まってから 3 年以上がたった今、レバノンは世界で最も人口に占める難民の密度が高い国になりました。家賃は高騰し、居場所は限られ、食糧の値段は上がっています。シリア難民の半分は 18 歳未満の子どもです。その多くが学校に通えず、家族が生き抜くために働いています。早婚を強いられたり、物乞いをせざるをえない子もいます。それでも子どもたちは勉強したいという夢を抱き続けています。

テント暮らしの居住地で、妹や幼い子どもたちと一緒に遊ぶハラ（11 歳、右端）。ハラは、自宅に落ちた爆弾で母親を失い、兄 4 人と妹と共にレバノンに逃れてきた。シリアを逃れて以来、父親の消息はわからない。



最も大切にしている高校の卒業証明書を手にしているヘイニー。「未来につながるこれだけは、持って来ました」。大学に進学しエンジニアになる夢を戦争によって断たれてしまったヘイニーは、時折つながるインターネットで英語を学んでいる。

シリアからレバノンに逃れ、難民として登録し援助物資を受け取るために並んでいる母子。UNHCR は迅速に難民の登録を行い、各家族に必要な援助を提供している。



国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) から 見えてくる世界

国連 UNHCR 協会ファンドレイジンググループ団体統括
中村 恵 (1983 - 84 年度ロータリー財団奨学生)
写真 UNHCR / A. McConnell

緒方貞子さんが 1990 年代にトップを務めた UNHCR (ユ・エヌ・エイチ・シー・アール) は、今も世界約 125 か国で人道支援に尽力しています。紛争や迫害によって故郷を追われた難民の避難生活を支え、問題解決に至るまで支援します。UNHCR から見える世界の一端を、写真でお伝えします。

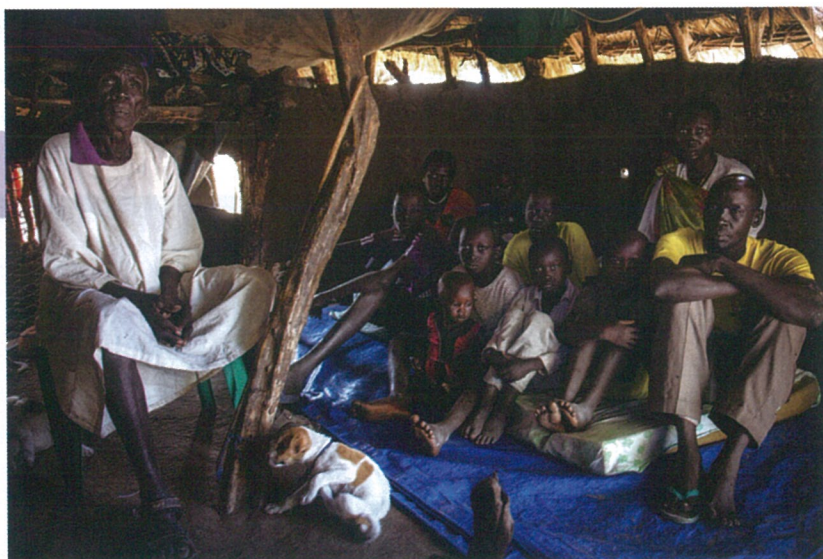
UNHCR の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。世界各地で紛争が絶えない今、厳しい資金不足に見舞われています。ぜひご支援をお願い申し上げます。

デン・アウル（76歳、中央）と妻ニコット（68歳）とその家族。デンはその長い人生で3回も故郷から逃げ、戦火や食糧不足を経験した。2013年12月に戦闘が始まった時、大きな防水シートをつかんで家族とともに逃げ、そのシートで子どもを抱えて川を渡った。「これまでに何度も子どもが溺れるのを見てきたので、経験から学んだのです」



ジェゼフ・マジャク（43歳）と双子の息子たち（15歳）。2013年12月に起きた内戦を逃れ、国内避難民の居住地にやってきた。「子どもたちは戦闘で人が殺されているのを目にしました。壁に隠れて身を守りました。『僕たちを置いていかないで、お父さん』と子どもたちは言い続けていました」。家に帰りがたっている息子たちに、ジョゼフはまだ安全ではないからだめだと言う。戻ったら兵隊にとられ、子どもを兵士にさせられてしまうかもしれないと恐れている。

アワン・デング（87歳）は、息子ジョセフや親戚たちとともに、国内避難民の居住地で暮らしている。2011年に国が独立した時には、ようやく良い時代がやってきたと思った。しかし今では、ぼろ小屋で、配給物資に頼って暮らすしかない。「戦争を起こし勝った者だけがその戦利品を得ています。庶民はふりまわされ、飢え、命を落とし、私財を失うだけです」。アワンは30歳の時、初めて戦火に襲われた故郷を逃れ、今に至る。



南スーダン

スーダンでは22年間続いた戦争が2005年に終結し、2011年7月に南スーダン共和国が分離独立しました。しかし、2013年12月に首都ジュバで大統領警護隊同士の衝突が起きて以降、地方でも反政府側と政府軍との衝突が激化しました。その結果、人口1,100万人のうち190万人が家を追われ、140万人は南スーダン国内の故郷から遠く離れた場所で、老人が子どもや孫たちとともに、棒と防水シートでできた掘っ立て小屋で身を寄せ合って暮らしています。

ロータリーデー

枝豆で地域と交流

君津ロータリークラブ

当クラブは10月26日、君津市三舟山の麓の幻の大豆「小糸在来」の豆畑で「ロータリーデー」と銘打って収穫祭を開催。例年は枝豆が実るこの時期に、社会奉仕委員会が中心となり、親子体験学習として地域の家族を招いて会員との交流をしていましたが、今回は、東日本大震災で君津市へ避難している家族の方々をお招きし、より広く地域の方々と親睦を図っていただこうと企画しました。

また、今回は10月24日の「世界ポリオデー」を目前に、当クラブのロータリアン一人ひとりが、ポリオ撲滅を意識した募金活動も行いました。鈎持純一会長の開催あいさつ、ロータリークラブ活動の紹介後、青木信之社会奉仕委員長の合図で会員・家族45人、地域のご家族48人、避難ご家族25人、総勢118人で枝豆を収穫。参加者のチームワーク、真剣な作業で枝豆畑は見る見るうちに更地になりました。

収穫した枝豆は早速ゆで上げ、準備したおにぎり、川名正志会員特製の枝豆がたっぷり入った豚汁を共に堪



能しました。子どもたちの笑顔、地域の人たちおよび東日本大震災での避難者の方々との交流、親睦そして枝豆のお土産もあり、素晴らしい一日でした。

収穫した枝豆の一部は近隣の福祉施設、セントケアホーム君津、天羽養護老人ホーム、望みの門、みずき会に届けました。資機材の準備、運搬、設営など、会員の一致団結した協力により意義のあるロータリーデーとなりました。

(第2790地区 千葉県)

中学生の英語による「我が町自慢」スピーチコンテスト

不破ロータリークラブ

8月23日、「ロータリーデー～FUWA」として「ロータリー」を広く住民の皆さまに知っていただくために、パネル展示、DVDによるロータリーの活動の紹介、出版物の配布などを行いました。

また、当日は「青少年奉仕」の一環として、青少年の国際感覚を養うため、垂井町・関ヶ原町の観光スポットや自慢できるところなどを英語で紹介する「中学生の英語による『我が町自慢』スピー

チコンテスト」を、同時開催。垂井町・関ヶ原町の、四校の中学生23人が参加して、それぞれの生活・体験の中で感じる「我が町自慢」を発表してくれました。英語のスピーチコンテストとしては2013年に続き2回目となり、今回はさらにレベルアップ。会場からは多くの拍手がありました。

(第2630地区 岐阜県)



ロータリーカップサッカー大会

一宮中央ロータリークラブ

7回目になる「ロータリーカップサッカー大会」は、今や地元のサッカー少年たちの一つの目標ともなっているようです。今回は「ロータリーデー」として9月23日、一宮市総合体育館に集まった32チーム、314人の児童たちの熱戦が繰り広げられました。

午後の決勝トーナメントに移ると、詰めかけた親たちの応援もヒートアップ。チャンスが訪れるたびに、盛んな声援が飛び交います。PK戦でゴールを外した少年の悔し涙が、ロータリアンの心を打つシーンも勝負を争うスポーツならではのもの。



ロータリアンチームとローターアクターチームのエキジビションゲームも行われ、ロータリアン側は日ごろの運動不足が露見。会場になごやかな雰囲気を漂わせました。表彰式で少年たちからこぼれる笑顔は、ロータリアンへの何よりの贈り物です。ほどよい疲れが心地よい一日となりました。

(第2760地区 愛知県)

地域の子どもたちと「ふれあい」

東京世田谷南ロータリークラブ

10月26日、今回初めての試みで「せたがや産業フェスタ2014」にて、子どもたちとのふれあいの時をつくりました。この日をロータリーデーとし、ヨーヨー釣りをはじめ玉川警察署の協力による、白バイ隊、そして東京世田谷南ロータリークラブが「地区補助金」を活用して寄贈したゆるキャラ「たまおくん」と「たまこちゃん」にも参加してもらい、地域の子どもたちからお父さん、お母さんたちまで楽しく、大盛況の一日を過ごしました。

(第2750地区 東京都)



市民ランナーに冷たいブルーベリーを

木更津ロータリークラブ

木更津ロータリークラブは、「ロータリーデー」の活動として10月19日に開催のちばアクアラインマラソンハーフマラソン2014ゴール付近に、ブースを設置。冷凍ブルーベリー(50kg)を用意し、市民ランナーに無料提供しました。

完走したランナーのほてった体を冷ましてもらおうと、会員、家族20人がフル回転でランナーに手渡すと、中にはお代わりする人もいて、あっという間にブルーベリーがなくなってしまうし



た。当日は1万6,809人の市民ランナーが参加し、会員と家族は秋晴れの下、心地よい汗を流して、充実した時間を過ごすことができました。

(第2790地区 千葉県)

ロータリーデー

そろいのハッピーエプロンで

北見ロータリークラブ 北見西ロータリークラブ

北見ロータリークラブ（RC）と北見西RCが協同で、7月18日、第61回北見ぼんちまつり会場において、ロータリーデーを開催しました。両クラブから40人の会員と会員夫人、ローターアクター、米山奨学生、事務局員の総勢50人が、そろいのハッピーエプロンで参加しました。ロータリークラブと両クラブを紹介するリーフレットとロータリーのロゴとクラブ名の入った「北海道の天然水 摩周湖」のペットボトルとうちわを各1,000個配りました。

準備段階では雨模様で心配しましたが、配布開始時には雨も上がり蒸し暑さも手伝い、ミネラルウォーターとうちわは大人気、舞踊パレードに参加する人がうちわ

を腰にさしてくれるなど予定していた1時間を待たずに配布終了となりました。お祭り会場は人出も多くロータリークラブを知ってもらうには絶好の機会となりました。

また、開催前の忙しい時間の合間を縫って、北見RCの鴨下泰久会長と北見西RCの栗山太郎会長が北見市のコミュニティFM放送局「FMオホーツク」を訪れ、生トーク番組に出演。ロータリークラブやロータリーデーについて語りました。



協同開催は準備期間が短かったこともあり開催前は不安でしたが、いざ始まれば全員が楽しく取り組むことができ、クラブ同士の絆もいっそう深まり、「クラブ」と「会員」が輝く一日となりました。

（第2500地区 北海道）

星の観察会

奄美RCロータリーデー実行委員長 喜入 厚

8月30日、第2730地区奄美分区の奄美瀬戸内ロータリークラブ（RC）、奄美中央RC、奄美RC協同で、ロータリーデー「ロータリーを楽しもう」研修イベント「星の観察会・ポリオ撲滅運動卓話」を、瀬戸内町蘇刈の美しいマリンブルーのビーチに面したホテルの前庭と屋上で開催しました。

当日、昼前後に雷雨に見舞われ、天候が大変心配されましたが、夜は満天の星空となり、星空観察にふさわしい空模様となりました。また夏休み最後の土曜日とあって、イベントの対象として新聞、ちらしなどで募集した小中学生の参加が危惧されましたが、島内各地から子どもたち約90人が集まり、加えて保護者、ロータリアンなど総勢240人が広大な夜空をキャンパスとした美しい空を眺

めながら、星空観察の指導員の説明を受け、「宇宙の不思議」について学び、また特殊な天体望遠鏡による絵に描いたような輪にまかれた土星を観察できました。

星の観察前には、瀬戸内RCの会員が設営して、かき氷やバイキングを子どもたちに楽しんでもらいました。その後、奄美RCがポリオ撲滅の歴史を屋外に設けた巨大スクリーンを通して説明し、特にポリオ撲滅まで「あと少し」を強く訴え、募金活動も成果が上がりました。

（第2730地区 鹿児島県）





THE ROTARIAN 2月号から

アメリカ 1) 11月、国際ロータリー（R I）事務総長のジョン・ヒューコ氏と6人のスタッフが、アリゾナ州ツーソンで行われた自転車レース「Ride to End Polio」に参加し、104マイル（約170 km）を走りました。2) ヒューコ氏と一緒に写真を撮るR Iスタッフ。3) このレースに参加したロータリアン、ボブ・マッケンジー氏とたたえ合うヒューコ氏。4) 年に一度行われる El Tour de Tucson の一環で行われるこの募金レースには、毎年9,000人以上のサイクリストが集まる国内最大級のサイクリングイベントの一つになっています。

温故知新

第 2500 地区

奥 周盛 ガバナー
(帯広 R C)



「温故知新」

私たちになじみのあるこの言葉は、孔子の教えである『論語』が出典です。原文は「子曰く、故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし」。意味するところは、先人の考え方や過去の出来事を学んでよく知り、それを生かして将来を見通せることが、良き指導者の資質として大事であるという格言です。今年度もいくつかのクラブが、活動計画の方針に掲げており、共感を覚えました。

今年度の国際ロータリー (R I) 会長・黄其光氏は、R I テーマ「ロータリーに輝きを」を、孔子の言葉「與其抱怨、不如改變」から引用しました。また、R I 会長メッセージの中で、「ロータリアンが大切にしてきた考え方や価値観の多くは、ロータリーに限られたものではありません。(中略) ロータリーの奉仕において、私はよく孔子の教えを指針とします」と語っています。孔子の思想である「儒学」には、「修身」「齐家」「治国」「平天下」という教えがあり、まず己の身を修めることに始まり、家庭、国家と徐々に視野を広げて、最後は世界の平和を目的としています。この価値観は、「ロータリーの目的」と大いに共鳴するところがあり、ロータリーの理念と相通じるというわけです。

日本のことわざに、「情けは人の為ならず」というのがあります。「人に親切にすることは、巡り巡って自分に良い報いがある」という意味です。これは、ロータリーの第 2 標語である「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と同義であると言われています。

人間にとって、生きがいや幸福、平和を導くものの考え方や価値観は、言語や地域が違ってもおのずから共鳴するものです。歴史に淘汰された普遍的な価値観は、古今東西変わらないものであると思います。だからこそ、「温故知新」という言葉が語り継がれていくのでしょう。

(建築設計)

徳多きロータリアンとの出会い

第 2510 地区

羽部 大仁 ガバナー
(札幌南 R C)



昔から言われている「ロータリーは紳士の修養道場である」は名言である。ロータリーは国際理解と親善と平和を推進するために奉仕活動を行ってきた。地域社会に奉仕することにより、世界に奉仕することにより、修養を積むことにより、素晴らしい人間が形成されてくるのである。ぜひ、これからの世界をロータリー運動で輝かせてほしいと念ずるばかりである。

若者の育成も大切なキーワードである。公式訪問を通じて多くのクラブで話したのが、比叡山延暦寺を開いた伝教大師・最澄が書いた『山家学生式』にある「一隅を照らす 此れ則ち国宝なりと (社会の一隅にしながら、社会を照らす生活をする。その人こそが、なくてはならない国宝の人である)」。最澄が中国 (唐) に渡り天台教学・真言・禅・法華経を学び、若者の育成こそ仏教の最大の事業であると桓武天皇に上奏した (申し上げた) のがこれである。「悪事を己に向かえ 好事を他に与え 己を忘れて他を利するは 慈悲の極みなり」。この心は、ロータリーの超我の奉仕に通じるものであると考えている。「一燈照隅 万燈照国」。一人ひとりのロータリアンが社会全体に奉仕の理想を掲げて生活することにより、世界中を平和に導くことになる。

ロータリーの第 2 標語に「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」がある。これは精神的な報いではないかと以前から考えてきたが、確信を持って心が報われるのである、と考えるに至った。それは多くの出会いの機会を通じての感動であった。

準備の期間とこれまでの公式訪問を通じて多くの素晴らしいロータリアンとの出会いがある。12 人のガバナー補佐と 70 人のクラブ会長、それに 70 人のクラブ幹事は、私の盟友である。「徳多き」ロータリアンに出会ったことが、ガバナーとして最高の報いであったと思う。

(仏教・浄土真宗)

被災地の子どもたちに 輝きを

第 2520 地区

山口 淑子 ガバナー
(盛岡滝ノ沢 R C)



第 2520 地区初めての女性ガバナーと言われ、どうい
うお役目を果たせばよいのだろうと悩んだガバナーエレ
クト時代、私は女性の視点に立ってロータリーを見つめ
ようと考えました。母であり小児科医でもある私は、子
どもに夢を、子育てに光をと思い「子どもが夢を抱ける
地域づくり」をスローガンにしました。特に、東日本大
震災の被災地区、岩手・宮城の子どもたちに夢を持って
ほしい、夢に向かって進んでほしいと考えました。

私は 60 歳からは、人生後始末の時だと思っています。
これまで母として妻として小児科医として、一生懸命に
生きてきました。16 年前に足を踏み入れたロータリーの
世界も広がってきていた 2 度目の会長の時、ガバナーノ
ミニーの話がきました。私の背中を押したのはノートル
ダム清心学園理事長・渡辺和子さんの著書『置かれた場
所で咲きなさい』であり、クラブの皆さまでした。

昨年 10 月、第 2580 地区（東京都・沖縄県）から鈴木
孝雄ガバナーはじめ 30 人余りの方が当地区を訪ねてくだ
さいました。1 日目は松塩ゾーン（宮城県松島・塩釜地
域）を視察し、夜にはこの地域のロータリアンと交流し
ました。翌日は沿岸を北上し、昼は気仙沼で、夜は岩手
県大船渡でロータリアンと交流しました。3 日目は三陸
鉄道で釜石へ。釜石駅では、地元の会員と S L 列車がお
出迎え。駅前広場にはロータリーのロゴの付いた歌碑が。
被災した方々が避難所の体育館で毎朝聞いて元気を取り
戻していったという釜石小学校の校歌でした。釜石市は
2019 年に日本で開かれるラグビーワールドカップの開催
都市に立候補しており、多くの住民が亡くなった鶴住居
地区にラグビー場を建設する予定であること、子どもた
ちをイングランドで開かれる 2015 ラグビーワールドカッ
プ観戦に連れて行きたいということを知りました。ぜひ
応援したいと思います。素晴らしい交流ができ、感謝し
ています。

(小児科医)

ぜひ、花も実もある福島 へこらんしょ !!

第 2530 地区

野崎 潔 ガバナー
(福島北 R C)



日本のロータリー誕生の基礎を築いた福島喜三次氏と
米山梅吉氏によってロータリーの灯がともされ、一時
日本での会員数も 13 万人を数えるまでに成長しました
が、現在は 89,058 人（2014 年 11 月末現在）と減少し、
当地区も各クラブとも会員増強に懸命に努力している
ところでもあります。そこで私は電話帳の『タウンページ』
を元に職業分類表を見直し、書き直された職業分類表に
より未充填の職種に会員候補者を見いだすことができる
のではないかと各クラブに呼び掛けました。結果は来年
度以降を待つこととなりますが、心中大いに期待してい
るところです。

東日本大震災から約 4 年が経過し、各地で除染作業
が行われておりますが、放射能による被害とそれによる
風評被害が加わり、観光地はもとより各企業とも苦戦を
強いられ、この状況から脱皮できるのには、まだ数十年
かかるだろうと言われております。すでに当地区の相双
分区の 2 クラブが昨年解散の憂き目に遭っております。
また全員が避難し例会を開くことが困難なクラブもあり
ます。警戒区域内のクラブが合同で例会を開き、ロータ
リーの明かりを消さぬよう「超我の奉仕」のもと、奉仕
と親睦を中心にして地区目標「ロータリーの心を大切に

クラブを活性化させよう！」を掲げ、風評被害を最小
限に食い止め、東北人の粘り強さと根性を発揮し、底力
を全国にアピールすべく努力しているところ です。今年
度は、福島中央ロータリークラブの努力により将来のロ
ータリアンとなるであろう青年男女 16 人から成る「福
島中央ローターアクトクラブ」が誕生しました。

現在、福島県産品は全て放射性物質の検査に合格した
物だけを出荷しております。県内は湯量豊富な源泉かけ
流しの温泉が点在しております。皆さまの心も体も癒や
されることでしょう。花も実もある福島へこらんしょ !!

(不動産管理業)

第 2540 地区と ガバナーと私

第 2540 地区

遠藤 芳徳 ガバナー
(横手 R C)



ガバナーになり、多くのことが思い出されます。例えば、新年度が始まった昨年の夏は、過去に自分がホームグラウンドとしていたクラブを公式訪問し、20 年前の私の写真（当時の会員名簿）を見せてもらう機会がありました。髪が真っ黒で若々しい自分がいて、自分自身なのにピンとこない感じがしました。

現在のクラブに所属して 11 年が過ぎ、全体を通したロータリーライフが 28 年目に突入しました。心情としては「そろそろ打ち止めかな……」と思ったところにガバナーノミニ推薦のお話をいただき「棚からぼたもち」というより「上から爆弾が来た」といった心情のもと、山あり谷あり、大変だなと思うことも多々ありながら新年度を迎え、地区大会を終えて……と、ここまで続けてこられました。

サンディエゴでの国際協議会へ参加する際、厳寒の雪深く、お正月が終わって間もない 1 月に所属クラブの皆さんに駅で見送ってもらった光景を、昨日のこのように感じます。

……と、感慨にふけりましたが、同様にわが地区の会員数にも違う意味で感慨深いものを感じています。ここ数年、第 2540 地区の「会員増強」は、常にクラブに課せられた重点的課題であり、危機迫る秋田県は今なお、皆、貫く決意で一人ひとりの意識が試されています。クラブに積極的に参加して、リーダーシップと知識を育み、生涯にわたる友情を見つけるよう提言することは、会員も、ガバナーも一緒ではないでしょうか。

組織の繁栄は皆さまの情熱にあり、その底力は、次世代へとつながっていくと確信しています。残る任期にガバナーとして第 2540 地区でできる会員増強の方策を練り、行動を律したいと思います。今後のロータリーが親しみ深く、健全で友情あふれる組織であり、それが地区運営へと輪のようにつながっていくことを望みます。

(食品製造)

継続と変化の大切さ

第 2550 地区

長嶋 一郎 ガバナー
(大田原 R C)



「皆さん、ガバナーの任期は通常一年です。一年で業績を残そうとすればおそらく失敗するでしょう。今までの流れ、先輩方が築いてきたことを大切にして、自分が始まったときよりも終わったときが少しでも良くなるようにすればよいのです」。サンディエゴの国際協議会で聞いた、私が尊敬する元国際ロータリー会長のカルヤン・パネルジーさんのこの言葉を、私は公式訪問ですべてのクラブに話しました。私たち日本人には非常に共感できる言葉であると思います。

日本のロータリークラブは伝統をととても大切にしています。第 2550 地区においても伝統のあるしっかりしたクラブがたくさんあります。「良いことを続けていく」ことがとても大切です。多くのクラブが地域のために優れた奉仕活動が続けてきています。しかし、同じことを同じように続けていくだけでは、クラブは衰退してしまいます。奉仕活動が続けていくうちに、変えなければならないことがあるのもわかってくるはずです。その時は勇気を持って変えるべきところを変えていかなければなりません。そうしなければ、クラブは良くなっていかないと思います。

私は、先輩ガバナー方が長年築いてこられたことを大切にして、それを少しでも良くしていきたいと心がけています。『ガバナー月信』に掲載した最初のガバナーメッセージで、「若者を育てましょう」と呼びかけました。先輩ガバナーがしっかり育ててきた青少年奉仕と米山記念奨学制度を、さらに充実させていきたいと強く思っています。

若輩の私にどこまでできるかわかりませんが、第 2550 地区のすべてのロータリークラブが、2015 年の 7 月には今より良くなっていることを願っています。

(内科医)

自然災害とロータリー

第 2560 地区

佐々木昌敏 ガバナー
(小千谷 R C)



第 2560 地区(新潟県)は、「災害日本」の例外ではなく、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震をはじめ、数々の自然災害に遭ってきました。災害を受けるたび、こういう時にロータリーは何をなすべきか、何ができるのか、自問自答を繰り返してきました。突発的な災害に対して、ただぼうぜんと成り行きを傍観するだけで、何の行動も取れなくてよいのか。地域が痛めつけられ、人命が危険にさらされても、ただウロウロしているだけでいいのだろうか。この“いざ”の時はロータリーにとって地域貢献の時であり、出番ではないかと。そこで地区組織として「ロータリー地域協働ネットワークセンター」を立ち上げることになりました(2012 - 13 年度設立)。“いざ災害発生”の時に、ロータリーも動いて、地域に密着した奉仕をしようと思ったのです。地域社会との関わりをもって初めて、ロータリーの理解を深めてもらえるだろう、地域貢献ができるだろう、ということであります。

理屈ではなく、行動して初めてロータリーの信頼が得られるだろう、地域とともに汗を流してこそ、時代の変化に対応したロータリーのあり方ではないかと考えているのであります。

組織の活動は、

1. 災害発生時…物資の調達、輸送、医療救護、外国人支援、募金など
2. 平時…警察 O B を会員とする新潟県警友会連合会、自衛隊退職者および予備自衛官を会員とする(公社)隊友会、新潟いのちの電話、(公社)にいがた被害者支援センター、日本ボーイスカウト新潟連盟、中越防災安全推進機構など各種団体と連携

こうした活動を通して、“いざ”に備えてお互いに顔の見える関係をつくっておくことが、地域の信頼を得ることにつながるということです。

(薬品小売)

入会した時を 思い出してみましょう

第 2570 地区

坂本 元彦 ガバナー
(富士見 R C)



地区内の公式訪問を終えて実感したことは、入会前にはほとんどの会員がロータリーのことをあまり知らなかったという事実です。このことから考えると一般の人々には本当に知られていないということでしょう。地区やクラブがまず取り組むべきことは、「会員増強」であると同時に、「ロータリーの公共イメージと認知度の向上」であると、今さらながら気が付きました。自分自身も家族や周囲にどれほどロータリーの情報を提供してきたのかと振り返ると、これまたロータリアンとして大いに反省させられました。

ロータリーは、その歩みとともに自然に多くの人々が知り得る存在になっていくでしょうが、日本の 8 万 9,000 人余のロータリアンが機会あるごとに、小さくても正しいロータリー情報を継続的に周囲に伝えていけば、より早くより広く、今以上に公共イメージと認知度を向上できるでしょう。簡単な方法の一つは、常にロータリーバッジを着けること。自覚も出るでしょうし、話のきっかけにもなります。エレベータートークや 3 分間スピーチも大切です。私も困らないように引き出しを多く持ちたいと自覚だけはしています。

昨年、地区大会終了時のお別れ食事会の席で、^{リウチーティエン}劉殷田国際ロータリー会長代理(台湾・第 3500 地区)は「ガバナーとはパストガバナーエレクトのことである」とおっしゃいました。「ロータリーには卒業はないのだ」「今の自分は何かに脱皮する前の状態なのだ」「本当の楽しみは後に残っているものだ」と私なりに理解しました。皆さまはどう思われますか？ パストガバナーは何エレクトでしょうか？ 同期の皆さんがんばってください。会長は？ 幹事は？ ロータリーバッジは丸いですから、元に戻るのがよいのかもしれません。気持ちも同じで、常に創立当時や入会直後の新鮮な気持ちになって、「今からスタートだ」と考えて行動するのがよいと思っています。

(整形外科)

東日本大震災復興願い「千年希望の丘」植樹に参加

金沢西 R C 田辺 邦雄

東日本大震災復興支援プロジェクト「千年希望の丘」植樹は、10月25日午後1時から仙台空港近くの宮城県岩沼市で行われ、金沢西ロータリークラブ(RC)から古谷謙明会長ら14人が参加しました。当クラブが今年度、創立50周年を迎えたのを機に友好クラブ提携をした浦和東RC(第2770地区)との、協同事業です。

この植樹事業は、現地の第2520地区阿武隈ゾーンの5つのロータリークラブと岩沼市が協力して行われ、サッカースポーツ少年団の子どもたちも加わり100

人規模の植樹のあと、植樹エリアは「七クラブ『一つ心に』の森」と命名されました。

植樹は阿武隈ゾーン代表の板橋敏之ガバナー補佐、古谷金沢西RC会長、町田哲雄浦和東RC会長らがオオシマザクラを代表で植樹し、参加者全員がイチョウヤカエデ、マツなどの苗木一本一本に希望の明日を願い、スコップやシャベルを持つ手に力がこもりました。

植樹に先立ち、第2520地区の山口淑子ガバナーとと



もに、現地ロータリアンの案内で被災地の復興状況を見て回りました。いまだに、津波で破壊されたままの住宅や小学校が散見され、慰霊碑に同じ名字が5人も6人も並び、一家全員が犠牲となる悲慘さを目の当たりにしました。被災した人々の心はいまだに癒やされぬままではないか、こうした中で私たちは何ができるのか、というもどかしい思いの中で、一日も早い復興を願わずにはいられませんでした。

(第2610地区 石川県)

ぶどう狩り・ワイン手づくり体験・郷土料理教室&観菊会

南陽臨雲RC 高橋 和義

南陽臨雲ロータリークラブ(RC)は、震災直後から毎年、被災地を訪れ炊き出しを行ったり、避難している家族をクリスマスパーティーに招待するなどの支援活動を行っています。

今回は、10月19日、東日本大震災のために当地区への避難を余儀なくされている家族15人を招き、地元のワイナリーで、郷土の特産品のぶどう狩りとワインの手づくり体験を、会員とともに行いました。参加者は「楽しいね」などと仲良く話しながら、楽しみました。

また、山形の郷土料理教室も同時開催し、菊のおひたし、おかひじきのおひたしを一緒につくりました。参加者は「意外と簡単でおいしい」「ぜひ家でつくってみよう」とやる気満々でした。

引き続き、毎年恒例の3クラブ(南陽RC、南陽東



RCと当クラブ) 合同の観菊会へ参加してもらい、ワインと料理で、楽しいひとときを過ごしてもらいました。

(第2800地区 山形県)

「石巻わかめ」を販売

東京青山RC 浜田かづみ

9月6日、当クラブの会員が宮司を務める北澤八幡神社のお祭りの場を借り、風評被害に遭っている「石巻わかめ」の販売をしました。ブースとなるテントの周りにはロータリーの幟を立てましたが、これはとても効果がありました。「私が、家族がロータリアンです」と言う人、台湾から遊びに来ていたロータリーの奨学生など、ロータリーの広がりを実感することができました。

また、ボランティア初参加の会員のお子さんは、作文を書いてくれました。

「ぼくは、この前初めてロータリーのボランティアの手伝いをしました。宮城県石巻市の復興支援のわかめを販売しました。復興支援のはたとわかめを持って、お店の呼び込みをしていました。最初はなかなか売れなかったけど、だんだん少しずつ売れたから、そのときはうれしかったです。そして、わかめの販売が終わった後は、おいしいお弁当を食べたり、祭りではくじ引きや射的をしたりしました。そしてその日は、最後まで楽しい気持ちで終われたから良かったです。ロータリーってもっとつまなくて、ものすごく大変な仕事かと思っていました。だけど、意外と楽しくて、おもしろい仕事だったか



ら良かったです。そして、これからも、またこのようなボランティアをする機会があれば、やっていきたいなと思いました。そしてだれかの役にたてるようなことをできたらいいなと思いました」

作文をいただいて、温かな気持ちになりました。ロータリーの幟に助けられ、ボランティアに参加してくれた子どもからは、ロータリー活動の素晴らしさをあらためて教えられた一日となりました。

(第2750地区 東京都)

ネパールカレーを仮設住宅で

郡山南ロータリークラブ

福島県双葉郡富岡町の方々は震災直後から、今もなお郡山市内の応急仮設住宅での避難生活を、余儀なくされています。このような中11月9日、富岡町社会福祉協議会主催の、富岡町福祉まつりが郡山市内で行われ、郡山南ロータリークラブ(RC)は、東京米山友愛RC(第2750地区 東京都)と協賛しました。東京米山友愛RCには、かねてから被災地への支援に声をかけていただいており、関係者の助力もあって協賛が実現しました。

会場となった富岡仮設住宅敷地内では、東京米山友愛RCおよび、郡山南RCの会員、佐原元パストガバナーをはじめ福島県内のロータリー関係者、ボランティアなど57人が協力し、東京米山友愛RCからはネパール出身のギリ・ラム会長ならびに会員17人が訪れました。

郡山南RCでは、スパイスの効いた「本場の味のカレー」を格安で販売し、また、ネパールのダンサー2人も参加した本場の踊りなどを披露し、会場には300人以上も集まり、大盛況の福祉まつりとなりました。

この収益金は、復興に少しでも役立てられるよう、富岡町社会福祉協議会に寄付しました。

富岡町の方々をはじめ応急仮設住宅で今なお避難生活を送っている方には、郡山南RCとしてできることを考え、少しでも早い復興に向け、今後とも取り組んでいきたいと思っています。

(第2530地区 福島県)



——東日本大震災



“よねやま”から広がる新しい世界 ④

信頼が築く交流と未来



米沢 R C

(第 2800 地区 山形県)

カウンセラー

秋葉 隆子 さん

可能性を信じて応援

エンフボルド・ボロルトヤさんは、私がお世話した 2 人目の米山奨学生です。カウンセラーを務めるのは久しぶりで、少し心配でしたが、彼女はとてもしっかりしていて明るい方で、お会いして安心したのを覚えています。

とはいえ、何事もなかったわけではなく、彼女の場合は非常に優秀な学生でしたので、米山奨学生になって間もなく、アメリカの大学への短期交換留学生に選ばれることになりました。ところが、4 か月ほどの留学期間中は奨学金が中断することがわかり、経済的に「行きたいけど、行けない」というジレンマを抱えて、しばらく悩んでいました。相談に乗る中で、私も彼女の可能性を信じ、できることなら行かせてあげたいと思いましたので、少しの間、個人的に支援させていただき、「頑張って行ってらっしゃい」と、送り出しました。

もっと交流を深めたいと思っていた時期に、しばらく来られなくなって、正直、寂しく残念に思う気持ちもありましたが、ボロルトヤさんは期待に応えて、一回りも二回りも大きくなって帰ってきてくれましたので、その成長を心からうれしく思いました。

受け入れて得られる新しいきっかけ

実際、ボロルトヤさんは留学や学業で忙しい中で、クラブとの交流など、よくやってくれたと思います。

米沢ロータリークラブ (R C) はほぼ毎年、世話クラブを引き受けていますので、米山奨学生は珍しい存在ではありませんが、毎回どの奨学生からも、受け入れる私

たちの側に、あらためて考えさせられることや、新しく得られることへのきっかけがあるような気がします。その経験を次に生かして、より良い交流につなげていくのが、この事業を続けていく意義ではないか、と私は思います。

ボロルトヤさんとの出会いによって、私を含めてクラブの会員は皆、モンゴルという国を身近に感じるようになりました。そういうきっかけは、とても大切だと思いますし、いい意味で広がっていければと思います。

カウンセラーのやりがいを実感

昨年の当地区の地区大会の前日、ボロルトヤさんは来日中の忙しいスケジュールを縫って、米沢 R C の芋煮会に駆けつけてくれました。久しぶりの再会を喜び、二人で話に花を咲かせたのですが、仕事やロータリーの活動に一生懸命頑張っている様子をうかがい、彼女の成長に、あらためてカウンセラーとしてのやりがいを実感しました。ロータリーに入会して 20 年以上になりますが、その中でボロルトヤさんのような人に巡り合えて、本当に良かったと思っています。

彼女が奨学期間を終え、帰国のために山形を離れる時、「結婚式には絶対に行くからね」と約束しました。自分の年齢のこともありますので、果たして行けるかどうか分かりませんが(笑)、実現することを願っています。



米沢 R C の芋煮会で仲良く「はい、チーズ」

モンゴルの米山学友エンフボルド・ボロルトヤさんは昨秋、米山学友の里帰り制度「米山学友ホームカミング」で来日。第2800地区（山形県）の地区大会でスピーチを行い、各所を回ってロータリアンと交流しました。現在、在モンゴル日本国大使館で働く傍ら、ローターアクトクラブや米山学友会の中心メンバーとしても活躍するボロルトヤさんと、奨学生の中から彼女の将来を信じ、応援してきたカウンセラーの秋葉隆子さんにお話を伺いました。



米山学友
エンフボルド・ボロルトヤさん

出身：モンゴル
奨学期間：2010 - 12
学校名：山形大学

山形の人々に支えられて

私は新モンゴル高校の5期生です。この学校は元米山奨学生のジャンチブ・ガルバドラッハ先生が設立した日本式高校で、多くの卒業生が日本に留学しています。私は同校から山形大学に留学した初の生徒ですが、山形大学出身のジャンチブ先生から「田舎である」「雪がすごい」、そして「人が良い」と山形について聞かされていました。来てみると、全くその通りでした。

山形の皆さんは、娘や孫のように接し、私の面倒を見てくれました。米山奨学生になってからは、米沢RCの皆さん、特にカウンセラーの秋葉さんに大変お世話になりました。大学の推薦で短期アメリカ留学の機会を得た時も、秋葉さんの応援のおかげで実現し、素晴らしい経験ができました。時々、秋葉さんのお店にお邪魔して、お茶をいただきながら話したこと、今後の人生や、女性としての生き方にアドバイスをくれた

ことなど、すべてが心に残っています。

モンゴルと日本の懸け橋に

現在は在モンゴル日本国大使館に勤務し、広報・文化・学術活動を担当しています。国費留学試験を実施し、モンゴルの学生を日本の大学に送るなど、両国の懸け橋となる仕事に、大きなやりがいを感じています。

母国では、ローターアクターとしても活動しています。所属するツェツェグンローターアクトクラブでは、大学生への奨学事業を始め、寄付金を集めるためのイベントを開くなど、高い志を持つ若者同士、楽しく社会に貢献しています。また、昨年3月には待望のモンゴル米山学友会が誕生し、私も役員として関わりながら、少しずつ活動を広げています。

今の私が形成され、充実した人生が送れているのは日本のおかげです。今後は両国間での人と人との相互理解を深め、世界のモデルとなる良い関係を築き、平和につなげていくこと、それがこれからの私の夢です。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



感謝の気持ちとともに —— 台湾米山学友会総会開催 ——

台湾米山学友会(中華民国扶輪米山会)の総会が12月13日、台北市内で開かれ、台湾学友ら約80人のほか、日本各地のロータリアンや学友が多数参加。韓国学友会からも全炳台会長ジョンビョンテが参加し、約130人が集う盛会となりました。総会では2014年春に「旭日中綬章」の叙勲を受けた米山学友・廖一久氏リョウイクキウ（『友』2014年7月号横組みP42参照）が登壇し受章の喜びとエビ養殖の研究にかけた半生を語り、学友会を代表して林維宏理事長からトロフィーが贈られました。また、昨年、米山記念奨学会理事長を退任した板橋敏雄名誉理事長にも感謝の品が贈呈されました。総会には毎年、多くの学友が日本への感謝の気持ちとともに集まっています。



トロフィーを受け取る廖一久氏（左）

ロータリーの特別月間が変わります

ガバナーエレクトが国際協議会（ガバナーエレクトの研修会）を終え、その研修の内容を、会長エレクト研修セミナー（P E T S）、地区研修・協議会で地区内のクラブに伝えるための準備をしているころだと思います。

各クラブでは、会長エレクトを中心に、国際協議会で発表される新年度の国際ロータリー（R I）テーマやR I 会長の方針に沿って新年度の準備が進んでいることでしょう。その準備の一つに、例会の準備もあるでしょう。多忙な人に卓話を依頼するために、かなり早くから例会の予定を決めているクラブも少なくないと思います。

例会の卓話を、また、奉仕活動を、ロータリーの特別月間に合わせて計画をしているクラブもあると思います。特別月間が制定されたのは、1983 - 84 年度からで、それ以前はすべてが特別週間でした。月間の制定に伴い、自動的にそれまで週間だったものが月間になったのです。

その特別月間が、昨年 10 月に催された R I 理事会で大きく変更されました。新年度（2015 年 7 月）から変更されます。

新しい月間は以下の通りです。

- 8 月 会員増強・拡大月間
- 9 月 基本的教育と識字率向上月間
- 10 月 経済と地域社会の発展月間
- 11 月 ロータリー財団月間
- 12 月 疾病予防と治療月間
- 1 月 職業奉仕月間
- 2 月 平和と紛争予防／紛争解決月間
- 3 月 水と衛生月間
- 4 月 母子の健康月間
- 5 月 青少年奉仕月間
- 6 月 ロータリー親睦活動月間

なお、10 月の「米山月間」は、日本独自で定めた月間ですから、従来通りで変更はありません。

これまでも R I 理事会の決定によって、特別月間が変更されたり、追加されたりしたことは何度かありますが、これだけ大幅に変更されるのは、前例がなかったように思います。

ですから、新しい月間を見て、戸惑われる方もいらっしゃるかもしれません。ロータリー地域雑誌の編集者としては、「雑誌月間」や「ロータリー理解推進月間」がなくなるのは少し寂しい気がしますし、心配でもあります。さまざまなロータリーに関する情報について、ロータリアンがあらためて意識する機会がなくなるのではという懸念からです。

一方で、新しい月間を見てみると、毎月、これらについて考えれば十分にロータリーの情報を知ることができる、と言えるのかもしれませんが。これまで行ってきたことを少し視点を変えて見てみよう、ということかもしれません。

ロータリアンが知ることが難しい、さまざまな問題にスポットライトを当てることで、世界や地域のニーズを知り、ニーズに合った奉仕活動を計画、実施することができるようになるからです。

ロータリーはどんどん変化し続けていますが、その本質は変わらないと思います。時代に合わせて、方法が少しずつ変わっているのだと思います。その一つが、今回の特別月間の変更でしょうか。

それにしても、ここのところあまり変更がなかった特別月間ですから、うっかりすると以前の月間と混乱してしまいそうです。新年度は、毎月カレンダーで「今月は何月間？」と確認することになりそうです。

なお、特別週間については、R I 理事会で変更の決定はされていませんから、新年度もそのまま継続されます。7 月からは「ロータリー財団の資金モデル」も変更になります（本誌横組み P39 ~ 46 を参照）。きちんと確認をして、新年度に備えましょう。

『友』編集長 二神 典子



GLOBAL OUTLOOK

ロータリアンのためのロータリー財団の資金モデル入門



ロータリー財団の 資金モデル

ロータリー財団は従来、運営費のほぼすべてを投資収入で賄ってきました。金融市場に依存するこの方法では、市場が落ち込めばその年度は投資収入で運営費を賄えなくなる可能性があり、事実、過去に国際財団活動資金（WF）から運営費を借用し、市場回復後にこれを返済したこともありました。

財団が将来的に十分かつ安定したリソースを確保できるよう、管理委員会は、2015年7月1日から有効となる資金モデルを承認しました。この変更により、大規模で持続可能なプロジェクトを支援する財団の力が長期的に高まると期待されています。

本号では、この資金モデルについてご紹介します。



資金モデルのしくみ

資金モデルの根幹はこれまでと変わりません。年次基金（シェア）への寄付はすべて3年間投資され、その50%が地区財団活動資金（DDF）、残り50%が国際財団活動資金（WF）に配分されます（国際財団活動資金は、全地区が利用できる補助金とプログラムを支える資金です）。今後も運営費（寄付推進費と一般管理運営費）の大半は、投資収入によって賄われます。恒久基金の投資収入の一部も、運営費に充てられます。今回の変更は、投資収入にかかわらず運営費を確保できるよう、収入源を多様なものとするを意図したものです。

何が変わるのか

年次基金寄付の5%

運営費を賄い、運営準備金を十分なレベルまで補充するための投資収入が不足している場合、その不足分を補うために年次基金寄付の5%が使用されます。この5%は、WFから差し引かれるものであり、**DDFに対する影響は一切ありません。**

例をとってご説明しましょう。年次基金（シェア）への100ドルの寄付は、50ドルがDDF、50ドルがWFとなります。投資収入で運営費を賄えない場合、または運営準備金を十分なレベルまで補充できない場合に限り、寄付の5%、すなわち5ドルが使用されます。つまり、50ドルがDDF、45ドルがWF、5ドルが運営費となり、この5ドルはその後の投資収入から、年月をかけて補填されることになります。その年度に運営費と運営準備金のための十分な投資収入があれば、WFは50ドルのままとなります。

グローバル補助金への現金拠出の5%

グローバル補助金への現金拠出は、年次基金への寄付とは異なり、より多くの事務手続きが必要となります。グローバル補助金では通常、複数の提唱者が現金を拠出します。また、複数国のクラブが参加するため、通貨を変換する必要があります。一括でクラブから現金が送られる場合もありますが、会員が別々に寄付を送金してくるクラブもあります。その結果、寄付記録や管理、寄付者の認証手続きは複雑になります。その一方で、グローバル補助金への寄付は財団の口座を「通過」するだけであるため、事務手続きの経費を賄うための投資収入をほとんど生み出しません。今回取り入れられた資金モデルでは、手数料として、提唱者のグローバル補助金の現金拠出額の5%を追加で支払うことになります。



7月から 何が変わる？

年次基金への寄付の5%は、運営費を賄うための十分な純投資収入が得られなかった場合に限り、運営費または運営準備金に充てられます。これまで管理委員会は、運営費を賄える投資収入がなかった年度に、国際財団活動資金（WF）に頼っていました。今後、1年間に5%を超えてWFから運営費（または運営準備金）が支出されることはありません。

グローバル補助金に現金拠出をする場合、手数料として、提唱者は5%分を追加して支払う必要があります。

その理由は、これによって多様な資金源を確保し、純投資収入への依存度を和らげることができるからです。

よくある質問

従来の運営費の調達方法と大きく異なるのでしょうか。

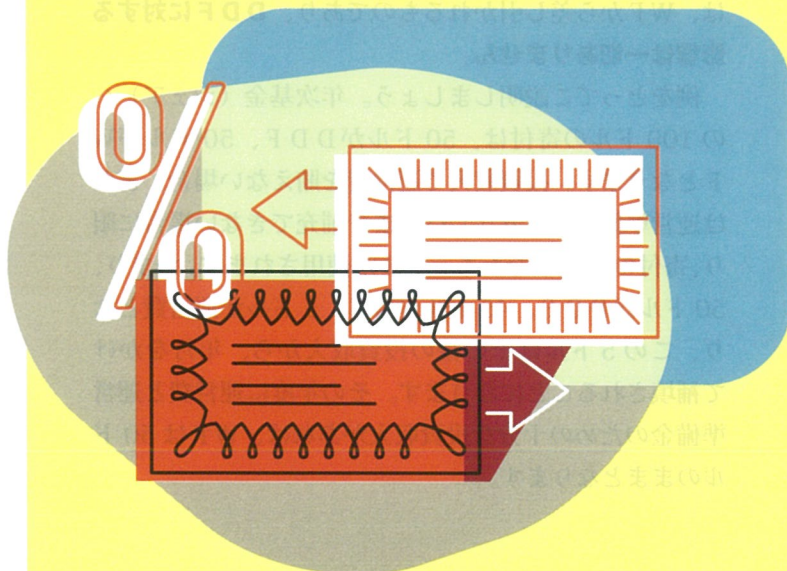
資金の流れとしては、従来からの大きな変更というわけではありません。特に、DDFについて一切変更がないことは重要な点です。

運営準備金の「十分なレベル」とはどのような意味ですか。

財団は、運営費の3年分を準備金として蓄える必要があります。堅調な投資収益によって2014－15年度には十分な資金があるため、現時点で準備金は十分なレベルに達しています。

グローバル補助金の資金調達にはどのような影響がありますか。

グローバル補助金への現金拠出の手数料として追加の5%が必要になります。グローバル補助金オンライン申請書の調達資金のページにシステムの変更が加えられ、追加の5%とプロジェクト実施のために求められる資金の総額が自動表示されるようになります。



グローバル補助金に現金を拠出する場合、提唱者は5%を追加して財団に支払う必要があるのですか。

はい。この5%と提唱者拠出金がすべて支払われるまで、補助金の要件は完了とみなされません。ただし、財団ではなくプロジェクトの銀行口座に直接現金を送金する場合、財団での手続きが必要ないため、追加の5%は支払う必要はありません。また、DDFを使用する場合も追加の必要はありません。提唱者は、オンライン申請書の計算機能を活用して、プロジェクト資金の調達方法を検討することができます。

財団を通じてグローバル補助金に現金を拠出した場合、認証ポイントはどのようにになりますか。追加の5%もポイントの対象になりますか。

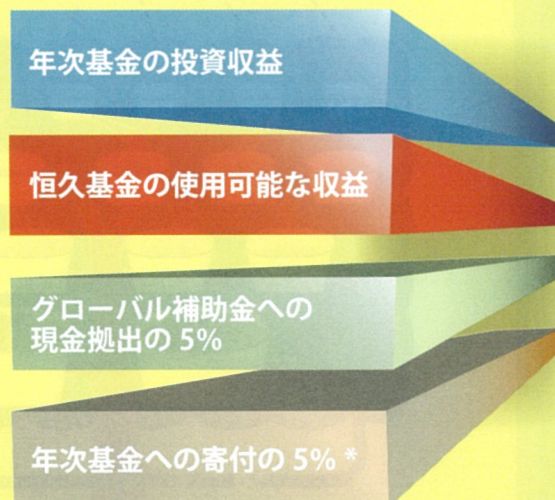
ポール・ハリス・フェローの認証ポイントは、5%を含む現金寄付額に対して授与されます。該当する場合、公益財団法人ロータリー日本財団から、全額について確定申告用の領収書が発行されます。

この変更は、主要な慈善団体としてのロータリーの定評に影響を与えますか。

責任をもってご寄付を管理することにより、ロータリー財団は、複数の独立慈善格付け機関から最も高い評価を得ています。10月には、Charity Navigatorから再び最高の4つ星評価を得ました。事実、非営利組織に関する主要な情報機関であるBBB Wise Giving Alliance、Charity Navigator、GuideStarは、非営利組織の評価基準に変更を加え、組織の「活動成果」を重視するようになりました。コスト全般を妥当に抑えることは現在も重要とされる一方で、研修、プランニング、内部システム、運営への投資も重要であると、これらの機関は述べています。これらの機関が合同で発行した書簡を www.overheadmyth.com でご参照いただけます。ロータリーは今後も、透明性、責任ある資金管理、プログラムの成果と持続可能性に力を注ぎ、定評があり信頼できる慈善組織であり続けるよう努力していきます。

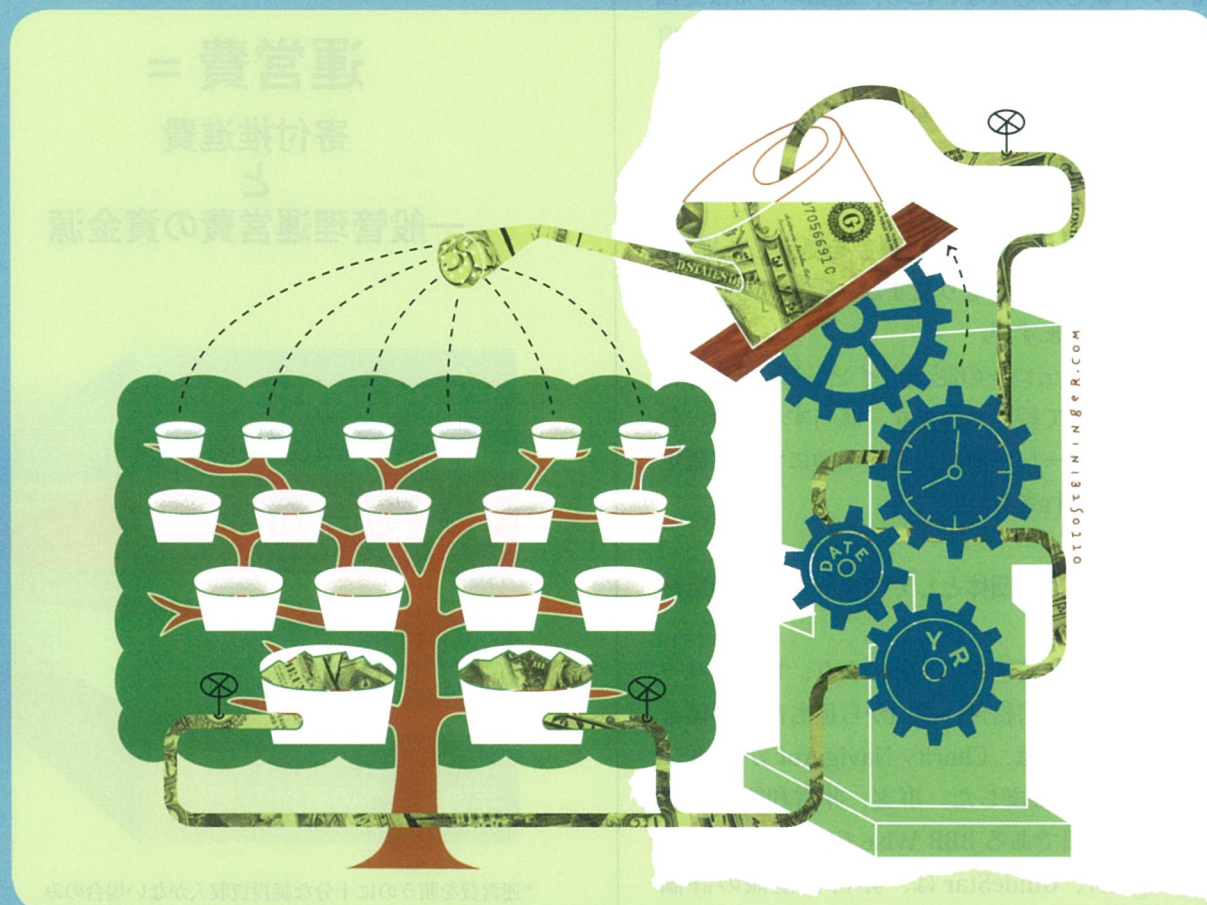
なにが2015年7月1日以降の
運営費の資金源に
なりますか？

運営費 =
寄付推進費
と
一般管理運営費の資金源



* 運営費を賄うのに十分な純投資収入がない場合のみ

グローバル補助金 への 影響



例えば、ウガンダの辺境の地で水プロジェクトを実施するために、地区が総費用 45,000 ドルのグローバル補助金プロジェクトを申請する計画を立てているとします。DDFのみを使う場合、これまでと変わりはありません。

地区が財団を通じて現金拠出する場合、追加の 5%を支払う必要があります。このため、総額 45,000 ドルのグローバル補助金プロジェクト

で、地区が現金 30,000 ドルを拠出し、WF からの上乗せ 15,000 ドルを受領する場合、現金拠出額は 31,500 ドルとなります。

オンラインの補助金システムでは、現金拠出額を入力すると、自動的に必要な送金額が算出され、表示されます。

イアン・ライズリー 管理委員に聞く

財団の資金モデルについてロータリアンが知っておくべき最も重要なことは何ですか？

この資金モデルは、財団の収入源の多様化によって長期的な財務の安定性を高めるものです。

資金モデルへの変更について会員からどのような懸念が挙がっていますか？

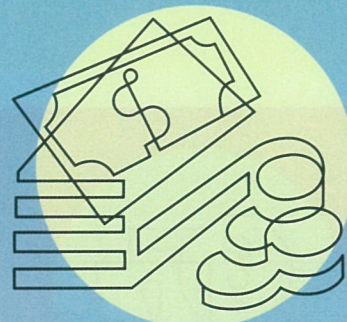
今回の変更が現行モデルからの大きな変更だと危惧している会員がいらっしゃるようです。しかし、実際には変更はごくわずかなものです。また、DDFへの影響について尋ねてくる方もいますが、DDFへの変更は一切ないことにご留意いただくことが重要です。資金モデルへの変更は、単に、既に行われている手続きに一定の枠を設けるものであり、グローバル補助金については、財団を「通過」する寄付の事務手続きの経費を賄うというニーズに応えるものです。

会員からの懸念にどう対応していますか？

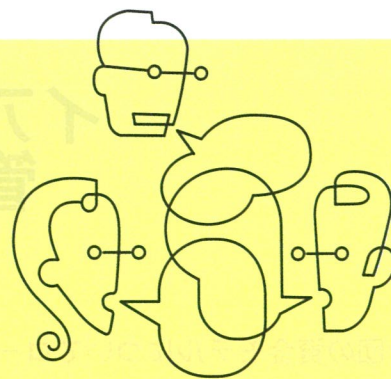
資金モデルに関する公式のご案内や文書を、全会員に読んでいただきたいと思います。管理委員会は、オープンで明瞭な連絡を行うことによって、財団プログラムへのロータリアンの信頼が高まり、結果的にご支援と積極的な参加が促されると信じています。ウェブサイト（Rotary.org）に掲載されたお知らせには、この変更について詳しく説明した『ロータリー財団の資金モデル』という資料へのリンクも掲載されています。地区とクラブの役員と委員会のための研修資料も、現在、改訂作業が行われています。ロータリアンからのお問い合わせ専用Eメールアドレスも作られましたので、ご質問のある方は fundingmodel@rotary.org までお問い合わせください。

知っておくとお得な情報

グローバル補助金にDDFを使用する場合はWFから同額が上乗せされますが、現金拠出に対しては上乗せは半額となります。また、DDFを使用する場合、補助金の手続きにかかる時間が現金拠出よりも短くなります。このため、左ページのウガンダのプロジェクトの事例でいえば、DDFのみを使用した場合、もっと多くの井戸を、もっと早く設置できるようになります。



私たちの資金



年次基金（シェア）とは何ですか？

年次基金（シェア）とは、地元や海外におけるロータリー財団の幅広い活動を支える主な資金源です。「Every Rotarian, Every Year（E R E Y）」は、財団の年次基金への支援を促進するための取り組みです。E R E Yは、すべてのロータリアンが、毎年年次基金に寄付することを奨励するものです。地区の全ロータリークラブからの年次基金（シェア）へのご寄付は、2つの資金、「国際財団活動資金（WF）」と「地区財団活動資金（DDF）」に分けられます。このシェアシステムを通じて、ロータリー財団へのご寄付が補助金へと生まれ変わります。

国際財団活動資金（WF）とは何ですか？

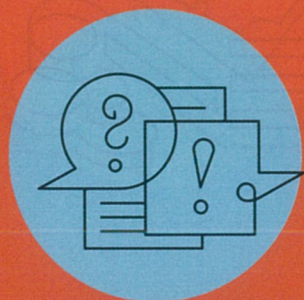
WFは、世界中で最も優先される活動に充てられます。シェアへのご寄付の50%がWFとなります。財団は、すべての地区が利用できる補助金とプログラムのためにWFを活用します。

地区財団活動資金（DDF）とは何ですか？

地区財団活動資金（DDF）は、地区や地区内クラブが選んだ、財団やクラブおよび地区のプロジェクトに充てられます。地区は、DDFの半分までを地区補助金として利用できます。DDFの残りは、グローバル補助金として利用するか、ポリオプラス、ロータリー平和センター、他地区に寄贈することができます。

恒久基金とは何ですか？

恒久基金は、財団およびその補助金とプログラムの未来を確かなものとするための基金です。恒久基金の使用可能な投資収益により、財団が既存の活動を拡大するとともに、新しい活動を支援することが可能となります。ご寄付は恒久的に投資され、基金の評価額の合計の一定の割合が、毎年、財団の補助金とプログラムに直接充てられます。



ご質問がありますか？

ロータリー財団の資金モデルについて質問のあるほかの方々に、この情報をお伝えください。資金モデルに関するお問い合わせは、fundingmodel@rotary.org にご連絡ください。

国際大会カウントダウン

平和に向けた行動

1987年にノーベル平和賞を受賞したオスカル・アリアス・サンチェス元コスタリカ大統領が、6月4～5日にサンパウロ（ブラジル）で開かれるロータリー平和シンポジウムで基調講演を行います。このシンポジウムは、ロータリー平和フェローと学友、そしてロータリーの6つの重点分野の一つ「平和と紛争予防／紛争解決」に関心のあるロータリアンが、一堂に会する機会となります。



1986－1990年と2006－2010年に大統領を務めたサンチェス氏は、危機と動乱の時代に中米での平和を実現させた功績により、ノーベル平和賞を受賞しました。

シンポジウムではこのほかに、ロータリー財団のジョン・ケニー管理委員長とキャロライン E. ジョーンズ元管理委員も講演を行います。分科会では、人身売買、水問題が平和に与える影響、先住民の土地の権利、経済と平和といったトピックが扱われます。

ロータリー平和シンポジウム（登録料150ドル）は、ロータリー国際大会（6月6～9日）の会場であるアニエンビ展示場にて開催されます。シンポジウムは、6月3日に非公式な集まり「アンコンフェレンス（unconference）」で幕を開けます。そのほかにも任意参加の行事として、6月4日の夕食会（100ドル）、6月5日の昼食会（40ドル）があります。

ロータリー平和シンポジウム（登録料150ドル）は、ロータリー国際大会（6月6～9日）の会場であるアニエンビ展示場にて開催されます。シンポジウムは、6月3日に非公式な集まり「アンコンフェレンス（unconference）」で幕を開けます。そのほかにも任意参加の行事として、6月4日の夕食会（100ドル）、6月5日の昼食会（40ドル）があります。

詳細と登録方法は www.riconvention.org/ja/peace をご参照ください。

サンパウロで開かれる2015年ロータリー国際大会への登録は www.riconvention.org から。

今後のR I 国際大会

2015年6月6～9日

ブラジル・サンパウロ

（以下、予定）

2016年5月29日～6月1日

韓国・ソウル

2017年6月10～14日

アメリカ・アトランタ

2018年6月24～27日

カナダ・トロント

統計

全世界ロータリアン総数

1,220,115人

クラブ数 34,558 クラブ

地区数 536 地区

国と地域 200 以上

ローターアクト会員数 169,395人

クラブ数 7,365 クラブ

国と地域 160 以上

インターアクト会員数 396,980人

クラブ数 17,260 クラブ

国と地域 150 以上

2014年10月1日現在

* 2014－15年度

ロータリーの
ニュースは

ROTARY
JAPAN
Home Page
www.rotary.or.jp

R I 指定記事

管理委員長の思い

ロータリー平和シンポジウムに参加しませんか

2014－15年度ロータリー財団管理委員長 ジョン・ケニー

ロータリー財団では、3年に一度、国際大会前行事として「ロータリー平和シンポジウム」を開催していますが、次回は、6月4～5日、ブラジルのサンパウロで行われます。



ロータリー平和センターの修士課程または修了証取得プログラムで学んだロータリー平和フェローによる活躍が紹介されるシンポジウムでは、平和に関連した教育プログラムと奨学金についてロータリアンと支援者に情報を提供するとともに、ロータリアンとロータリー平和フェローが平和構築において協力する方法を模索する機会となります。これまでに、ノーベル平和賞受賞者のデズモンド・ツツ大司教をはじめとする国際的な平和構築家が講演者として招かれており、分科会では、ロータリー平和フェローによる最前線での取り組みや、平和の分野におけるロータリアンの活動にスポットが当て

られてきました。

第1回本会議では、コスタリカで二度の大統領任期（1986－1990年、2006－2010年）を務め、1987年にノーベル平和賞を受賞したオスカル・アリアス・サンチェス氏を講演者としてお招きする予定です。サンチェス氏は、最初の大統領任期中に中米和平合意を成立へと導き、中米での武装紛争の収束に大きく貢献しました。

現在、サンパウロ平和シンポジウム委員会は、これまでとは異なる創造的で魅力的なシンポジウムの計画を進めており、80人の元ロータリー平和フェローが出席する予定となっています。

平和シンポジウムへの出席経験がない方は、平和推進のためのロータリーの活動について理解を深めるために、ぜひご出席ください。出席した経験のある方にとっても、画期的なプログラムを通じ、充実した経験となることでしょう。

シンポジウムで、皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。

新クラブ

東京あけぼの (2750・東京都)

スポンサークラブ 東京築地

2014年12月19日承認 No.2388

会員数 22人 例会日 月 19:30

例会場 東海大学校友会館

事務所 〒108-0074 港区高輪 4-6-8-701 関根方

会長 近藤 修一 幹事 杉浦藤一郎

事務所住所変更

洞爺湖 (2510・北海道)

〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉 54 秋田商事内

金木 (2830・青森県)

〒037-0202 五所川原市金木町玉水 180-7

又一荒関商店内

春日部イブニング (2770・埼玉県)

〒344-0052 春日部市梅田 2-9-5

細井方

浦和南 (2770・埼玉県)

〒333-0866 川口市芝 2-4-25

相模原橋本 (2780・神奈川県)

〒252-0143 相模原市緑区 3-19-17

プリムローズ 507

高槻東 (2660・大阪府)

〒569-1116 高槻市白梅 4-1

西武高槻店 2階

岡山後楽園 (2690・岡山県)

〒700-0923 岡山市北区大元駅前 3-57

鹿児島・鹿児島中央・鹿児島西

(2730・鹿児島県)

〒892-0814 鹿児島市本港新町 5-4

鹿児島ウォーターフロント内

鹿児島東 (2730・鹿児島県)

〒892-0844 鹿児島市山之口町 9-8

サンデイズイン鹿児島内

2015 - 16 年度 『友』誌表紙写真 ロータリアンから募集 テーマは 設けません

4月30日締め切り

次年度の表紙写真を募集いたします。テーマは設けません。募集要領は下記の通りです。

- ① 締め切り 2015年4月30日
- ② 点数 1人3点まで
- ③ サイズ 紙焼き四つ切り (それに近いサイズも可)
- ④ 添付資料 名前、クラブ、連絡先住所・電話・ファクス、タイトル、撮影場所、撮影年月、撮影データ (カメラ名、使用レンズ〔ミリ〕、露出、シャッターの速度)、簡単な写真説明。
- ⑤ 発表 『友』誌 2015年8月号、ホームページ『ロータリージャパン』(6月下旬予定) に入選者のみ。
- ⑥ 審査員 ロータリーの友編集担当理事ほか。
- ⑦ その他 表紙のサイズに合わせトリミングをする場合があります。／写真の上にタイトルその他の文字がかかる場合があります。／採用決定作品は、掲載時にネガフィルム、ポジフィルム、デジタルカメラの場合はデータが必要になります。／掲載に際して、賞金ならびに掲載料等の支払いはいたしません。／入選作品の著作権は撮影者に帰属します。『ロータリーの友』は、印刷物(『ロータリーの友』、『友』英語版、その他)ならびにウェブサイトへの掲載、展示などの使用権を保有します。／応募作品の返却はいたしません。

敬弔 第2520地区・豊島純三郎氏が11月18日逝去されました。93歳。謹んで哀悼の意を表します。

(宮古RC会員・1998-99年度G)

例会場・曜日・時間変更

春日部イブニング (2770・埼玉県)

春日部市商工振興センター アクシス

高槻東 (2660・大阪府) 西武高槻店 6階

防府北 (2710・山口県) 全例会 18:30

鹿児島・鹿児島中央・鹿児島西

(2730・鹿児島県)

鹿児島ウォーターフロント

鹿児島東 (2730・鹿児島県)

サンデイズイン鹿児島

クラブ名称変更

大川東→久留米南部 (2700・福岡県)

2015年1月5日承認

新インターアクトクラブ

兵庫県立神崎高等学校

(2680・兵庫県・神崎)

発会 2014年9月25日 会員数 23人

〒679-2415 神崎郡神河町福本 488-1

兵庫県立神崎高等学校内

会長 横田 信弘 幹事 小林 寛弥

インターアクトクラブ終結

京都府立桃山高等学校

(2650・京都府・京都洛南)

2014年11月30日承認

2015年6月号『友』誌 表紙写真、再々募集 締め切り3月末!

ロータリアンからお寄せいただく表紙写真、2014 - 15年度6月号再々募集です。詳細は本誌横組みP51、または『ロータリージャパン』www.rotary.or.jpをご覧ください。今年度最終号の表紙を飾るラストチャンス、お待ちしております。

◆ご案内 本ページ毎号掲載の右記一覧表は3つのゾーン順で、横組みP50奥付の、日本ロータリー分布図の色分けと対照しご覧ください。

2015 - 2016 年度版 ロータリー手帳 ご予約受付中

ロータリアンの皆さまのご意見を受けて「ロータリー手帳」は毎年、改訂を加えご準備しております。

2014 - 15 年度から、表紙デザインも一新しました。会員の皆さまからのお声により、使いやすいよう聞き具合などに微調整を施し、ペンサックを太くするなど工夫を凝らしています。

ロータリー年度に合わせてのスタイルや、全国34地区のガバナー事務所や地区大会の予定など、ロータリー関連事項の掲載は変わりません。

付録の年間スケジュール帳、アドレス帳、ロータリー関連資料の3点も最新版へ、リニューアルしております。手帳の色はロータリーカラーであるロイヤルブルー、サイズは男性上着の内ポケットに入る大きさで、女性のハンドバッグの中でも邪魔になりません。

詳細は2月1日付で、ロータリークラブにお送りしたご案内状を、ご覧ください。

(定価 600 円 + 消費税 / 送料別)

ご注文は、クラブ事務局を通じて、お早めにロータリーの友事務所まで、お願いいたします。

◆お知らせ 橋本紀ノ川 (2640・和歌山県) が2014年12月31日付で国際ロータリーから脱会しました。

ご投稿・お問い合わせは——

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15
黒龍芝公園ビル 4 階
一般社団法人ロータリーの友事務所
ロータリージャパン www.rotary.or.jp
Tel. 03-3436-6651 Fax. 03-3436-5956
編集部メール hensyu@rotary-no-tomo.jp

地区別クラブ数・会員数・出席率一覧表 (2014 年 11 月末現在)

地区	R C 数	会員数	前年同月末 会員数	出席率(%)
第 2500 地区	67	2,290	2,238	80.00
第 2510 地区	70	2,598	2,594	82.38
第 2520 地区	80	2,312	2,311	78.69
第 2530 地区	66	2,367	2,342	81.03
第 2540 地区	42	1,111	1,066	78.47
第 2550 地区	51	1,723	1,677	84.58
第 2560 地区	56	2,091	2,035	82.78
第 2570 地区	52	1,700	1,722	81.46
第 2770 地区	75	2,641	2,631	84.62
第 2790 地区	84	2,803	2,779	82.95
第 2800 地区	50	1,629	1,646	85.56
第 2820 地区	58	2,004	2,019	83.64
第 2830 地区	41	1,139	1,141	81.57
第 2840 地区	46	2,013	1,927	81.68
第 2580 地区	70	3,037	3,045	83.93
第 2590 地区	60	2,192	2,200	89.21
第 2600 地区	55	2,004	2,030	87.06
第 2610 地区	65	2,646	2,684	81.47
第 2620 地区	78	3,025	3,070	89.50
第 2630 地区	80	3,145	3,143	85.54
第 2750 地区	98	4,743	4,648	79.93
第 2760 地区	84	4,867	4,888	93.24
第 2780 地区	64	2,345	2,250	79.93
第 2640 地区	71	1,997	2,053	85.04
第 2650 地区	97	4,665	4,617	88.68
第 2660 地区	82	3,697	3,721	86.40
第 2670 地区	74	3,004	2,999	84.74
第 2680 地区	73	2,898	2,899	91.22
第 2690 地区	67	3,116	3,125	84.75
第 2700 地区	61	3,216	3,234	89.77
第 2710 地区	74	3,332	3,304	89.86
第 2720 地区	74	2,439	2,419	85.40
第 2730 地区	65	2,356	2,354	81.74
第 2740 地区	57	2,236	2,214	85.30
34 地区合計	2,287	89,381	89,025	

日本のロータリー
会員数 89,058 人
クラブ数 2,278
(左の表中 34 地区合計から、
第 2750 地区の P B グループ
を引いた数です)

ガバナー月信より 第 2750
地区のクラブ数・会員数は、
P B グループ 9 R C 323 人
(北マリアナ諸島・グアム・
ミクロネシア・パラオ)を含
みます。P 6「日本のロータ
リー」数は、34 地区合計から
P B グループを引いた数にな
ります。前年同月末 P B グ
ループ 8 R C 会員数 286 人。

修正 本誌 11 月号横組み
P 44 (8 月末) 表中、地区
会員数修正: 第 2620 地区
3,009 人、34 地区合計会員
数を 88,676 人へ、表外と
P 6「日本のロータリー」最
終行の会員数を 88,361 人
へ修正。本誌 12 月号横組み
P 46 (9 月末) 表中、地区
会員数修正: 第 2620 地区
3,011 人、第 2780 地区 2,331
人、34 地区合計会員数を
88,894 人へ、表外と P 6「日
本のロータリー」最終行の会
員数を 88,579 人へ修正。
本誌 1 月号横組み P 37 (10
月末) 表中、第 2770 地区平
均出席率を 82.75%へ修正。
地区会員数修正: 第 2830 地
区 1,135 人、第 2620 地区
3,023 人、第 2750 地区 4,743
人、第 2780 地区 2,337 人、
第 2700 地区 3,202 人、34
地区合計会員数を 89,236 人
へ、表外と P 6「日本のロー
タリー」最終行の会員数を
88,913 人へ、P B グループ
323 人へ修正。
*『ロータリー・ジャパン』の
「ロータリー関連資料」には、
データ修正後の表を掲載。
*第 2520 地区の数値はすべ
て概数です。

ロータリーの友 3 月号主要記事予定

横組み 特集 識字率向上月間

ローターアクト週間

心は共に 東日本大震災から 4 年

縦組み 和魂和才 すこやかに生きる漢方の知恵

千葉中央メディカルセンター和漢診療科・部長

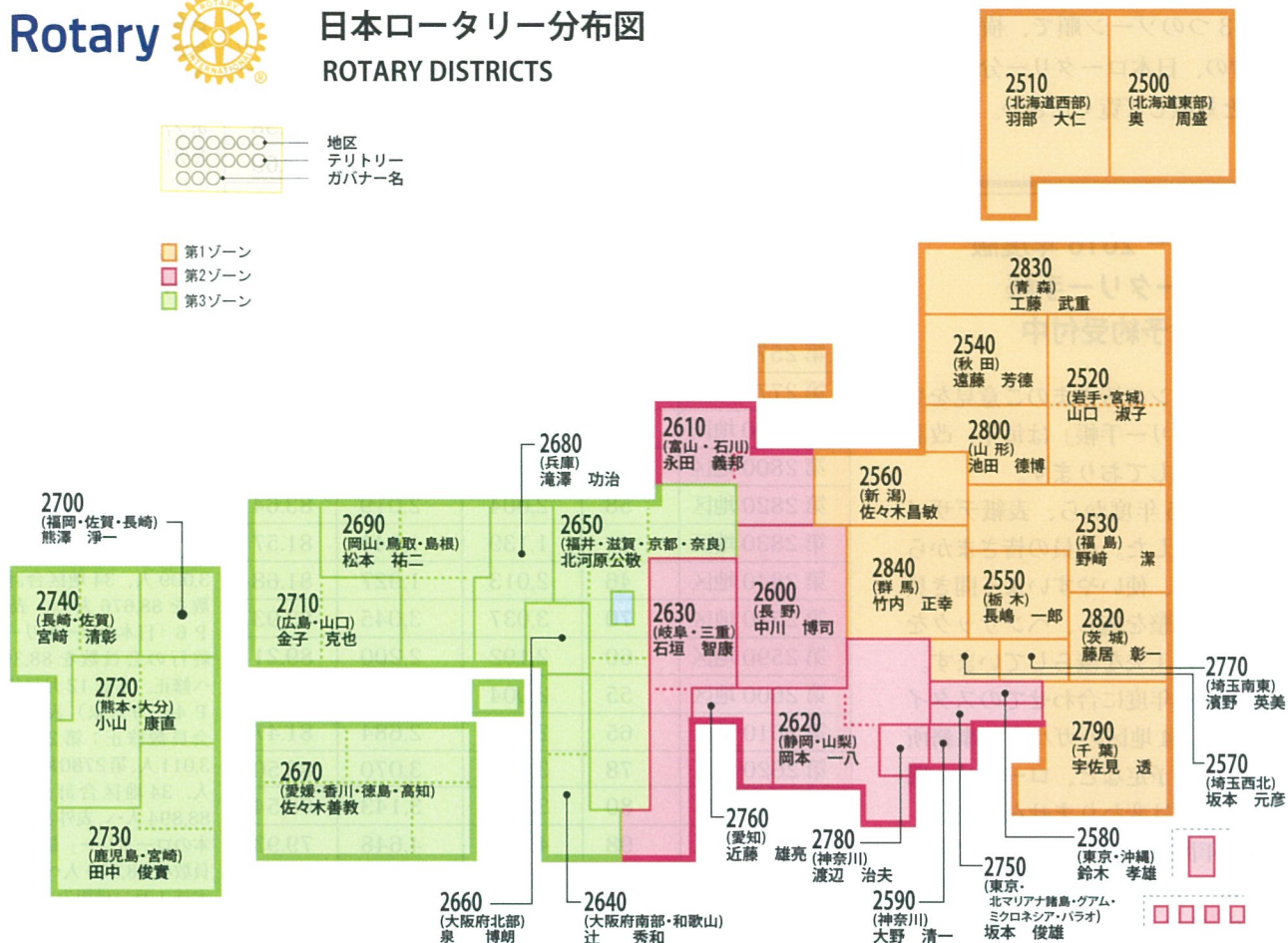
寺澤 捷年

わがまち……そしてロータリー 宝塚市





第1ゾーン
第2ゾーン
第3ゾーン



『Rotary Japan』 www.rotary.or.jp に各地区のホームページをリンクしています。

月刊 ロータリーの友

第63巻 2月号

2015年1月31日印刷 2015年2月1日発行

一般社団法人

ロータリーの友事務所

社員	北 清治 (浦和東)
	杉谷 卓紀 (玉名)
	鈴木 孝雄 (東京池袋)
	坂本 俊雄 (東京八王子南)
	渡辺 治夫 (横須賀)
	泉 博朗 (大阪帝塚山)

理事会

代表理事	橋本 長平 (京都東)
理事	清水 良夫 (横浜)
	中山 義之 (横浜南)
	神崎 正陳 (茅ヶ崎湘南)
	上野 孝 (横浜)
	安平 和彦 (姫路)
	片岡 信彦 (土浦南)
	本田 博己 (前橋)
	志田 洪顯 (静岡)
	大室 備 (宝塚武庫川)
	鈴木 喬 (東京江北)
	水野 功 (東京飛火野)
	森本 行俊 (東京町田サルビア)
	横山 武志 (東京北)
	中里 公造 (川口モーニング)
	大澤 成美 (東京臨海)
	野中 茂 (川崎)
	渡辺 誠二 (東京みなと)
	二神 典子 (東京築地)
監事	高良 明 (川崎西)
	船越 豊 (千葉中央)
相談役	板橋 敏雄 (足利東)
	中村 昌平 (東京北)

職員

所長	渡辺 誠二 (東京みなと)
編集長	二神 典子 (東京築地)
編集	稲川 やよい
	黒野 穰二
	野崎 恭子
	山名 愛
	飯田亜由香
経理	富澤 美子
	半田 弥生
	福元菜穂子
振込銀行	三井住友銀行浜松町支店
	口座番号 (普通) 7450015
郵便振替	口座番号 00180-8-694591
印刷	大日本印刷 (株)
表紙印刷	半七写真印刷工業 (株)

一般社団法人ロータリーの友事務所

〒105-0011
東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 4 階
電話 03-3436-6651
FAX 03-3436-5956
ホームページ www.rotary.or.jp
定価 200 円 + 消費税 (送料別)

落丁本・乱丁本は一般社団法人ロータリーの友事務所までお知らせください。
本文・写真などの無断転載・複製を禁じます。

『ロータリーの友』6月号 表紙写真再々募集!

2014 - 15 年度も、表紙写真につきまして、多数ご応募いただき、感謝申し上げます。審査の結果、残念ながら、2015 年 6 月号の表紙につきましては、該当作品がありませんでしたので、作品を再々募集することになりました。テーマは設けません。ふるってご応募ください。

募集要領などは下記の通りです。

◆ 応募要領

- ① 締め切り 2015 年 3 月 31 日。
- ② 点数 1 人 3 点まで。
- ③ サイズ 紙焼き四つ切り（それに近いサイズも可）。
- ④ 添付資料 名前、クラブ、連絡先住所・電話・ファクス、写真タイトル、撮影場所、撮影年月、撮影のデータ（カメラ名、使用レンズ〔ミリ〕、露出、シャッター速度）、簡単な写真説明。
- ⑤ 発表『友』誌、ホームページ『ロータリージャパン』に入選者のみ。

送り先 一般社団法人ロータリーの友事務所
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 4 階

- ⑥ 審査員（予定） 岡井耀毅氏（元『アサヒカメラ』編集長・現『友』表紙解説者）など。

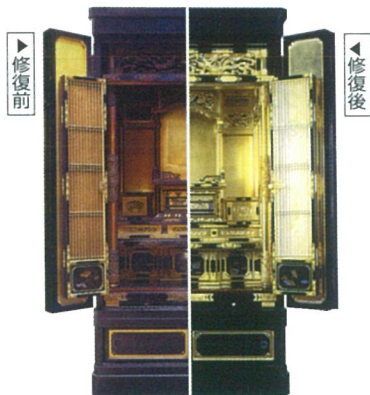
◆ 入賞作品について

- ① 採用決定作品は、掲載時にネガフィルム、ポジフィルム、デジタルカメラの場合は解像度の高いデータが必要になりますので、オリジナルはお手元に保存しておいてください。
- ② 掲載時、表紙のサイズに合わせ、トリミングをする場合があります。また、写真の上にタイトルその他の文字がかかる場合があります。
- ③ 掲載に際し、賞金、ならびに掲載料などの支払いはありません。
- ④ 著作権は撮影者に帰属します。『ロータリーの友』は、印刷物（『ロータリーの友』、『友』英語版、その他）ならびにウェブサイトへの掲載、展示などの使用权を保有します。
- ⑤ 応募作品の返却はいたしません。

京に生まれ育って186年、若林はお仏壇・仏具の専門店です!

伝統的工芸品の京仏壇から新感覚の仏壇・仏具まで
在庫豊富に取り揃えております。

◎ご予算に合わせた修復お見積りをいたします



お仏壇の
「洗い修復」
承ります。



伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) **若林**

全国お見積り無料
0120-37-8585
フリーダイヤル
(各店共通)

京都本社/〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入 ☎(075) 371-3131 (代)・年中無休
東京店/〒146-0081 東京都大田区仲池上 2 丁目 8-13 ☎(03) 3755-8488 (代)・水曜定休
築地店/〒104-0045 東京都中央区築地 3-15-1 (築地本願寺内) ☎(03) 3546-8228 (代)・日曜定休
札幌店/〒064-0919 札幌市中央区南 1 条西 9 丁目 ☎(011) 512-3455 (代)・日曜定休
仙台店/〒980-0821 仙台市青葉区春日町 8-5 ☎(022) 213-0666 (代)・日・祝定休
近江草津店/〒525-0027 草津市野村 1 丁目 3-10 ☎(077) 564-1011 (代)・水曜定休
福岡営業所/☎(092) 761-3737

<http://www.wakabayashi.co.jp/> 若林仏壇 検索

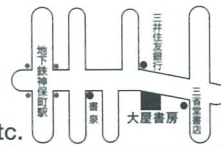
楽天市場店「お仏壇ショップ」<http://www.rakuten.co.jp/kyo-butsudan>

江戸時代の専門店



大屋書房

和本・浮世絵錦絵版画
古地図・巻物・古文書etc.



OHYA-SHOBO LTD.
OLD JAPANESE ILLUSTRATED BOOKS

Fine Prints(UKIYO-E), Old Maps
All Kinds of Japanese Graphic Art.

創立1882年 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目1番地
TEL.03-3291-0062 FAX.03-3295-2334 購入 もいたします。

ROTARY'S 106th ANNUAL CONVENTION

2015年度

開催地: ブラジル・サンパウロ

国際ロータリー年次大会

大会期間: 2015年6月6日(土)～6月9日(火)



カーニバル/イメージ



アニエビ展示場/イメージ



ゴールデンチュリップ
パウリスタブラザ/イメージ



イグアスの滝/イメージ



コース名	旅行代金 一人部屋追加代金	旅行期間	訪問都市	旅行条件
A 国際ロータリー 年次大会参加とイグア スの滝、リオデジャネイ ロ9日間	大阪・東京発着 (お一人様/2名1室/エコノミークラス利用) 698,000円 145,000円 ※燃油サーチャージ(目安: 58,000円/10月22日現在)	6月2日(火) ～ 6月10日(水)	日本→機内①→イグア ス②→サンパウロ②→ リオデジャネイロ①→ 機内②→日本	●添乗員: 同行し、お世話します ●食事: 朝食5回・昼食4回・夕食2回(機内食は含みません) ●利用予定航空会社: アリタリア航空、エールフランス航空、ルフトハンザドイツ航空のいずれか(国際線部分)(エコノミークラス) ●利用予定ホテル: イグアス/MABU THERMAS&RESORT、サンパウロ/ゴールデンチュリップパウルスタブラザ ●リオデジャネイロ/WINDSOR EXCELSIOR ●ビジネスクラス追加料金: 598,000円 ※ビジネスクラスは往復国際線のみとなります
B 国際ロータリー 年次大会参加とマチュ ピチュ、イグアスの滝、リ オデジャネイロ13日間	大阪・東京発着 (お一人様/2名1室/エコノミークラス利用) 998,000円 178,000円 ※燃油サーチャージ(目安: 68,000円/10月22日現在)	5月29日(金) ～ 6月10日(水)	日本→機内①→リマ① →ウルバンバ①→クス コ①→リマ①→イグア ス②→サンパウロ②→ リオデジャネイロ①→ 機内②→日本	●添乗員: 同行し、お世話します ●食事: 朝食5回・昼食4回・夕食2回(機内食は含みません) ●利用予定航空会社: デルタ航空、アメリカン航空、日本航空、全日空のいずれか(国際線部分)(エコノミークラス) ●利用予定ホテル: リマ/シェルトンホテル、ウルバンバ/カーササンディエゴホテル、クスコ/カーササンディエゴホテル、イグアス/MABU THERMAS&RESORT、サンパウロ/ゴールデンチュリップパウルスタブラザ、リオデジャネイロ/WINDSOR EXCELSIOR ●ビジネスクラス追加料金: 598,000円 ※ビジネスクラスは往復国際線のみとなります
C 国際ロータリー 年次大会参加とイグア スとサンパウロ8日間	大阪・東京発着 (お一人様/2名1室/エコノミークラス利用) 548,000円 78,000円 ※燃油サーチャージ(目安: 58,000円/10月22日現在)	6月2日(火) ～ 6月9日(火)	日本→機内①→イグア ス②→サンパウロ②→ 機内②→日本	●添乗員: 同行し、お世話します ●食事: 朝食4回・昼食2回・夕食2回(機内食は含みません) ●利用予定航空会社: エールフランス航空、アリタリア航空、ルフトハンザドイツ航空(エコノミークラス) ●利用予定ホテル: サンパウロ/ゴールデンチュリップパウルスタブラザ、イグアス/MABU THERMAS&RESORT ●ビジネスクラス追加料金: 概算590,000円 ※ビジネスクラスは往復国際線のみとなります
D 国際ロータリー 年次大会参加と サンパウロ6日間	大阪・東京発着 (お一人様/2名1室/エコノミークラス利用) 328,000円 48,000円 ※燃油サーチャージ(目安: 58,000円/10月22日現在)	6月4日(木) ～ 6月9日(火)	日本→機内①→サンパ ウロ②→機内②→日本	●添乗員: 同行しません ●食事: 朝食3回・昼食0回・夕食0回(機内食は含みません) ●利用予定航空会社: エミレーツ航空、カタール航空(エコノミークラス) ●利用予定ホテル: サンパウロ/ゴールデンチュリップパウルスタブラザ ●ビジネスクラス追加料金: 498,000円 ※ビジネスクラスは往復国際線のみとなります

●最少催行人員: Aコース15名様、B・C・Dコース10名様。 ※上記は大会登録費用は含まれておりません。
※○数字は各都市の宿泊数です。※クラブ単位等で親睦旅行を兼ねた特別コースの企画見積りも承っております。何なりとお申しつけください。
■詳しい旅行条件を説明したパンフレットをお渡しいたしますので事前にご確認の上、お申込ください。

●お問い合わせ・お申し込みは

旅行企画・実施 **日通旅行** [日通旅行(株)]
大阪支店

☎ **0120-0303-48**

ロータリーツアーデスク

担当: 山岸・津田 手続担当: 桐原
総合旅行業務取扱管理者: 平田 素一
〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-6 日通北浜ビル2階
Eメール: ma-yamagishi@nittsu.co.jp

大阪支店営業第一課

FAX **(06)6201-1991**

観光庁長官登録旅行業第1937号
営業時間: 月曜～金曜 9:00～18:00 土・日・祝 休み



(一社)日本旅行協会正会員
承認番号: 営本広第160号(2014年11月25日)



旅行業公正取引
協議会 会員

2015年 国際ロータリー年次大会
ROTARY INTERNATIONAL ANNUAL CONVENTION 2015



サンパウロ大会参加旅行のご案内
2015 SÃO PAULO

●大会開催地:ブラジル/サンパウロ ●大会期間:2015年6月6日(土)~6月9日(火)
●大会会場:(アニエンビ) コンベンションセンター

※大会地ではサンパウロ市内のホテル宿泊を確約!
※6/6に「日本人親善朝食会」が開催される場合は、バス代を含め一切追加代金なしでご案内させていただきます。

◆大会行事の全てにご出席いただけるコースから開催国ブラジルの魅力的な都市や
世界遺産、また近隣の南米諸国を訪れるコースまでバラエティ豊かな8コースをご用意。

充実の全8コース

全コース: 最少催行人数10名様【添乗員同行】

大会開会式出席の旅
6日間

A

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/4(木)▶6/9(火) 490,000円

※燃油サーチャージ(目安49,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→サンパウロ②→機中泊②→東京(成田)
ご帰国日は時刻のご出発までお部屋をご利用いただけます。

大会参加と

南米3都市とイグアスの滝10日間

E

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/1(月)▶6/10(水) 840,000円

※燃油サーチャージ(目安42,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→ブエノスアイレス②→イグアス①→
サンパウロ②→リオデジャネイロ①→機中泊②→東京(成田)

大会全プログラム出席の旅
9日間

B

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/4(木)▶6/12(金) 620,000円

※燃油サーチャージ(目安43,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→サンパウロ⑤→機中泊②→東京(成田)
到着日は朝から、ご帰国日は時刻のご出発までお部屋をご利用いただけます。

大会参加と

世界遺産・イグアスの滝と
マチュピチュ遺跡を巡る旅11日間

F

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/4(木)▶6/14(日) 1,150,000円

※燃油サーチャージ(目安43,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→サンパウロ②→イグアス①→リマ②→
ウルバンバ①→クスコ①→リマ→機中泊②→東京(成田)
サンパウロ到着日は朝からお部屋をご利用いただけます。

大会参加と

大自然・イグアスの滝 8日間

C

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/2(火)▶6/9(火) 740,000円

※燃油サーチャージ(目安42,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→イグアス②→サンパウロ②→機中泊②
→東京(成田) ご帰国日は時刻のご出発までお部屋をご利用いただけます。

大会参加と

ガラパゴス諸島探訪 10日間

G

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/4(木)▶6/13(土) 1,110,000円

※燃油サーチャージ(目安43,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→サンパウロ②→グアヤキル①→
船内③→機中泊②→東京(成田)
サンパウロ到着日は朝からお部屋をご利用いただけます。

大会参加と

リオデジャネイロと
イグアスの滝 9日間

D

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/1(月)▶6/9(火) 777,000円

※燃油サーチャージ(目安43,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→リオデジャネイロ①→イグアス②→
サンパウロ②→機中泊②→東京(成田)
ご帰国日は時刻のご出発までお部屋をご利用いただけます。

大会参加と

豪華船アリア号で行く
源流ペルーアマゾンクルーズ 11日間

H

●旅行代金(お1人様/エコノミークラス成田発着・2名1室利用)
6/4(木)▶6/14(日) 1,430,000円

※燃油サーチャージ(目安42,000円・2014年10月現在)、国内空港施設使用料及び
海外空港諸税が別途必要となります。

東京(成田)→機中泊→サンパウロ②→リマ①→船内④→
機中泊②→東京(成田)
サンパウロ到着日は朝からお部屋をご利用いただけます。

旅行代金は、お二人部屋にお二人でご宿泊基準のお一人様旅行代金です。○内の数字は宿泊数を表します。
詳しい募集案内をご請求ください。ご請求は右下のフリーダイヤル電話でお気軽に!

★ クラブ単位等で親睦を兼ねた特別コースの企画見積りも承っております、何なりとお申しつけください ★

■お申し込み・お問い合わせ、募集案内のご請求は・・・



ボンド保証会員
(社)日本旅行業協会正会員



旅行業公正取引
協議会 会員



観光庁長官登録旅行業第270号



東日観光株式会社

<日本で唯一のRITS指定旅行代理店>

総合旅行業務取扱管理者: 大谷 俊之

〒104-0045 東京都中央区築地4-7-5築地KYビル4階

電話: 03-5148-1730 FAX: 03-5148-1827

ロータリー室 担当: 曾我・大山・井上 Eメール: rot@tonichi.co.jp



0120-444-654

●上記の旅行の旅行条件については別途お渡しする旅行条件書、最終日程表及び国土交通大臣認可の
旅行約款によります。

総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。
この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明な点がございましたら、ご遠慮なく左記の総合旅行
業務取扱管理者にご質問下さい。

国際ロータリー年次大会参加旅行は最も経験豊かな当社にご用命下さい。

表紙のメッセージ

岡井 耀 毅

雲一つない晴れ上がった大空に舞い上がったスノーボード・ハーフパイプの華麗なジャンプ。ここは長野県茅野市白樺湖ロイヤルヒルススキー場で、長野県でも数少ない競技施設を備えている。

前かがみに巧みに空中を遊泳するような一瞬一瞬。この競技はソチオリンピックで注目された競技の一つ。

「地元で競技をつづけていく選手たちをぜひ撮影したい念願で、車で約一時間半走りつづけて茅野市白樺湖の斜面、車山の冬景色と合わせて撮影することもできました。」

競技生活を送る選手たちはシーズンが到来すると、全国各地からやってきます。彼らはゲレンデや宿泊施設スタッフの仕事をこなしながら自らの鍛錬や後進の指導に努力しています。このところきびしい経済環境の下で県内のハーフパイプなど特殊な施設は閉鎖が続きましたが、白樺湖ロイヤルヒル・ゲレンデは晴天率が高い上に絶好の雪質を誇っていて、競技活動を支える貴重な存在になっています。

写真は、地元の写真愛好グループと一緒に選手たちに協力して開催した撮影会の一コマです。写真は、白樺湖ロイヤルヒル・ゲレンデ併



「空高く跳ぶ豪快なジャンプ」(長野県)
撮影 千野 哲男 (2600 上田東)

設のレストハウスに展示しました」と、千野哲男氏は言う。

*



「歓迎」(北海道)
撮影 渡辺 道雄 (2570 鶴ヶ島)

北海道釧網本線の茅沼駅を白煙あげて疾走していく列車を追いかけるように飛翔する三羽のタンチョウ。通過列車は一日数本ほどの過疎地帯で、駅舎はカラフルな色で塗られ、立看板には、タンチョウを愛する方々の長年の餌付けにより今も多く多くのタンチョウが周辺を訪れます」と。

「駅に入ると、ホームには数人の旅行者だけで閑散としていて、澄み切った青空の下で雪に埋もれてS字形に曲がっている線路がうつくしい。地元のガイドの説明で、駅を中心に九十度の角度で約二百メートル離れた場所から鶴を狙って撮れば、その中にうまくSLが入ってくると教えられて、カメラを構え、汽笛の音が近づいて茅沼駅から発車してくる列車に誘われるように並んで飛ぶ三羽の鶴を狙って撮ったが、

その姿は実に優雅で夢中でシャッターを押すだけでした」と

と、渡辺道雄氏は言う。

雪原にタンチョウ飛翔の音の冴ゆ

岡井輝生

(ジャーナリスト)

緊急募集!!

『ロータリーの友』誌六月号
表紙写真を再々募集します!

二〇一五年三月六月号の『ロータリーの友』誌表紙写真再募集にご応募いただきありがとうございます。審査の結果、三月五月号の表紙写真が左記の通り決定いたしました。

残念ながら六月月号の表紙写真は入選作がありませんでしたので、ロータリアンの皆さまから再々募集いたします。テーマは設けません。締め切りは三月三十一日。応募は一人三点までです。紙焼き四つ切りサイズ(それに近いサイズも可)の写真に、撮影月、タイトルなどの事項を書き添えてお送りください。詳細は本誌横組み五一ページまたはホームページ『ロータリージャパン』www.rotary.or.jpをご覧ください。皆さまのご応募をお待ちしております。

表紙写真再募集審査結果
掲載月および撮影者

(敬称略)

二〇一五年

三月号

小島 常男 (二六六〇 大阪船場)

四月号

山内 正胤 (二五六〇 十日町)

五月号

河野 康志 (二七二〇 東松山むさし)

吉川 正宏 (二二二〇 静岡中央)

山内 明夫 (二五七〇 山口)

山内 正胤 (二五六〇 十日町)

吉川 正宏 (二二二〇 静岡中央)

ねていました。彼は平戸市から隣の松浦市に転勤になったばかり。彼の詠んだ句が「平戸から秋風に乗って松浦へ」で、私にとってはこの日一番の秀句でした。

平戸地方は秋になると北風が吹き、同時にトビウオが風に乗って来ます。これをこの地方ではあご（飛魚）風と言いますが、彼はそれに掛けて詠んだそうです。また、お世話になった平戸の皆さんに感謝し、後ろ髪を引かれる気持ちを込めたそうです。

（中野浩・記）

阿波人形浄瑠璃見学の旅

本巣ロータリークラブ

第二三〇地区 岐阜県

当クラブでは文化財保護委員会を設け、長年にわたり地元伝統文化などを支援しています。

今年度は、本巣市真桑地区で三〇〇年の歴史を持つ、国指定重要無形民俗文化財「真桑人形浄瑠璃」を伝承する真桑文楽保存会の子どもたちを、徳島県のお遍路体験と同じ文化財に指定されている「阿波人形浄瑠璃」見学の旅に招待しました。

真桑人形浄瑠璃は大人の出し物に加え、小中学生が演じる子ども浄瑠璃にも人気があります。

八月二七・二八日の二日間、小学四・六年生の一四人、同保存会と子ども会の役員六人、クラブ会員九人が参加。今回の旅行はロータリー財団の地区補助金制度の利用で実現しました。

初日はお遍路の作法を習い、炎天下の中、四国八十八箇所巡りの一番から三番までのお寺を元気に歩きました。徳島市内で一泊し、翌日は徳島県立阿波十郎兵衛屋敷を訪ねました。

ここは「ととさんの名は」とのせりふで有名な「傾城阿波の鳴門」のモデルとなった板東十郎兵衛の屋敷



人形の使い方を見学する子どもたち

跡に建てられていて、敷地内には農村舞台を模した小屋や展示室などがあります。人形浄瑠璃が大切に受け継がれてきた様子や、木偶と呼ばれる人形の特徴や操り方などの説明を受けた後、いよいよ本場「傾城阿波の鳴門」が演じられました。子どもたちは皆、人形の動きを食い入るように見つめていました。

見学後、阿波人形浄瑠璃振興会員との交流の場が設けられ、参加者は伝統文化を継承する大切さを学びました。

内外よろず案内

第一六回ロータリー国際囲碁大会にご参加を

GPRF 国際本部会長 石井 良昌

ロータリー囲碁同好会（GPRF）主催 第一六回ロータリー国際囲碁大会」を、五月一六日に東京・市ヶ谷の日本棋院二階大ホールで開催します。第二五八〇地区と第二七五〇地区共催、ホスト・東京RC。毎年、韓国と台湾との持ち回りで開催している大会ですが、東京開催は二年ぶりです。三クラス、計時制、こみ六目半で、午前に予選、午後に決勝、およびプロ棋士による多面碁を行います。参加はメイクアップになります。

ご家族の参加も歓迎します。締め切りは三月一六日。定員一〇〇人。登録料一万七〇〇〇円（懇親会、昼食、賞品などを含む）。宿泊は開催前後二泊を前提に、会場近くのホテル・アルカディア市ヶ谷を会員割引でご利用できます。

希望者は、地区・クラブ・氏名・段級位・連絡先のファクス番号を明記し、同会日本支部（03-3452-1165）までお申し込みください。お問い合わせもファクスで。

Annotation

地区補助金（District Grants）

ロータリー財団の使命に当てはまる活動を支援するため、地区に一括で支払われる補助金です。地区は年に一回、地区補助金を受領し、奨学金や職業研修チーム（VIT）の派遣、奉仕活動の支援、災害救援、地元や海外での奉仕事業に使うことができます。

AED（自動体外式除細動器）

けいれんし、血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）の心臓に電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための機器です。

NPO法人カタリバ」によって開発され、北海道では「NPO法人いきたす」が展開・運営しています。当クラブではこれを支援し、倶知安町の「カタリ場」を主催してきました。

当日は道内の大学生二五人と倶知安農業高校の一・二年生五三人が参加し、数人のグループで車座になって、大学生たちの経験を聞き、アドバイスを受けていました。

また、倶知安高校では、札幌や旭川の大学に進学した卒業生一二人を招き、大学生活などについて話してもらう「卒業生と語り合う会」を開催。一年生一五〇人が一〇グループに分かれて、大学生の話を真剣に聞いていました。

高校の支援事業は今年度で最後となりますが、今後はこれまでに培ったものを素地として、「倶知安版カタリ場」を地元の関係団体などと協力しながら模索していきたいと考えています。

地元福祉施設の 高校生交流会を支援

津ロータリークラブ

第二六三〇地区 三重県

児童養護施設には、災害や事故、親の離婚や病気、そして虐待などを

理由に、家族と一緒に暮らせなくなった二〜一八歳ぐらいまでの子どもたちが生活しています。彼らにとって施設は「家庭」といってもいいでしょう。

施設で暮らす子どもたちの多くは、高校を卒業すると就職します。養育が困難な親からの支援は一切期待できません。いやが応でも自立を強いられるわけです。若者の自立という夢が膨らみますが、現実はそのような生易しいものではありません。

今年度も三重県児童養護施設協会による「高校生交流会」が八月二七〜二八日、津市の錫杖湖畔にある錫杖湖水荘で開かれ、来春卒業を控えた県内一二施設の高校生ら一六八人、施設スタッフ一九人、そして当クラブ会員二二人が参加しました。



グループ討論を行う参加者たち

「同じ境遇の若者たちが触れ合い、自分を見つめ直す場がほしいのですが、予算が足りません。彼らの卒業後の不安を解いて生活を豊かにしてやりたい」と願う同協会の鍵山雅夫会長の要請を受け、当クラブは前回の開催から支援しています。

交流会では、岩鶴密雄会長のあいさつの後、グループ討議。会員の経験を踏まえた、社会生活に向けてのさまざまなアドバイスに、高校生たちは熱心に耳を傾けていました。

鍵山会長は後日、当クラブ例会での卓話として「子どもたちは同じ境遇の友人を作ることができました。施設職員以外の大人との交流が、参加の高校生はもとより、施設スタッフにも新鮮で、本当に笑顔の絶えない有意義で充実した交流会でした」と報告していました。

(増田冬樹・記)

観月俳句会

平戸ロータリークラブ

第二七四〇地区 長崎県

クラブでは一〇月九日、年間プログラムの一つである観月俳句会を開きました。句会の選者は地元で書道を教えるとともに、俳句を趣味にし

ている先生にお願いしました。

句会前日の八日は十五夜と皆既月食が重なった日でした。句会当日は台風一八号が接近し嵐の前の晴れ間となり、会場のホテルから見る月はこうこうと照り、海峡を挟んだ海にゆらゆらと揺れる月を見ながらの……、そんな環境の中で執り行われました。

村節雄親睦委員長のユーモアあふれる司会で和やかに進み、各人二句ずつ、「整いました」と言って、自分の句を詠み上げるという次第です。お酒も入り、皆さんの力のもつた良い作品ばかりで、中には笑いを誘う句もあり、また思わずウーンとうなるような秀句もあり、誠に和気あいあいのうちに終わりました。

この日は森憲二会員の送別会も兼



力作がそろった、観月俳句会



寄贈したテントが大活躍したサッカー大会

流三〇周年を記念し、サンパウロFCからトロフィーが贈られました。

そのトロフィーを懸けて昨年九月二〇～二一日、クラブ主催の「サンパウロFC友好カップサッカー大会」を開催。今回は残念ながら、旅費や滞在費の関係でサンパウロFCのジュニアチームの来日はありませんでした。山形県や岩手県、宮城県から一二チームが参加しました。

当日は晴天に恵まれ、芝生のグラウンドで三県の子どもたちが伸び伸びと試合を行いました。地区補助金を利用して購入したテントを、試合中のチームの待機場所に設置したところ、日陰ができて体力の消耗が少ない、と大好評でした。

大会本部の一角にロータリーのブースを設け、「ロータリーデー」と

しての活動も行いました。会員はそろいのオレンジ色のウインドブレーカーに身を包み、参加チームやその保護者、会場に足を運んでくれた人たちにポリオ撲滅を訴え、募金一万八七七二円を集めることができました。

また、クラブ会長の永井俊一医師がAED（自動体外式除細動器）や応急処置のセットを持参して救護班として待機しましたが、子ども三人から打撲の相談を受けただけで大きな事故はなく、無事に大会運営ができました。スタッフや保護者からは万が一の時も安心、と好評でした。

ロータリー野球教室

西条ロータリークラブ

第二七二〇地区 広島県

クラブでは九月一五日、「ロータリーデー」として小学生を対象とした「ロータリー野球教室」を開催しました。開催テーマ「野球を通して子供たちに輝きを」の下、地元の社会人野球チームとして活躍する伯和ビクトリーズの選手の協力を得て、

野球の楽しさと魅力を伝えました。

当日は地元の小学生六〇人が参加。学年とレベルに応じてチームを



真剣な表情で指導を受ける少年たち

分け、伯和ビクトリーズは全選手二六人が楽しく優しく指導してくれました。子どもたちが球場を元気に走り回り、泥んこになる姿はやはり素晴らしい、生き生きと輝く姿を見ると、私たち会員も元氣になります。そして、プロ野球選手ではありませんが、地元の社会人たちによる伯和ビクトリーズの選手がとてもすてきで格好良く見えました。参加した子どもたちも保護者も、伯和ビクトリーズのファンになったことでしょう。子どもたちだけでなく、私たち会員も、選手も、みんなが輝いた野球教室でした。

「野球を通して 子供たちに輝きを」を体現し、素晴らしい社会奉仕ができたのでは、と思っています。

（廣幡勝祐・記）

「カタリ場」開催

俱知安ロータリークラブ

第二五〇地区 北海道

クラブでは二〇二二～二〇二三年度から三年の予定で、地域で学業に励む青少年の自主・自立を支援することを主眼とし、俱知安町内にある二つの高校、俱知安高校と俱知安農業高校を支援してきました。

今年度、俱知安農業高校では一〇月一四日に「第三回カタリ場」を開催しました。「カタリ場」とは、高校生が親や先生、または友達にはなかなか相談できない進路の悩みについて、年齢的にも近い現役の大学生に相談しようというもので、「認定



打ち解けた雰囲気の中で、進路相談



ジャガイモなどを焼いて提供

六クラブの思いを 一つに実行

地区第九グループ

第二五〇地区 北海道

九月一三〜一四日、北海道の洞爺湖周辺を二日間かけて歩く大会「第二七回北海道ツデーマーチ」が開催された。当地区第九グループに所属する、伊達ロータリークラブ（RC）と室蘭RC、室蘭東RC、室蘭北RC、登別RC、洞爺湖RCの六クラブでは、会員が協同で地元産のジャガイモとニンジン、オニオンスープを提供し、参加者の疲れを癒やしてもらった。

この活動は毎年、洞爺湖RCが社会奉仕事業として行っているが、会

員数が八人と少ないため、ここ数年は第九グループが支援してきた。今回は「ロータリーデー」として実施し、第九グループ各クラブから延べ六〇人が応援に駆けつけ、ポリオ撲滅も訴えることでロータリーの公共イメージ向上を図った。

今回のツデーマーチは秋晴れの好天にも恵まれ、全国各地から二日間で約二二〇〇人が参加し、五〜四〇キロの各コースを歩き、心地よい汗を流していた。会員がゴール付近で、ダッチオーブン（分厚い金属製のふた付き鍋）で焼いたジャガイモとニンジンに北海道産のバターを添え、オニオンスープとともに差し出すと、完歩した参加者から笑顔が返ってきた。会場ではポリオ撲滅の募金も呼びかけ、「ポリオのない世界まで『あと少し』への理解と協力支援を求めた。

（室蘭東RC 富田孝夫・記）

走る人、支える人にも ありがとう

中村ロータリークラブ

第二六七〇地区 高知県

「四万十川ウルトラマソン」が一〇月一九日、絶好の秋晴れの下、約二二〇〇人が参加して行われた。

一〇〇キロの部、六〇キロの部に分かれ、四万十川沿いを駆け抜ける大会は、今回で二〇回目。今や幡多路のシンボルとなっている。

当クラブは第一回からボランティアとして参加。毎年、選手の支援、コース管理のほか、完走できなかったランナーにねぎらいの気持ちと再挑戦への期待を込めて渡す「リタイアタオル」の寄贈を続けてきた。二〇回目の節目となる今回、実行委員会から「ボランティア表彰」を受け、会員一同、今後も大会を支える一助となっていくための励みとなった。

大会の魅力は何といっても、「清流四万十川」との出合い。スタートしてから約二〇キロ続く、閉ざされた山間地を越えると、目前に四万十川の大パノラマが広がり、ランナー



気持ちのよい川沿いのコースを走る参加者

に勇気と元気を与えてくれる。そこから川に沿って下っていく、風景に溶け込んだ沈下橋を渡りゴールを目指す。その間、ランナーの背中を押してくれるのが、多くのボランティアや地元の人からの声援。大会のキヤッチフレーズは「走る人にありがとう」「支える人にもありがとう」だ。当クラブには「支える人」から「走る人」に転身した人も何人かいる。今回は一八人の会員が「支える人」として、全国から集まった老若男女と感動的な時間を共有できた。

当クラブは二〇一三年の創立五〇周年を機に「森づくり」事業への支援も始めた。これらを大きな柱として、地域に根差した奉仕活動を幅広く展開していきたいと考えている。

サンパウロFC友好 カップサッカー大会

最上ロータリークラブ

第二八〇〇地区 山形県

山形県の最上町は、ブラジルのサッカーチーム・サンパウロFCと一九八三年から交流を続けています。イタリアのACミランやスペインのレアル・マドリードに在籍した力選手も、ジュニア時代に最上町を訪れています。二〇一三年には交

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK 文章編

ロータリークラブならびに地区の活動を紹介、600字以内。関連写真があれば添付してください。

ポリオ撲滅PR
inししまなみ海道

西尾ロータリークラブ

第二七六〇地区 愛知県

当クラブ自転車部は一〇月二六日、「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会」に参加しました。

今回は瀬戸内海国立公園指定八〇周年、瀬戸内しまなみ海道開通一五周年を記念した大会で、私たちが参加したのは四国・愛媛県の今治市から広島県の尾道市まで、通行止めにした高速道路（四三キロメートル）を含む約六五キロメートルを走行するコースでした。大会参加約七三〇〇人のうち外国からも六〇〇人ほど参加し、盛大に行われました。

私たちは全員、抹茶色（西尾市は日本有数の抹茶生産地）のポロシャツ



おそろいのポロシャツで大会参加

を着て、背中で「END POLIO NOW（今こそポリオ撲滅のとき）」をPRしながらの走行でした。ポロシャツを見て、一人の外国人が流ちょうな日本語で話しかけてくれました。第二八二〇地区（茨城県）の境ロータリークラブがお世話しているロシア出身の米山奨学生でした。思いがけないところで国際交流もでき、ロータリアンとしてうれしい出会いの時間となりました。

瀬戸内の素晴らしい景色と、沿道からの応援、安全を見守りながら声援を送ってくれたボランティアの方々に感謝するとともに、自転車部として大変思い出に残る大会となりました。全員が無事に完走できたことに感謝しています。

(成瀬文和・記)

ジョギングクラブ
能古島で練習会

地区ロータリージョギングクラブ

第二七〇〇地区 福岡県

二〇一一年三月一二日に全線開通した九州新幹線、これを記念して福岡、熊本、鹿児島、鹿島のロータリアンが集まり、福岡からタスキリレーで鹿児島まで三二〇キロメートルを走ることにしました。福岡では地区のランナーが集まり、同年二月二六、二七日で福岡の博多駅から大牟田市まで九〇キロメートルを担当し、無事に熊本チームにタスキを渡しました。翌週、熊本でも盛大なバレードとタスキリレーが行われましたが、最終の鹿児島では実施前日の三月一日に東日本大震災が起き、イベントは中止になってしまいました。

しかし、その後この事業で集まった当地区のランナー仲間とジョギングクラブを作り、年に四回程度の練習会、懇親会を続けています。

現在は福岡城東ロータリークラブ（RC）、福岡東RC、福岡西RC、博多イブニングRC、太宰府RC、甘木RC、宗像RC、そして私の所属する福岡中央RCからランナーが参加しています。



ジョギング前の準備を行うメンバーたち

昨年は博多イブニングRCのメンバーの担当で一〇月五日に集まり、博多湾に浮かぶ能古島を一周し、福岡西RCのメンバーのお世話でバーベキューなどを楽しみました。

複数のクラブの会員が集まることであるいろいろな情報交換もでき、練習会や懇親会は各クラブで持ち回りにしており、毎回違った楽しみがあります。こうした交流がロータリーの良さのように思えます。会費もなく、走ったり歩いたりして懇親会で楽しむ、こんな誰でも参加できるロータリージョギングクラブが、私は大好きです。

全国の走るロータリアンの皆さん、当地区へも走りに来ませんか？ご連絡はE-mail: jrc@rid2700.jpへ。

(福岡中央RC 江口裕・記)

ROTARY AT WORK



**みんなが守ろう
子どもの成長** 〈京都洛西RC〉
ロータリーデーの活動として、クラブ主催で会員と家族、京都洛西RACと花園高等学校・ACCメンバー、幼稚園の関係者が参加し「みんなで守ろう子供の成長」の横断幕を掲げてパレードを行った。晴天に恵まれて大勢の観光客が行き交う中、インターアクターたちのプラスバンドを先頭に山紫水明の嵐山を行進、子どもの健全育成への支援を訴えた。ロータリーの広報ビラや風船、花の種も配った。
(9月28日 第2650地区 京都府)



ペタンク大会で「END POLIO NOW」 〈甲府北RC〉
山梨ペタンク連盟との共催で「甲府北ロータリー旗争奪ペタンク大会」を開催。同連盟会員やクラブ会員、家族など約100人が1チーム3人に分かれ熱戦を繰り広げた。アメリカ・オハイオ州からの青少年交換学生キラ・アン・シュミットさんも参加して交流を深めた。会場では「END POLIO NOW」ののぼりを掲げ、「ロータリークラブを知っていますか」というパンフレットも配布した。
(10月19日 第2620地区 山梨県)

ROTARY AT WORK

地域への奉仕活動と貢献 〈川崎幸RC〉
10月18・19日に開催された川崎市幸区の「幸区民祭」で、社会奉仕委員会の計画の一環で献血活動を実施。他の場所での実施も含め33回目となる。年々協力者が減少し、今回は赤十字社から血液が不足しているという事情も聞いていたので、会員総力を挙げて行った。会員の孫たちの手伝いもあり、受付数で43人の協力を得た。協力者を募ることの大変さ、献血の大切さを痛感した一日となった。
(10月18日 第2590地区 神奈川県)



ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK

ロータリークラブ奉仕活動をカラー写真で紹介。写真と150字程度の説明文。必ず活動日を入れてください。記念写真(集合写真)は掲載できません。

化女沼清掃活動とバーベキュー 〈古川東RC〉
地区内のロータリーアクト二十数人、古川東RCが世話クラブを務める中国出身の米山奨学生・霍岩(カク・ガン)さん、会員15人で、ラムサール条約登録地の湿地・化女沼(けじょぬま)の清掃活動を実施。秋空の下、1周4kmの沼の周りの、空き缶や紙パックなどのごみを拾い集めてきれいにし、渡り鳥が気持ちよく寄れるようにした。その後全員でバーベキュー。ホタテ、イカ、牛肉、豚肉、野菜などを焼きながらビールで乾杯。ロータリアンと若い人たちが楽しく談笑した。
(10月5日 第2520地区 宮城県)

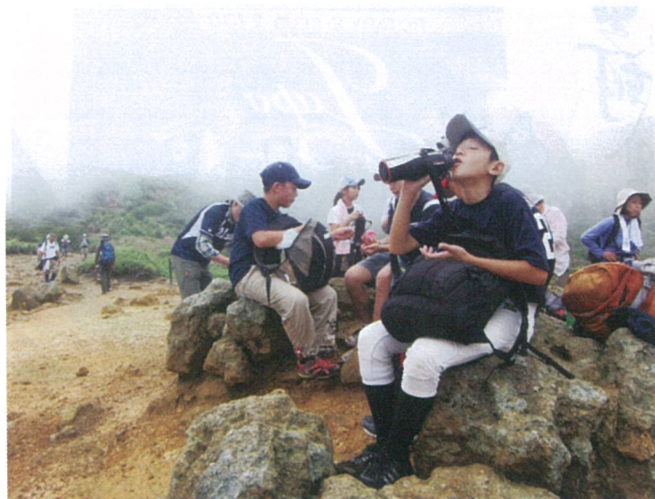


ROTARY AT WORK



中学生にビジネスマナーを
 〈佐久RC〉
 地区補助金を活用したプロジェクトの一環で、10月7日、佐久市立浅間中学校2年生220人を対象にビジネスマナーの解説本を寄贈。14日には会員10人が同校に出向き、社会人としての基礎知識などを2年生にレクチャーした。生徒は16、17日に市内外の事業所で就業体験を実施予定で、その前段階として社会人としてのマナーや知識を学んでもらおうと行ったもの。レクチャーは市内5か所の中学校を対象に「青少年啓発プロジェクト」として10年前から行っており、今後も継続予定である。

(第2600地区 長野県)



親子で久住山登山

〈臼杵中央RC〉

今年度の地区補助金対象事業として、臼杵市内の小学生とその保護者を募り、大分県の久住山(くじゅうさん)登山を行った。大分県玖珠郡九重町の牧ノ戸峠から登り始め、登山協会会員でもあるクラブ会員の先導で、標高1786・5mの頂上を目指した。途中、足元が悪い部分もあったが、無事登頂できた。

(9月7日 第2720地区 大分県)



後援 鹿沼市国際

かめま外国人日本語スピーチ大会

〈鹿沼東RC〉

鹿沼市国際交流協会主催「かめまワールドフェスティバル」の協賛事業で「かめま外国人日本語スピーチ大会」を開催。ブラジル、イラン、スリランカ、アメリカ、ベトナム出身の5人が流ちょうな日本語でお国自慢をスピーチ。経済発展の進む国、まだ発展途上で自ら支援事業をしている国などお国事情はさまざまだったが、日本に暮らしているからこそわかる日本のよさ、母国愛、母国のよさをみな再認識しているようだった。クラブのブースではロータリーの奉仕活動の記録を展示し来場者に紹介した。

(10月26日 第2550地区 栃木県)



児童養護施設の園庭整備と屋外テーブル寄贈

〈東京豊島東RC〉

秋晴れの日曜日、児童養護施設・錦華学院の地域交流イベントに向け、地区補助金を活用した支援プロジェクトを行った。広い園庭の整備作業は地元のシルバー人材センターに依頼し、高齢者の雇用機会にも寄与。園庭中央に寄贈・設置した真新しい屋外テーブルは、子どもたちの明るい笑顔と笑い声に包まれた。

(10月12日 第2580地区 東京都)

ROTARY AT WORK



九州初のEクラブ誕生
 〈2730ジャパンカレントロータリーEクラブ〉
 地区で65番目、ロータリーEクラブでは九州初の「2730ジャパンカレントロータリーEクラブ」の認証状伝達式を100人超の来賓出席を得て開催。式典では東岳也会長が「会員一人ひとりがロータリーのことを深く学び、知識を蓄え、そのことを会員の親睦によって実践する力を、全員一丸となつて養っていききたい」と決意表明を述べた。懇親会ではロータリーアクターが神話の神々に扮（ふん）しての舞台劇、都城北RC会長のトランプペット演奏などで盛り上がった。25人の創立会員にとって思い出深い式典となった。
 (10月5日 第2730地区 宮崎県)



広島土砂災害被災地への復興支援バザー開催
 〈神埼RC〉
 2014年8月に発生した広島県での集中豪雨による大規模土砂災害を受け、クラブでは被災地の復興支援を目的にバザーを開催した。売り上げの総額は12万432円となり、第2740地区ガバナー事務所を通じて、義援金を寄付した。
 (10月5日 第2740地区 佐賀県)

ROTARY AT WORK

ROTARY AT WORK

座禅例会で修行!
 〈別府RC〉
 会員が住職を務める禅寺・曹洞宗太平山海雲寺で、職場例会(座禅例会)を開催。参加会員みんなで精進料理を食した後、20分間の座禅を行った。手を合わせては警策で肩を打たれ、半跏(はんか)で足を組んだにもかかわらず、最後には足がしびれ、汗が噴き出し、まったく修行ができていないことを露呈した会員も多かった。
 (10月10日 第2720地区 大分県)



ROTARY AT WORK

小学1年生の花の栽培と絵画展
 〈東京新宿RC〉
 新宿区内の小学1年生に花の種を贈り、花の栽培を児童の情操教育の一助とするプロジェクトを13年継続している。今年度、自ら開花させた花の絵を募集したところ、約90点の応募があった。例会場のハイアットリージェンシー東京の協力で絵画展を開催し、教育委員会をはじめ多くの家族などが小学1年生の初々しい目でとらえた絵を鑑賞した。ロータリーの青少年奉仕活動の地域理解促進にもつながった。
 (10月11~30日 第2580地区 東京都)





ロータリー アットワーク

ROTARY AT WORK

ボランティア見本市で 盲導犬体験事業

川口モータークラブ
第2770地区 埼玉県

雲一つない晴天に恵まれた10月19日、「第13回ボランティア見本市」が埼玉県川口市内の公園で開催されました。川口市が日本一のボランティアの街を目指して2002年から開催しているイベントで、川口モータークラブ（RC）は（公財）アイメイト協会とともに、アイメイト（盲導犬）体験事業を2003年から実施しております（アイメイト協会では同協会所属の盲導犬のことを「アイメイト」と呼称しています）。

今回も子どもたちを中心に100人を超える参加者が、アイマスクを着け、アイメイトに手を引いてもらい、実際に仮設コースを歩きます。

健常者にとって通常の歩行速度でも、目が見えない状態ではとても速く感じ、多くの参加者が普段との違いに驚きます。たくさんの人々が行き交う街中で、人の流れに沿って安全かつスムーズに歩行できるよう訓練されたアイメイトは、本当にすごいと、あらためて感じます。

7月にはアイメイト協会所属の盲導犬が電車の駅付近で刺されたとみられるけがをしたという、あつてはならない事件が報道されましたが、川口モータークラブとしてもこの盲導犬体験事業を通して、より一層の盲導犬への理解・認知のための活動が続けていき、このようなことが二度と起こらない、障がい者や動物にとっても優しい社会を目標に、さらなるボランティア活動に励んでいきたいと思えます。（鈴木孝佳・記）

華やかに風を遊ばせ萩の寺

愛知・名古屋北

吉田 正克

風去るや秋蝶天へ伴ひて

福井南

松山 古来

コスモスのどこかが揺れて皆揺れて

奈良西

中村たもつ

この峽の深さしみじみ十三夜

大阪心斎橋

西村 拓夫

小春日の退院廊下賑はへる

大阪うつば

齊藤 隆二

紫陽花の万の花浮く間の景

大阪・堺フェニックス

米田眞理子

虫すだき皆既月蝕続きけり

兵庫・神戸西

村野 利昭

浅間山ほんのひととき霧霽れて

兵庫・神戸西

後藤 睦子

いまに鳴る添水^{そうず}を待ちししじまかな

兵庫・神戸西

廣瀬ゆきを

振り向きて小さな秋に出会ふ怪

兵庫・神戸西

飯山 嘉昭

菊の香や書展に仮名の息づかひ

徳島・脇町

片山 良樹

残照の湖畔巡りて秋惜しむ

島根・松江しんじ湖

三島 通敬

俳諧は日本の文化文化の日

大分中央

岩男 好員

ご無沙汰を詫びる墓前に秋の風

長崎・平戸

辻 賢治

峠茶屋人みな去りて秋の風

埼玉・日高

犬竹 功子

投稿規定 ◆雑詠 ◆クラブ会員、家族 ◆一か月に葉書一人一枚に三句まで ◆締切日 二〇日必着 ◆葉書ウラにもクラブ名・氏名、電話明記 ◆楷書で明確に ◆『友』俳壇係宛

パソコンを開ければ「誕生日おめでとう」
フェイスブックのお知らせ届く

京都西南

池田 敏子

もろもろの家具の廃棄の山を見て
引越といふ脱皮を思ふ

東京荒川

井上 久子

独立にわれ関せずと草を食む
スコットランドの羊に幸あれ

東京新

欣樹

おでましの稚児行列におてんばも
やんちゃ坊主もよそゆきの顔

愛知・碧南

杉浦 保子

塩屋崎灯台守のすぎゆきを
想ひつつ聞くけふの波音

岡山・倉敷東

吉岡 洋子

白線は車のためか人ひとり
やつとの歩道を身を細め行く

香川・高松

平峯 千春

街角に金箔の雪つり飾られて
イルミネーションとともに煌めく

石川・金沢百万石

石丸 恭子

台風^{タイフーン}の事無く過ぎて林檎園に
揺み垂れつつ光る紅

富山・魚津西

加納 綾子

くきやかに地上を照らす後の月
台風一過の空も澄みて

島根・出雲南

小村 尚子

妹の胸にさしたるカーネーション
クラスで一人白き花なりき

福岡イブニング

守田 則一

秋雲にのつてたまには他の人に
背をむけながら生きるのもよし

奈良

寺田 康宏

投稿規定 ◆雑詠 ◆クラブ会員、家族 ◆一か月に葉書一人一枚に三句まで ◆締切日 二〇日必着 ◆葉書ウラにもクラブ名・氏名、電話明記 ◆楷書で明確に ◆『友』歌壇係宛

神様よこの世のことも受け付けて

福岡イブニング

守田 則一

居残りかグリーンの上の赤とんぼ

奈良

寺田 康宏

十三年頑張りリニア乗るつもり

新潟・吉田

佐藤 良一

青色で世界を照らす和の匠

北海道・斜里

辻 舒宏

告別へ人それぞれの時刻表

高知西

山岡 陸宏

鼻かぜも迂闊にひけぬ渡航歴

埼玉・入間南

大河内隆敏

泉質は手の甲舐めて確かめる

京都・宇治鳳凰

辻 幸男

タッチよりこすると言えど呑み込める

愛知・豊橋

荒島 一実

ゆったりと降り^{くだ}り楽しむ老いの坂

千葉・市川

照井 親資

サブリなど不要自然食で過ごす

茨城・日立港

小松 弘二

朝寝坊妻の小声にサブリ飲む

埼玉・入間南

遠藤 好一

社員ゼロそれでも私社長です

埼玉・行田さくら

小澤 誠邦

肝機能数値下がって祝い酒

青森・八戸

石橋 敏文

眼鏡無し還暦過ぎて異常かな

大分・中津

福澤 廣明

体重計咄嗟に息を止めてみる

兵庫・神戸中

吉井 邦弘

消灯の静かなる部屋月明り

和歌山・海南

川上 武

投稿規定 ◆雑詠 ◆クラブ会員、家族 ◆一か月に葉書一人一枚に三句まで ◆締切日 二〇日必着 ◆葉書ウラにもクラブ名・氏名、電話明記 ◆楷書で明確に ◆『友』柳壇係宛



稲畑汀子



山茶花や散りてよりなほ華やげり

東京羽田 船山 博之

山茶花はどこにでも咲き誰にでも親しまれる木の花で、毎年冬に花を次々と咲かせる。赤い花白い花は咲き始めるのと同時に散り始める。散つてからも花びらの色が木の根方に広がり、作者の言うとおり華やきが広がって美しい。長い冬を咲き継ぎ、玄関や門を出入りする時に見て楽しめる。身近な花として、誰にでも見られる花として、厳しい冬の心の拠り所としても親しまれていく。山茶花らしい表現の秀句。

泥つけて角なき鹿の威を保つ

奈良 名和 佑介

十月の奈良で行われる鹿の角伐(き)り。そこで立派な角を伐られた牡鹿(おじか)は、何となく威厳が失われたように哀れを誘う。その後、しばらくたつて奈良へ行かれた作者の目に映った牡鹿が、体に泥をつけているのを見た。角を伐られた鹿が泥で汚れていることが、まるで威厳を保っているかのように見えたのである。強い牡鹿の印象でもあり、鹿の角伐りの後の推移が想像される。

この辺も奈良町であり柿たわわ

奈良 吉田 淳

海暮るる空に浮かびて月の舟

埼玉・川口中央 細井善次郎

対岸へ渡し急ぐ初時雨

千葉・野田 佐野 浩平

古書新書神田の虜秋の暮

神奈川・横浜旭 吉原 則光



佐佐木幸綱



今日はよく郵送本の届く日よ

孫文のこと 舞鶴港のこと

東京ウセタ 福地桂之助

郵送本は、ここでは著者の寄贈本のことだろう。知り合いの著者が、作者宛に本を送ってくれたのだと思う。なつかしく、うれしい気分が読める。

孫文(一八六六―一九二五)は数々の日本人と深い交友関係があった人物だった。舞鶴港は、戦後はシベリア抑留などからの引き揚げ者たちの船が多数帰港した地だった。孫文にゆかりのある人、そして、戦後に引き揚げてきた人が、書いた本なのかもしれない。

若き日に釣果きそひし亡き友は
棺の中で釣竿抱けり

神奈川・川崎西 吉田 恵一

若い時代からの長いつきあいの友人への追悼歌。よっぽどの釣り好きだったのだろう。遺族がお別れのときに、お棺の中に愛用の釣り竿を入れ、抱かせたのである。

昔からの友人の死は、なんとも悲しいものだ。作者は、しかし、悲しみの気持ちをそのまま投げ出すことなく、たんたと客観的な表現に徹することによって、深い思いを一首に盛り込むことができた。

一刻を織りゆくことの楽しければ
糸明かるめに染めあがりけり

熊本水前寺公園 北里美知子



てじま晩秋



赤エンピツ近ごろ味方してくれぬ

大阪西 鴨谷瑞美子

この句の作者が男性であれば競馬、競艇などのギャンブルを想像してしまいがちですが、あくまでも、赤字の家計簿と闘っている主婦でしょう。鴨谷さん、どうか頑張ってください。きつと、旦那(だんな)さんも感謝しておられるでしょう。なお、どうしても五・七・五の定型に入らぬ字余りの時は、この章のごとく「赤エンピツ」と上句に配置すれば、すっきりと読めます。

直す気などなく頑固な津軽弁

青森北東 遠間 善弘

青森県は太平洋側を南部、日本海側を津軽と呼び、二分されています。私としても仕事、川柳の旅で幾度も訪れています。主に八戸市・三沢市などの南部地方が主体でした。幸い昨年「全日本川柳・青森大会」に選者として参加できまして、生の津軽弁に触れました。遠間さんの言われる通り頑固な感じですが、根は純粹な笑顔のすてきな方が多かったです。

持ち主の過去も売ってる古本屋

群馬・伊勢崎 秋山 春海

古本屋には、古本と共に持ち主だった人の長短さまさまな、たくさん「喜怒哀楽の人生」が凝縮されております。ふと考えますと、笑いの涙(なみだ)、ペーソス、ストーリーが店内いっぱいに広がっております。私も時折購入していますが、このロマンの香りがなんとも言えず好きなのです。秋山さん、今日も覗(のぞ)いていきますか。

空青く描くと鳩が飛んで来る

青森・五所川原中央 小野 順蔵

手術が標準術式になりました。腹腔鏡下手術の利点は、明らかにキズが小さいため、美容上も優れ、術後の痛みも少なく、早い時期から歩けるようになることです。そして、回復も早く、退院や社会復帰までの期間が短いことなどが挙げられます。しかし欠点として、視野が狭く、二次元での鉗子操作には高度な技術を要します。胆のう手術は手技が比較的容易であるため普及が進みましたが、胃や大腸の手術は手術手技が複雑なため、多くの医療施設では従来通りおなかを大きく切る方法で手術が行われてきました。

ところがここ一〇年の間に、医療機器の進歩によって大腸がんや胃がんなどの悪性の病気に對しても腹腔鏡で手術を行うようになってきました。実際に手術をすると、腹腔鏡下手術は開腹手術に比べて低侵襲であるだけでなく、拡大して見ることができ、細かい操作ができるため、より精緻な手術ができる可能性があることがわかりました。さらに、映像を回線で送ることで術者が専門医の指導を受けながら手術したり、遠隔地の医師がロボットの遠隔操作で手術することも可能になります。

(第二四〇地区・和歌山県・有田R.Cにて)

少年法と少年友の会

鈴木敏弘法律事務所 弁護士 鈴木 敏弘

少年法は、非行を少年の成長過程の問題として捉え、糾弾や刑罰によるのではなく、子どもの健全な成長発達を図ることを通して、非行という問題を解決することを目指しています。第一条では目的が定められています。「この法律は少年の健全な育成を期し、非行のある少年に對して性格の矯正及び環境の調整に関する保護処分を行うとともに、少年の刑事事件について特別の措置を講ずることを目的とする」。これが少年法の理念です。そのため「審判は、懇切を旨として、和やかに行うとともに、非行のある少年に對し自己の非行について内省を促すものとしなければならない」とされています。少年とは二〇歳に満たない者のことです。現在、少年審判は家庭裁判所で行われています。教育学、臨床心理学、児童精神医学、ソーシャルワーカーなどの科学的、合理的な知見に基づき、子どもを理解し、非行の原因を考え、少年の非行性を解消するために必要な処遇を決定する

場とされています。少年は、自分の気持ちや言いたいことを整理して説明する能力が不足しており、援助すべき存在が重要です。また、少年だけでは、家庭や学校、職場との関係を調整することもできません。少年が心を開き、自らの行為を振り返り、真実を見つめ、反省する。立ち直るきっかけを得るには健全な良識を持った大人が「付添人」として活動することが必要です。

心理的な温かい援助が必要だという少年に、家庭裁判所が特別に許可して一般人を付添人とすることがあります。そのような付添人を担うボランティアグループに「少年友の会」という組織があります。健全な良識、豊富な社会経験を持つ大人として、調停委員やそのOB・OGを構成員とし、家庭裁判所が作りました。家庭裁判所で扱われる更生福祉のために活動する団体です。活動は、付添人活動だけでなく、最終的な審判の前に在宅で様子を見る試験観察の際の補導委託先の開拓、または、ボランティア活動や交通違反をした少年への交通講習、犯罪被害者の話を聞くなどの少年審判の前の保護的措置に対する協力などです

(第二六〇地区・静岡県・浜松R.Cにて、同R.C会員)

卓話



■「卓話の泉」は、各クラブの会報、週報に掲載の卓話の中から、客観的内容の話題、ミニ知識となるものを主に選んで要約、掲載しています。

お菓子物語

(有)平治煎餅本店 会長 伊藤 友治

お菓子が庶民に登場したのは、庶民にとっての一番の気晴らし、寺社への参詣でした。一四〇〇年代、大きな寺社の周りには茶店(茶屋)があり、記録によると、京都・東寺の門前には「一服一銭」の茶店があったそうです。当初、茶道具を持ち運んで客にお茶を売っていました。後に店を構え、こうして茶屋文化は一五〜一六世紀ごろ生まれました。

寺社に参拝し、茶店でお菓子を食べ、おいしいと思ったり、由来、由緒がありがたがり、悪い事をはらってもらえるよう願ったりと、お菓子と寺社は深い関係

があります。

お菓子に必要な甘味料では、平安時代の『枕草子』に、「アマズラ」(ツタの樹液を煮詰めた甘味料)を、かき氷にシロップのようにかけて使っていたことが記されています。一六世紀ごろから、砂糖が登場し、お菓子は一段と発展します。

素材や味わいだけを言えば、どこにもありそうなお菓子でも、由緒があることで特別な品となります。例えば、岡山県の「きび団子」、広島県の「もみじ饅頭」など、単なるお菓子を越えて、現在でも町を象徴するものになっています。

お菓子では、一つひとつに付けられた名前が意味を持ってきます。名前を付けるということは、物と自分との間に親しい関係をつくることだからです。日本人は、何にでも名前を付けたがりですが、江戸時代、視覚的な表現と文学的な表現を統合することで、美を膨らませようという発想が強くなったことが影響していると思います。名前を付けることで、名前の背後にある和歌や文学へも想像が広がります。文学的な楽しみ、視覚的な楽しみを総合することで、もっと深くてもっと大きな楽しみにしようとするのです。

(第三三〇地区三重県・津北RCにて・同RC会員)

最近の消化器外科手術

有田市立病院外科医長 椿原 秀明

医学の進歩により病気に対する治療法は変遷してきました。二〇年以上前は、腹部のがんの手術は、取り残しがないようにおなかを大きく切つてできるだけ広く切除していました。その後、治療成績のデータが蓄積され、科学的な根拠に基づいて切除範囲を決定して必要なだけ切除し、残せる臓器は可能な限り温存するという手術になってきました。

消化器外科領域でも手術の方法が大きく変わってきました。その一つが腹腔鏡下手術です。腹部に小さな穴を数か所開け、そこからカメラや専用の電気メス、鉗子などの手術道具を入れて、テレビモニターを見ながら行う手術です。一九八七年フランスで初めて腹腔鏡下胆のう摘出手術が行われたとされ、日本でも一九九〇年に第一例が実施されました。当時は保険制度の問題もあって一部で行われるにすぎませんでしたが、その後は全国的に急速に普及し、胆のう結石症の治療は開腹手術ではなく、腹腔鏡下

け通じたかわかりません。

さて、日本でも満員電車で大学病院へ通勤していた時、青年が突然倒れたことがありました。舌をかまないよう、呼吸ができるようにと万年筆をかませ、下車する人に「駅員に連絡して」と叫ぶしかありません。返事はありません。ところが次の駅で駅員が担架を準備して待っていたのです。このようなことが二回ありました。

ロータリアンになってからは、電車に乗るのは昼ごろです。車内で手すりにつかまっていた中年の男性が倒れました。受け答えができたので私の席に座らせ、経過を見ていました。数駅を過ぎたところ、反対側の乗客に席が空いたと知らされ座りました。私と同じ年ご

バナー自慢

熊本05福祉ロータリークラブ

第二七二〇地区（熊本県）



当クラブは、福祉を冠に頂き、二〇〇五年に創立されました。バナーは手話で「約束」を表現しています。助け合って、ともに喜ぶもやいの丘、飾りのないやさしさの約束です。

ろの男性でしたが、話題がありませんから「戦争中はどこにいましたか」と聞きました。すると、旧満州国の奉天（現・瀋陽）というではありませんか。私が小学生の時に住んでいた奉天ですから、話が弾みました。なんと彼は一歳年上で隣の小学校の児童だったのです。

このことをきっかけにお付き合いが始まると、彼がオペラに精通していることを知りました。彼を誘い、私のクラブのオペラ好きの仲間で「天井桟敷の会」をつくって、オペラ鑑賞と飲み会を何度か開きました。しかしロータリーで地区の委員、さらにいろいろな役を仰せつかって忙しくなり、「天井桟敷の会」を解散したのが残念です。

（第二七五〇地区 東京都 外科医・消化器）

米蘭故城の美しきストウパ

東京武蔵村山 見延 壽昭

シルクロードという言葉には、ロマンの薫りがします。中国と地中海世界を結ぶ絹の交易路です。ウイグル語の「死」と「無限」の合成語から「一度入ったら出られない」を意味するというタクラマカン砂漠。その周囲の交易路上は繁栄したオアシス都市の名残、覇権の移り変わりによる民族の多様性、仏教からイスラム教への移ろいなど、異文化が砂に埋もれていったような不思議な雰囲気のある

場所です。

スウェーデンの探検家スヴェン・ヘーデンによって発見された楼蘭から南へ四〇〇キロメートルのところにある米蘭は、現地の人さえあまり知らない遺跡です。ここは、イギリスの探検家オーレル・スタインに発見された「双翼天使壁画」があることで知られていますが、そのストウパ（仏塔）を見たくて、同じクラブの仲間と漢族の友人に案内を頼んで訪れました。成田から北京まで四時間、ウルムチまで四時間、ホータンまで二時間と飛行機を乗り継ぎ、西域南道を東へ二日間車で走りました。アシと土で積み上げた砦とともに二〇〇〇年以上たった今も乾燥の厳しい場所に立つストウパの姿は、その環境の厳しさゆえに、心を震わせるような美しさでした。同時に自然には勝てない人間のはかなさを感じました。

（第二五八〇地区 東京都 建築設計）



米蘭の入り口の前で（右：筆者）

トは日本人六人を含め総勢八〇人。その名簿には、新郎新婦の心遣いとウイットに富んだ楽しいコメントが記入されていました。

当日は三〇度以上ある暑い日でしたが、冷房設備が設置されていないため、食事の合間に外で涼をとりながら会話を楽しみ、七時間があつという間に過ぎました。二つの家族が一つにつながることを全員で祝福するといった印象を受け、お国柄や気質の違いに気付かされるセレモニーでした。

遠路はるばる、親元を離れて未知の国、日本に何かを求めてやって来た一人の高校生。その勇気とエネルギーが、人と人を結ぶこんなに大きな輪を作ったのだという思いを抱きました。可能であれば、次回はもっとゆつくり、夫とイギリスを旅してみたいものです。

(第二六八〇地区 兵庫県 福原良介会員夫人)

女王陛下に幸あれ

白梓 丸岡伸比古

二年前、イギリス・オックスフォードを観光で訪れた際に、地元の一つのロータリークラブを訪れました。イギリスでは、通常の例会を夜間に行うクラブが多いようで、夜に予定が空いていた日が例会日だったオックスフォード・アイサスロータリークラブ(RC)へ行ってきました。おかげで、一人で食事を

しなくても済み、楽しくて、ちよつと緊張した夜を過ごすことができました。

もう一つはオックスフォード近郊のウォンテージRCです。このクラブは昼例会で、カフェテリアのように並んで食事をよそつてもらうのが印象的でした。

どちらのクラブの会長も、肩から襟なでのような帯を下げ、その帯には歴代の会長の名前を記したプレートが付けられていました。歴史があるクラブでは、そのプレートがぎつしりと並び、いかにも重々しい様子でした。また、グラスを掲げて「女王陛下に幸あれ」と呼応しての乾杯も印象的でした。

イギリスへ行く前に、あらかじめインターネットで検索して、クラブのホームページから調べたメールアドレスに、訪れる旨を送りました。メールアドレスがわからなかったウォンテージRCには、例会時間に合わせて



おしゃべりをしながら食事に並ぶイギリスのロータリアン

電話をしました。ちよつど例会の最中に会長がこの電話を直接取ったようで、私のたどたどしい英語でのやりとりが例会場の爆笑を誘ったそうです。

また、現地の地理はまったくわからないので、インターネットで例会場近辺の風景を予習していきました。いかにも便利そうですが、実際に歩いてみると全く違った風景でした。近い将来、3Dの映像で現場体験ができる時代になるでしょうが、人と人との付き合い合いは、テクノロジーでは簡単に解決はできないでしょう。

(第二七二〇地区 大分県 脳神経外科医)

発作で倒れた人を介抱して

東京八王子南 坂本 俊雄

二〇〇九年、イギリスのバーミンガム国際大会での朝のことです。ホテルの玄関で青年が意識不明で倒れており、母親が大声で泣いていました。ホテルの従業員が右往左往、医師の私が青年の脈を診ると、脈拍も脈圧も正常です。毎分の呼吸数も正常でした。「てんかんの発作だな」と直感して、水に浸したタオルを従業員に持ってこさせ、首の後ろを冷やし、首を後ろに反らせて呼吸がしやすいように気道を確保、母親に「てんかんの発作だから心配しないで」と言いましたが、どれだ



クラブ会長とバナー交換をしてきました

くことを連絡しました。
「例会には一五人が出席、半数が女性でした。東洋人はおらず、アフリカ系の女性やインド系男性二人。プリテンという名前の美しい貴族のおばあさまがおり、印象に残りました。点鐘があり、国歌を歌い、主に祈り、新会員に入会のバッジ授与。食事はカフェテリア形式で、二種類の料理にマッシュポテトとチーズとクラッカーがつき、会長がサラダを皆にサーブしてくれました。飲み物は一階のパブで買う形式で、ビジターフィーは一〇ポンド（約一八〇〇円）でした。
卓話はワイン屋さんの話で、ワイン五本が賞品として出され、くじで当たった人にお祝いを言うと、そのワインを私にくださいました。申し訳ないことをしたと反省しました。二時間の例会は、楽しくてあつという間に終わってしまいました。
クラブの先輩、浅川皓司パストガバナーの

「現地に行って連絡しないと、先方はいろいろな変更がありますよ」というアドバイスが役立ちました。（第二五八〇地区 東京都 婦人科医）

メツテの結婚

姫路西 福原 洋子

ロータリーの青少年交換学生として一三年前にスウェーデンから来日、姫路に一年間滞在し、高校生活を体験したメツテ・ヨセフソンの結婚式に出席するため、ロンドンへ行ってきました。

メツテは、姫路近郊の散策や郷土のお祭り、和菓子や弁当、書道、茶道、アニメが大好きになり、回転寿司や焼肉店も大いに楽しみ、日本文化をたくさん吸収して帰国しました。それ以降も、四回以上来姫しています。

現在、メツテはイギリスのケンブリッジ大学病院で産婦人科医として勤務、新郎のチャールズ氏は、同大学内で、バイオテクノロジーの研究しています。その関係で、同大学内での挙式という案内をいただき、娘と出席することになりました。

現地に到着するまで日本から二〇時間以上かかりましたが、途中に立ち寄ったキングス・クロス駅は、映画「ハリー・ポッター」で、主人公たちが魔法学校に出发するシーンのロケ地となったところで、そのホームに立てた



笑顔の絶えない、すてきな結婚式でした

ことはすてきでした。

結婚式は七月一九日、ケンブリッジ大学内の礼拝堂で執り行われました。パイプオルガンの演奏で始まり、牧師さまのお話の間にメツテのお姉さまが聖書を、ご友人がシェークスピアの詩を朗読。八人の聖歌隊によるコーラスが随所に入り、最後はメツテの故郷スウェーデンの婚礼の歌をアカペラで披露して華やかに終了しました。

写真撮影をした庭園は、チャールズ氏の研究場所でもあり、美しい花々とゆったりと流れる小川がまるで絵画のようでした。

披露宴はメツテのお父さまのスピーチから始まり、両家の両親、兄弟姉妹、友人と続き、ゲームやケーキの入刀、そしてパフォーマンズでも楽しませてくれました。宴席は「ハリー・ポッター」の魔法学校内の食事のスタイルと同様に超縦長のテーブルで、ガス



ラナの晴れ姿を見ることができて感激

シーがいたのである。彼らはわが家にも遊びに来ていたので、一六年ぶりの再会だった。彼らが私たちを覚えていてくれたことに感激した。

ジェシーは流暢な日本語で「私は盛岡西ロータリークラブ（RC）でお世話になりました。日本への留学はとても面白く、役に立ちました。今はカナダにある日系企業に勤めています」と言い、パーティーでわれわれのお世話をしてくれた。シヨーンは片言の日本語で、「私は大船渡西RCでお世話になりました。今、救急救命士として元気に働いています。日本はとても良かった。交換学生になれて本当に良かった」と話してくれた。

さらにびつくりすることがあった。彼らのテーブルにいた女性が、「私はブラジルから夫と来ました。名前はルシアナです。私は花

巻RCのお世話になりました。今はデザイナーの仕事をしています。父は日系三世です。交換学生になれたおかげで、日本を見ることができました」と話してくれた。ラナとの関係を聞くと、二〇〇二年、ラナが花巻で一年間英語の教師をしていた時、交換学生で花巻南高校に通っていて、知り合ったのとことだった。

ラナの晴れ姿が見られたこと、懐かしい再会ができたこと、彼らが皆、ロータリーに感謝していたこと、立派に成人していたことを知った。思いがけない楽しい旅となった。

ロータリーの青少年交換事業にかかわったことで、花巻ホームステイ協会から会員二人が当クラブに入会くださったことも加えてお知らせする。（第二五〇地区 岩手県 脳外科）

メイクアップ・イン・ロンドン

東京王子 松下 真理

昨年の八月、旧知のカナダ人夫婦とイギリスのエディンバラで待ち合わせて、「ミリタリー・タトゥー」というお祭りを見に行きました。

イベントはエディンバラ城内で到着翌日の夜九時から始まりましたが、気温は八度であいにくの豪雨。しかし、伝統衣装の軍人たちの行進と世界各国のパフォーマンズが揺る

バナー自慢

弘前アップルロータリークラブ

第二八三〇地区（青森県）



二つのリンゴは「親睦と奉仕」を表し、その実を大きく育てたいという私たちの思いを込めました。デザインは全員で知恵を絞り、水墨画、書など会員の得意分野を発揮し完成しました。リンゴの上のロータリーの徽章が太陽のように照らしています。

ぎなく、一時間半繰り広げられました。演者も大変でしたが観衆も大変でした。満員の観覧席で途中退席する人は子ども連れの家族だけで、一〇人もいませんでした。

翌朝、エディンバラからロンドンへ移動。友人のご子息のお宅に五日間、お世話になりました。テムズ川沿いの高級住宅地で、外観は古い英国長屋ですが、内部は広く、ベッドルームが一七もあるお宅でした。

近くでメイクアップをしようと思い、日本で調べていったチェルシーロータリークラブ（RC）の例会へ行つてみると会場のホテルが工事中で、一年前から閉鎖しているとのこと。もう一つの候補だったバタシーパークRCの幹事宅に電話して会場を聞き、例会に行

友愛の広場



エッセー、海外のロータリークラブ訪問記、時局雑感など。1,000字以内。関連写真があれば添付してください。

ところ変われば

鹿児島西 古木 圭介

二〇〇九年、私はGSE（研究グループ交換）のチームリーダーとして若者四人とともにアメリカ・イリノイ州南部（第六五〇地区）を一月余り旅した。原則ホームステイなのでアメリカの家庭生活も体験でき、とても楽しく有意義な研修となった。

その半年前、第六五〇地区から五人のGSEチームがやってきた。わが家にはリーダーのメアリーさんが滞在した。ある日、彼女を乗せて車で走っている時、前の車が付いているステッカーを見て「あれは何？」と尋ねられた。見ると日本ではおなじみの、初心者マークや高齢運転者マークだった。アメリカにはこんなステッカーやルールはないそう



スーパーマンの故郷イリノイ州メトロポリスでGSEメンバーと

土産に買っていった。私たちもイリノイ州では家庭に招かれ、ホームパーティーが頻繁に開かれ、近所のロータリアンが家族でやってきた。そこで私たちも日本の歌を披露したり、踊ったりしたが、大受けしたのがNHKのラジオ体操だった。日本から持参したテープに合わせてラジオ体操を披露したのだが、見ていたアメリカ人たちは腹を抱えて笑い転げていた。日本では小学校からなじんでいて、笑う人などいないが、アメリカではエンターテインメントになることを発見した。きつとテープから流れる音楽に合わせて踊るように体操する姿が滑稽に思われたのだろう。それ以来、私は交換学生として海外に行く人たちにはラジオ体操を披露することを勧めている。

（第七三〇地区 鹿児島県 観光事業）

青少年交換学生たちの成長をこの目で

花巻南 湯川 英機

一九九七―九八年度、わが地区には六人の青少年交換学生がいて、このうち三人がカナダの若者だった。私のクラブが受け入れたラナは、四軒の家にホームステイ、わが家以外はロータリアン宅ではなかったが、そこから一年間、岩手県立花巻南高校に通った。

ラナは大学卒業後、韓国にカナダの物産を輸出する企業に就職し、韓国に來ると必ず日本に寄り、花巻に足を延ばしてくれた。その都度、四軒のホストファミリーが集まり、食事会をした。そこでは、「ラナ、そろそろ結婚しなさい。その時は必ず招待するんだぞ」という冗談まじりの決まり文句があった。

ある晩、電話が鳴った。「ラナです。結婚します。来ますか?」「行く、行く。おめでとう! 良かった」と妻に相談もせず返事をした。まもなく正式な招待状が届き、二〇一四年八月、三家族六人がカナダに飛んだ。

結婚式は晴天で、屋外で行われ、ラナはたくさんの列席者に祝福されていた。披露宴で初めて会ったラナのお母さんは、おおらかにすてきな人で、ラナの日本でのことを何でも詳しく知っていることに驚いた。

隣のテーブルを見て驚いたことに、ラナと同時期にカナダから來ていたショーンとジェ



川崎中RCの内藤幸彦元会長と萩原ひとみさん

武蔵小杉駅周辺を大野省吾さんと歩く。
右は「友」代表委員の長戸はるみさん

ジメント（通称エリマネ）」というNPO法人がある。新しいまちづくり、地元との交流などを目的に設立された。「ホテル精養軒」の萩原さん（前出）は設立メンバーで、理事も務めていた。

「新しく住まれた方々は能力の高い方がそろっている。意識の違いはあったとしても、古くからの地域や人と融合したら、ここはすごく面白い街になると思います」

数年前、四九階建て七〇〇戸近いタワーマンションで、あるイベントが開かれた。地元の商店がマンションのテラスや庭に店出し、居住者と交流したのだ。マンションと商店街の橋渡しをしたのは萩原さんである。

その半年後、東日本大震災。

大きな被害はなかったものの、高層階に暮らす不安と同時に、住民同士のつながりの大切さなどが実感されたと萩原さんは思う。

「地域は人のつながりで支えられています。お互いの顔がわかる、ほど良い関係がないと命は救えないんです」

エリマネはその後一層、防災・防犯を中心に子育てや交流会、勉強会と活動の幅を広げてきた。

コスギフェスタというお祭りがある。ハロウィーンの時期に行われ、仮装コンテストや演奏会、ダンス、それぞれのマンションや商業施設もカフェなどを開いて参加する。

四回目の去年は、たった一日だけの催しに五万人が集まった。「どうなることかと思いましたが、想像を超えていました」。エリマネ・

安藤均理事長も驚く盛況ぶりである。

去年は地元小杉神社の秋祭り、タワーマンションの住人が初めて神輿を担いだ。「若い担ぎ手が足りないというのでマンションの方々、声をかけました。大勢ではなかったですが、参加した人たちは楽しかったようです」。地元で生まれ育った安藤さんはうれしそうだ。

中原区内の全四クラブは武蔵小杉に事務局がある。再開地区からの入会者はまだこのクラブにもいないようだ。川崎中原RCの小林正樹会長は「私たちのPR不足、先方の関心不足でしょうか」と残念がる。

そして、「他人のためににかしたい若者は増えていると思います。それがロータリークラブにつながらないんですね。それはいま、全国のクラブが抱える共通の悩みだろう」。

武蔵小杉の再開発は短期間に進んだ。交通機関は混雑し、幼稚園や学校も足りない。ビル風の害も指摘されている。でも駅周辺にはさらに次のプロジェクトが控えている。動き出した「街」は止まらないのである。

いつか、移り住んだ人たちがロータリークラブに入会する、あるいは再開地区に新たなクラブができたりするころ、歴史といまがぶつかり融け合うこの街はどんな暮らしの風景を見せてくれるだろうか。

宮本貢（みやもと・みつぐ）
元朝日新聞記者。退社後、フリーで活動。
水村孝（みずむら・たかし）
元朝日新聞出版写真部編集委員。現在フリー。

川崎中原RCの例会で小林正樹会長（左）
と横山芳春・川崎北RC幹事

川崎中原RCの例会（ホテル精養軒）

川崎中RCの移動例会（西明寺）



「小杉駅周辺エリアマネジメント」の安藤均理事長



「工業都市」
だった（駅の
位置も違って
いた）。
工場が撤退
しグラウンド
も売られ、広

い。一帯は工場や社員のグラウンドなどに占められ、東横線の駅名は戦後しばらくまで開発のスピードが速かった。異様に速かった。駅東側がかつて工場地帯だったことが大きい。

「ここはどここの街？って感じですよ」
駅前で父の代から半世紀以上不動産業を営む横山芳春・川崎北RC幹事も笑ってしまうのだから、ヨソモノが驚くのはあたりまえか。

武蔵小杉の駅周辺をウロウロすると不思議な気分になる。旧来の駅前商店街と再開発地区の佇まいが劇的に違っているからだ。

地域は
人のつながりで支えられている

周波数は79.1MHz。川崎市には区が七つあるところから、「7区が1つ」と読むのだそうで、この読み方はなんとなくカワイイ。ホームページにさりげなく載せてあるあたりもカワイイ、という余計な脱線でした。

体が参加している。
ちよつと脱線しますが、川崎市内を対象にした「かわさきFM」というコミュニティ放送がある。内藤さんも「ユッキー先生の〜」というコーナーに出演している。



どんな形で地域と共生できるのか。
住民同士はどんなつながりをつくれるか。

再開発地区に「小杉駅周辺エリアマネ

たぶん意識や嗜好、金銭感覚や生活スタイルも異なった新しい住民が、たとえば武蔵小杉の再開発地域では二万人は超えている。考えてみれば、いや考えるまでもなくエライことだ。

い駅前の土地が一気に空いた。そして昔からの街道筋、住宅地、商店街などの空気と馴染む間もないスピードでタワーマンション街ができたのである。ニヨキニヨキ。
どこの街でも新しい住民が移り住んでくるとはある。タワーマンションの場合はその規模が桁はずれだ。一棟で一五〇〇人から二〇〇〇人の住民が増える。



昨年12月14日、武蔵小杉の駅前で商店街が主催する恒例の「餅つき」があった。近くに法政二高があるご縁で、法政大学相撲部の猛者たちが息も切らさず（ウソ）220キロの餅をつきあげた。つきたての餅や五右衛門汁に長い行列ができていた（上の3枚）

幹線の府中街道は渋滞しがちだ（右）



駅周辺では高層マンション建築が続く





多摩川河川敷から見た対岸の高層ビル群



高層ビルに囲まれたグランツリーの屋上庭園

言われるのは、ここに長くいる者としては面白くないな」と叱られた。そうですね。通過客はどうもデリカシーに欠ける。

じつは古い土地柄である。江戸時代の初めにはまだ海沿いの東海道が整備されておらず、「小杉」を通る中原街道がメインだった。街道を行き来する家康のために「小杉御殿」が建てられ、町名として残っている。

時代は下って昭和一一（一九三六）年、大野さんの祖父が食品市場、父が酒類・雑貨店を開いたのが現在のスーパー「大野屋」につながっている。「周りは田んぼで、一面レンゲ畑だった」

蔵小杉」もオープンした。

馴染みのない土地での取材は『友』の地区代表委員さんに頼るのがイチバンだ。今回は長戸はるみさん。川崎高津南ロータリークラブ（RC）の創立会員で元会長。川崎市の女性会員第一号でガバナー補佐も務めた。

落ち着いた物腰は、学校で教え演奏会を開くほどの琴の素養から来ているのかもしれない。

紹介されたのがスーパー「大野屋」の大野省吾会長だ。武蔵小杉駅前通り商店街振興組合の理事長で、武蔵小杉駅南口地区西街区市街地再開発組合（長い！）の理事長でもある。

「武蔵小杉、何もなかったですよね」と口走ったら、「そう

そうだ。

大野さんの案内で街を歩く。駅の西側は昔からの商店街。住み慣れた日常の暮らし。

一方、東横線の駅周辺とその先には、新しい商業ビルとタワーマンション。風景は再開発前とガラリと変わった。「あそこね」と、大野さんが駅前の空間を指さした。「ウチの倉庫があった。思い出しますよ」

地区の再開発に関わって三〇年近い。地元商店街と再開発の間で複雑な気持ちだった。

「いまも揺れ動いている。不安はいよいよ大きいよ。でもまあ、発展するためにはこれぐらい大きく変わらなと。商店や商店街、さらに街同士の競争。街とはそういうもんですよ」

武蔵小杉は川崎市の中原区に属する。区内には川崎北、川崎中、川崎中原、川崎とどろきの四つのロータリークラブがある。毎年、川崎中原RCが中心になって自転車用防犯ネット計一四〇〇個を用意、区民祭などで配っている。

今回の取材では主に、川崎中原RCの内藤幸彦会長と萩原ひとみ会員に知恵を借り、お世話になった。内藤さんは学習塾経営、萩原さんは武蔵小杉で六六年続く「ホテル精養軒」の社長。二人とも、とにかく活動的で人脈が広い。

「なかはら20年構想委員会」という組織がある。二人は副委員長を務める活動の中心だ。名前のとおり二〇年後の中原地区を考える官民協働のまちづくり団体で、散策マップや、地域の今と昔を対比したマップを作ったりした。区全体を区の花・パンジーの回廊でつなぐ活動には、花づくり農家や商店街など三〇以上の団

中原区民祭で防犯ネットを配る（川崎中原RC提供）



去年のコスギフェスタ（小杉駅周辺エリアマネジメント提供）



わがまち.....ROTARY そしてロータリー

神奈川県 川崎市



新旧が入り交じり

「住んでみたい街」の上位に

文・宮本 貢 写真・水村 孝

タワーマンションが
ニョキニョキ建ち並ぶ

「なんだ、これは！」

電車の窓から外を眺めていて、文字通り仰天したのは何年ほど前のことだったろう。

東京の渋谷と横浜を結ぶオシャレ路線、東急東横線。自由が丘を過ぎ田園調布を過ぎ、多摩川を越えて神奈川県川崎市に入るころ、左手前方に突如高層ビル群が現れたのだ。

新宿副都心？

半世紀ほど前、この電車で学校に通っていた。しかし「武蔵小杉」という駅と周辺の町についてはほとんど印象がない。なんの変哲もない郊外の一私鉄駅だった。

そんな武蔵小杉駅の主に東側に、六〇七年前から高層ビルが建ち始めた。タワーマンション

である。それはもうニョキニョキとしか言いようがない勢いで、この短期間に、高さ一〇〇メートル以上の七棟をふくめ十数棟のマンション群が威容を誇るようになったのだ。

交通の便がよくなったことが大きい。昔からの東横線とＪＲ南武線（かつては田舎っぽかったなあ）に加えて、横須賀線の駅ができた。地下鉄も乗り入れ、

東京、神奈川の各方面に通じる路線の乱れ打ち。いまや「住んでみたい町ランキング」の上位常連である。

去年一一月には、巨大商業施設「グランツリー武

商店街の向こうにタワーマンション

ＪＲ南武線武蔵小杉駅の人ごみ

駅の周辺の高層ビル群



が、火葬されると、二酸化炭素となって空中にばらまかれます。

ばらまかれた炭素〔人〕が、どれくらいの密度になるかと言いますと、立命館大学の安斎育郎名誉教授が計算したところによれば、地球の半径が六三七〇^{キロメートル}で、空気の層が一〇^{キロメートル}であると仮定しますと、なんと、一^{リットル}の空気中に炭素〔人〕が、約八万八〇〇〇個存在することになるのです。

つまり、一人の人が死んでその人の炭素が世界中に均等にばらまかれたとすると、ハワイだろうが、エベレストの頂上だろうが、ロンドンだろうがニューヨークだろうが、どこへ行っても、一^{リットル}の空気中に、その人の炭素〔人〕が八万八〇〇〇個存在するということになりま

す。これはものすごい話ですよ。
実は私、八年ちよっと前に母を亡くしました。私の母も大阪で火葬されましたので、炭素〔母〕は、世界中のあらゆるところに分散されていたはず。ということは、今まさにこの会場の、この空気中にも、私の母の炭素〔母〕が存在しているはず。

もちろん、亡くなってから植物に吸収されたりして数は少なくなっていますが、計算上、八万八〇〇〇個もあるのですから、この会場の空気中に私の炭素〔母〕が何百・何千個も存在していると私は信じています。

私の父も二五年以上前に他界していました、数は少ないかもしれませんが、私の炭素〔父〕も周りに存在しているはず。炭素〔父〕は炭素〔穀物〕を経て、私の体の一部になっています。

る可能性も高い。

皆さんの中に、ご両親を亡くされた方がいらっしゃるれば、その方の周りにも、その方の炭素〔父〕や炭素〔母〕が存在するわけです。炭素〔先祖さま〕も当然存在しています。昔、私の祖母がよく言っていました、「お前がどこへ行っても先祖さまがちゃんと見守っていてくれる」と。実はおばあちゃんの言っていたことは、ある意味で正しかったわけですよ。

私の前の職場の森林総合研究所に置いてあるヒノキの材鑑には、一五六〇年に織田信長（一五三四〜八二）が桶狭間で戦った、一六五一年は三代將軍の徳川家光（一六〇四〜五一）が亡くなったということが、その年輪のところに書いてあります。

本能寺の変は一五八二年ですが、織田信長は焼け死んでいますから、きっと彼の炭素が一五八二年の年輪のところに含まれているはずだと思います。

何を申し上げたいのかと言いますと、皆さんの炭素〔先祖さま〕も、この中に含まれているはずだということです。秋田ではあちこちに天然秋田杉の材鑑がありますが、そこには皆さん方の炭素〔先祖さま〕がたくさん入っているわけです。

古い時代から順番に書かれている普通の家系図を見ても、自分にたくさんのご先祖さまがいるということ、実感できません。しかし、自分から始めて古い時代にさかのぼっていく逆三角形の家系図を見ると、その関係がよくわかります。

あなたがそこに実在しているということは、必ず二人の父と母がいて、必ず四人のおじいちゃんとおばあちゃんいて、必ず八人のひいおじいちゃんといひいおばあちゃんがいるわけです。いかに、あなた自身のご先祖さまがたくさんいたかが、わかります。そのご先祖さまたちの炭素が、秋田杉の材鑑の中に入っているのです。

最近、「国産材を利用しよう」などということをよく言われますが、なぜ国産材の方がよいのかというと、答えは簡単です。国産材の方がわれわれの炭素〔先祖さま〕が入っている量が多いからです。

炭素〔人〕は、死んで空気中に飛散し、それが光合成によつて炭素〔植物〕に生まれ変わる。穀物のように、動物に食べられることによつて炭素〔動物〕に生まれ変わるものもある。炭素〔草食動物〕が炭素〔肉食動物〕に変わることもある。さらに炭素〔木材〕のように、地上に長期間固定されたのち、元の炭素循環の輪の中に還（かえ）っていくものもあるということです。まさに、炭素は輪廻（りんわ）転生（てんしょう）しているわけです。

人類どころか、炭素の循環によつて、生きとし生けるものはすべてつながっています。最後に木はえらい、すごい、深い、ということをとめとさせていただきたいと思います。

木材に対する理解をちよっとでも深めていただければ幸いです。

（ホスト 能代RC）

◆本内容は、『北羽新報』に連載中の「ちよっと知りたい木のはなし」より、抜粋・再構成して講話したものです。

できないことを、その辺のぺんぺん草がいつも簡単にやっているわけです。

木はもつとすごい。ブドウ糖から、繊細で複雑な細胞構造をつくりまします。金型があるわけではないし、電気を使うわけでもありません。ガスのような熱源もありません。それなのに、電子顕微鏡でしか見えない微細で精緻な構造物を、間違えることなくつくり出しています。こういうものを見るたびに、「木は偉いな」と思います。

木はブドウ糖、つまりC（炭素）とH（水素）とO（酸素）の化合物から、このようにきわめて複雑な材料をつくるのですが、さらにすごいのは、その材料が何百年もの驚異の耐久性を持っているということです。これはすごい、としか言いようがありません。

木材の業界では、白い部分を夏目、濃い部分を冬目と呼んでいます。「夏目」というから夏にできるように思われますが、夏目は春から夏にかけてで、「冬目」は夏から秋にかけてでまします。冬になると、細胞分裂しているような余裕はありません。落葉樹なら葉っぱを落としてしましますし、常緑樹でも細胞分裂しているような余裕はなくて、言ってみれば冬眠しているような状態になります。

樹木が生きていることは事実です。葉っぱは生きています。根つこの先などは生きています。ただ、それ以外の、樹幹の部分は、実はほとんど死んでいるのです。このことをわかっていない人が結構多くて、驚くことがよくあります。

心材部は、全部死んでいます。白い辺材の部

分、これもほとんど死んでいます。生きてるところは形成層（毎年毎年細胞分裂するところ）と、上からの栄養を流してくる内樹皮の部分、それに辺材の中にある「柔細胞」と呼ばれる部分だけです。あとの細胞は全部生命活動を停止している、つまり死んでいるのです。

人は死んだら炭素になります

ここまでは科学の話だったのですが、ここから先は、半分宗教のような話になります。ロータリアンの方は、ユーモアを理解できる方が多いと思うので、「信じるか信じないか」の話ですが、お話ししたいと思います。

私たちは空気中のCO₂を、固定した樹木を製材や木質材料にして建築物を建てたり、解体して再利用したりしています。これらはいろいろ

るな過程を経て、最終的にはCO₂となって空気中に戻ります。こうして炭素が循環しているわけですが、実はわれわれ人間自身も、この炭素循環の中にあります。

人の体の中に炭素原子が何個あるかご存じでしょうか。炭素は原子番号が12ですから、一二^gで一アボガドロ数個あります。アボガドロ数とは、約6・02×10²³の二三乗個です。ものすごい数があるのです。炭が一二^gあると、その中にこれだけの数の炭素原子があるわけです。

人間の体重の一八割が炭素ですから、体重五〇^{kg}の人の場合、五〇×〇・一八〇九^{kg}の炭素が入っています。九^{kg}は一二^gの七五〇倍に相当しますから、この人の体の中には七五〇×六・02×10²³の二三乗個の炭素原子が存在するということになります。ものすごい数の炭素原子が、一人の人間の体内に存在しているわけです。

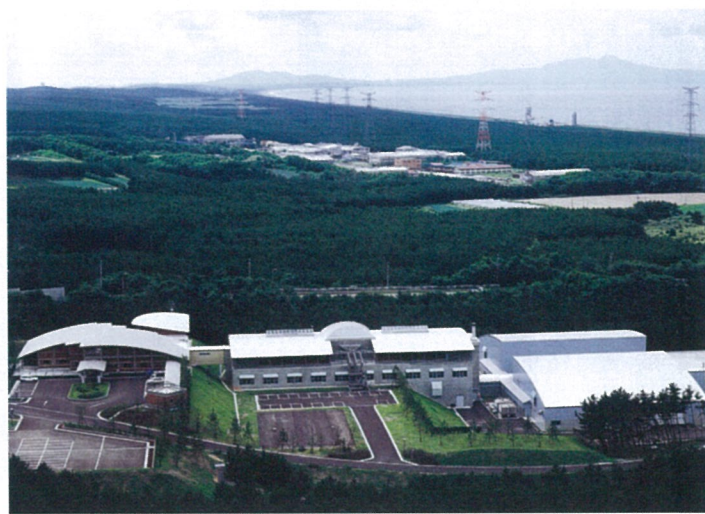
人体を構成していたものすごい数の炭素（人

■秋田県立大学木材高度加工研究所
所長兼教授

林 知行



一九五二年大阪府堺市生まれ。
八二年京都大学大学院農学研究科博士課程林産工学専攻修了（農学博士）、同年農林水産省林業試験場（現森林総合研究所）入所。以降、集成加工研究室主任研究官、接合研究室長、構造利用研究領域長、研究コーディネーターを経て、二〇一三年三月退職。この間、バジニア州立工科大学客員研究員、東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻連携併任講座助教授などを務める。木構造振興（株）客員研究員を経て、一三年八月、秋田県立大学木材高度加工研究所教授。一四年四月、所長。現在に至る。著書『プロでも意外に知らない「木の知識」』学芸出版社、二〇一二年など。能代ロータリークラブ会員。



写真提供：林知行 木材研究の最先端、秋田県立大学木材高度加工研究所

若い人たちは、木を伐って使うことが環境破壊だと教えられて育ってしまいました。秋田県立大学で授業をすると、「先生の話を聞くまでは私も環境破壊だと思っていました」という学生の感想が返ってきます。

実は、地球環境のため、人類の生存のためには、むしろ木を伐って、使わなければならないのです。

産業革命以前の地球の状態は、二酸化炭素が今ほど濃くない状態でした。ところがそれ以降、人類は石炭とか石油などの化石燃料を掘り出して燃やしてしまいました。その結果、二酸化炭素の濃度が増えています。このため、いろいろな問題が生じているというのが現状です。

二酸化炭素の濃度を下げるためには、空気中の二酸化炭素を地上に固定してやればよいのです。もちろん、固定する時にエネルギーを使ってしまうって意味がありません。

最も効果的に固定する方法は何かというと、植物の光合成を利用することです。植物の光合成というのは、小学校で習ったように空気中の二酸化炭素（CO₂）を取り入れて、酸素（O₂）を放出しているわけですから、残りのC（炭素）はどこに行ったのか、という話になります。Cは光合成を行った植物そのものに形を変えています。ここが非常に大きなポイントです。樹木もコメもイモも、原料は空気中の二酸化炭素と地中からの水です。多くの人は、土壌中の栄養分が形を変えて、こういうものになっていると勘違いしていますが、そうではなくて、二酸化炭素と水が原料です。

植物には草本と木本があります。草本は、枯れて、すぐに二酸化炭素に戻ってしまいます。コメとかイモのような炭水化物は、われわれがエネルギー源として食べて、われわれの体から二酸化炭素として、空気中に出て行ってしまいます。

一方、木本は炭素を固定したままです。木が増えれば増えるほど、二酸化炭素は吸収・固定されます。だから木を植えましょう、植林しましょうということになるのです。

ただし、一つ問題があります。森林というのは若いうちは頑張って炭素を貯留しますが、ある程度の歳（とし）になってくると貯留能力が頭打ちになっちゃってしまい、それ以上、炭素を固定しなくな

ってしまいます。

ではどうすればよいのか。答えは非常に簡単です。伐ってやればよいのです。一部分を伐ってやれば、余裕ができた森林は、二酸化炭素を再び吸収できるようになります。よしんば、たとえ全部丸裸にしたとしても、木を新たに植えてやれば、それはそれで二酸化炭素を吸収しながら育っていく、ということです。

ただ、伐ったものを簡単に腐らしたり燃やしたりしてしまえば、それは意味がないので、伐ったものを木造住宅、あるいは家具などに形を変えます。そうすれば、木材が木材である限り、二酸化炭素は炭素として固定されたままです。

一部の途上国のように、原生林をむやみに伐採することなどは論外ですが、日本のように緑が豊かな国では「上手に木を伐って上手に使わないといけない」のです。

樹木では生きている部分と死んだ部分が共存

植物は、光合成によって空気中の二酸化炭素と水から、光のエネルギーを使ってブドウ糖をつくっています。普段われわれはあまり考えもしませんが、これは実にものすごいことです。

何がすごいと言いますと、どこにもある二酸化炭素と水を原料にして、それを、どこにもある光のエネルギーを使って、生物世界の根源であるブドウ糖をつくっているということです。これは動物であるわれわれ人間には、絶対できない芸当です。全人類の英知を集めても



写真提供：林知行 山々には秋田ならではの豊かな美林が広がる

いう有識故実研究家が、思いつきで言い出したらしい、ガセネタです。理屈が非常にまことしやかであったために、この話が一〇〇年以上も語り継がれてきたわけです。

事実として、校倉の壁は開閉などしていません。また大昔の建物ですから、もともと機密性は高くなくて、壁が開閉しなくても他のところから空気は出入りしています。それに、三つの倉のうち、真ん中の倉は板を普通に重ね合わせた板倉です。もし、先の説が正しければ、中倉の宝物はボロボロになっていないとおかしいわけですが、そんなことはありません。

では、宝物がなぜ長持ちしたのかというと、校倉の壁があつたからではなくて、木材で囲まれた状態に宝物が置かれていたからです。

よく知られているように、木材には湿度調節機能というすばらしい特性があります。さらに宝物がスギの唐櫃の中に入っていたので、二重の湿度調整機能が働いて、湿度の変動が非常に少なかったわけです。校倉自体が高床式ですから、地面からの水蒸気が遮断されていたということも、長持ちした理由でしょう。

木は伐つて 使わなければならぬ

このように、樹と木に関する間違つた知識が世の中に氾濫していますが、今まで述べたようなものは、大した間違いではありません。われわれが見過ごせない最大のガセネタが「木を伐つて使うことは環境破壊だ」ということです。

ちょっと知りたい 木のはなし

樹と木に関する間違った知識が世の中に氾濫しています。中でもわれわれが見過ごせない最大のガセネタが「木を伐って使うことは環境破壊だ」です。木材が木材である限り、二酸化炭素は炭素として固定されたままです。だから「上手に木を伐って、上手に使わないといけない」のです。

秋田県立大学木材高度加工研究所所長兼教授

林 知行

Tomoyuki Hayashi

年輪の広さと 方角は無関係

「木の年輪幅は南側が広い」と、子どものころに教えてもらいました。山の中で道に迷ったら、木の切り株を見なさい、年輪の広い方が南側だと。これがホントかどうかなのですが、切り株を見てみると、年輪の広い方角はまちまちです。つまり、この説はデタラメであることがわかります。皆さんのお子さんやお孫さんにこんなことを教えると、山の中で命を落としてしまう可能性があります。

何でこのようなウソをみんなが信じ込んでしまったのでしょうか。恐らく、次のような理由からだと思っています。

「陽当りの良い南側に植えられた木の成長は早い。逆に陽当たりの悪い北側に植えられた木の成長は遅い」。これは事実でしょう。ところが、われわれは、ここからいきなり論理を飛躍させてしまうのです。「南側の木がよく育つ」ということから、「一本の木の南側もよく育つ」、つまり南側の年輪が広くなると思い込んでしまふのです。

論理の飛躍というか、甚だしい勘違いをして

いるわけですが、それに気が付かないのです。光合成によって葉でつくられた栄養は、木の上から下へ降りてきます。ただ、水道管のようなところを一直線に降りてくるわけではなく、拡散しながら降りてきます。また、木の幹もねじれたり曲がったりしています。ですから、たとえ南側で栄養がたくさんつくられたとしても、それが南側に偏ってしまうということはありません。結局のところ、年輪の広さと方角は無関係です。

次に、幹に耳をつけると樹液の流れる音が聞こえるのかどうか。根から吸い込まれた樹液は、樹皮に近い辺材の部分を通って上がっていきませんが、その速さは、スギだと夏の一番蒸散の激しい時でも一時間に二〇センチ程度、時速二〇センチです。こんなスピードですから、音が聞こえるはずがありません。聴診器を当てると、何らかの音が聞こえてくる可能性はあります。ただそれは、樹液の流れる音ではなく、何か別の音だということです。

校倉造の壁の通風説について、皆さんも小学校か中学校で教えられたと思います。「奈良の正倉院の校倉の壁は特殊な断面をしていて、外が湿って梅雨のような状態の時には、水分を吸った木が膨らんで隙間がなくなり、逆にカラカラに乾いた天気の場合には、縮むので隙間ができる。この結果、風通しが良くなって、宝物が長持ちしている。こんな素晴らしい構造を考え出した昔の人は偉い」

ところが実はこれもよくできたウソだったのです。江戸時代に藤貞幹（とうていかん 一七三二〜九七）と

SPEECH

2月は世界理解月間です
2月23日はロータリー創立記念日です

THE ROTARY-NO-TOMO

ちよつと知りたい木のはなし 4 81

■秋田県立大学木材高度加工研究所所長兼教授 林 知行

シリーズ わがまち……そしてロータリー 9 76

新旧が入り交じり「住んでみたい街」の上位に

神奈川県 川崎市

文・宮本 貢 写真・水村 孝

友愛の広場 13 72

ところ変われば

鹿児島西 古木 圭介

青少年交換学生たちの成長をこの目で

花巻南 湯川 英機

メイクアップ・イン・ロンドン

東京王子 松下 真理

メッセの結婚

福岡 洋子

女王陛下に幸あれ

白杵 丸岡伸比古

発作で倒れた人を介抱して

東京八王子南 坂本 俊雄

米蘭故城の美しきストウーパ

東京武蔵村山 見延 壽昭

●バナー自慢

卓話の泉 18 67

お菓子物語

津北 伊藤 友治

最近の消化器外科手術

椿原 秀明

少年法と少年友の会

浜松 鈴木 敏弘

ロータリー 俳壇 20 65

◆稲畑 汀子 選

ロータリー 歌壇 20 65

◆佐佐木幸綱 選

ロータリー 柳壇 20 65

◆てじま晩秋 選

ロータリー・アット・ワーク 22 63

ボランティア見本市で
盲導犬体験事業

川口モーターリングロータリークラブ

〈写真〉神埼／2730ジャパンカレントロータリー

Eクラブ／別府／東京新宿／臼杵中央／

東京豊島東／佐久／鹿沼東／甲府北／京都洛西／

川崎幸／古川東

ポリオ撲滅PR in しまなみ海道

西尾

ジョギングクラブ 能古島で練習会

第二七〇〇地区ロータリージョギングクラブ

六クラブの思いを一つに実行 第二五二〇地区第九グループ

走る人、支える人にもありがとう

中村

サンパウロFC友好カップサッカー大会

最上

ロータリー野球教室

西条

「カトリック」開催

俱知安

地元福祉施設の高校生交流会を支援

津

観月俳句会

平戸

阿波人形浄瑠璃見学の旅

本巢

●内外よろず案内

表紙のメッセージ 岡井 耀毅 31 54

表紙 横組み 「空高く跳ぶ豪快なジャンプ」 千野 哲男（二六〇〇 上田東）

縦組み 「歓迎」 渡辺 道雄（二五七〇 鶴ヶ島）

表紙題字 加藤 光峰

表紙レイアウト 箕牧 彰

●横組みの目次は、反対側の表紙を開いた4～5ページにあります。
●本文・写真などの無断転載・複製を禁じます。



ポリオのない世界まで あと少し

子どもたちが、ポリオによって二度と体の自由を奪われないよう
今こそポリオを世界から撲滅しましょう。

歴史に1ページを刻むために
募金、認識向上、支援の働きかけにご協力ください。

endpolionow.org/ja



あと少し

Angelique Kidjo



ロータリーの友

THE ROTARY-NO-TOMO FEBRUARY 2015 VOL.63 NO.2

ロータリーの友2月号 第63巻 第2号
平成27年2月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻746号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 一般社団法人ロータリーの友事務所

2
2015



SPEECH ———

ちょっと知りたい木のはなし

林 知行

わがまち……そしてロータリー

神奈川県川崎市

Rotary 